253

259

始

253-259

澁谷義夫著

教師の作業

東京 目黒書店發兌

大正
12. 5. 5
内交

序

私は久しい間教育學を學び教育に關係のある書物を見て來たのであるが、實際教鞭を執つて兒童に向ふことは未だ滿二年にしかならぬ。然し此の二年の間に私は尊い感じを得た。それは小學校教育の實際が如何に困難なものかと云ふ事である。學窓から或は書物を通して、雜誌を通して眺めた小學校教育の世界と、實際小學教育に當つて眺めた世界の隔りの大きなのに驚いた。私は書物の上では小學校教育の實際が如何に樂しいものかと想像して居た。而も實際教鞭を取つて以來二三ヶ月は實際其樂みを恣にした。けれども事務の多い小學校では讀書が出來ず、よく考へて實際的試をやることが出來ずさて小學校の教師はどんなことをしたらよいものかと迷ひ出したのである。殊に自由教育、プロジェクトメソッド、自學自習主義ダルトンプラン等云ふ種々の教育說なり教授方法上の試みが多く唱へられるに當つて愈々迷ひ出した。私が五十幾人も居る高等科一二年の複式學級で國語を持つた時甚だ不安を感じ迷ふ事甚しかつた。一體教師はど

うしたらよいのか？教師は何を爲すべきか？此の問題を考へて少なからず煩悶したのである。殊にかく多人數居る組で新しい教育説に基いて新しい方法を作り之を試みるのにはどうしたらよいか？プロジエクトを行ふのにどうしたらよいのか？ダルトン式にやるのには如何にしたらよいのか？此等の點について一自分の經驗なり考を加へて教師の爲すべき事柄は一體どんなことであるかと思を千々に碎くのであつた。けれども普通の學級で世間普通の教師としてはどんなことをすべきものかと云ふ事すらよく分つて居ない私には非常に苦しい仕事であつて一つも滿足し得る實際的解答は獲る事が出來なかつたのである。嗚呼私は世間普通の教師としての價値はないのか？資格は無いのか？普通の教師の作業すらよく分らぬのにどうして私に新しい試に於ける教師の作業が理解し得よう！殘念ながら私には薩張り分らぬ。新しい教育説、新しい教授の方法！私は之を追求すること切なものがあつたが、扨て「汝の實際は」と問はるゝ度に何にも分らぬ私は平凡な誰しも心得ねばならぬ教師の作業を訪ねなければならぬのであつた。扨て教師は何を爲すべきものか？傳統的な仕方で教壇の上に立つて聲

を張り上げて話し或は讀んで居ればよいのか？兒童の身心の發達をより經濟的に、より完全にするのに、それでよいのか？かく考へて居る時幸にもDavisと云ふ人のThe work of The Teacherと云ふ書物が丸善から屆けられた。私は急いで之を讀んだ。これによつて迷つて居た私に一道の光明は與へられた。なるほど教師は此のやうなことをすべきものかと漸く分り我が國で、我が校で私がやるとすればどんなことをすべきものであるかと云ふことも漸く漠然ながら分つて來た。それで私の考を明瞭にするため、ダビス氏の立てた樣な綱目に從つて私の考へた事、實際やつて居る事を配當して見た。之が即ち本書なのである。それで其内容にはThe work of the Teacherの中にある事を其儘持つて來た樣に思はれる所もあらう。けれども私は自分の實際やる作業に關係ある部分を了解した積りで持つて來たまでゝある。かくの如く私は人の言つた事を參酌せねば自分のやつて居ることすら明瞭に述べ得ぬのである。高遠な教育の原理崇高な教授の方法等は私にはよく分らぬ。教育の原理について深く學ばんとせらるゝ士は高等師範なり大學の然るべき先生について學ばれるか、或は幾多斯界の名士の著を漁られよ。所謂

新しい教授の方法とか教授の原理は四高等師範の然るべき教授訓導諸氏にきかれよ。私は唯私が普通の教授者學級擔任として爲すべきことはかくの如き事項なりと教へられた其儘を此處にのべたまでである。淺學韮才な私が暇も無い僻に井上洗耳氏に奬められる儘敢て本書を公けにするは越權である。暇の無い身であるから文意の通らぬ所も其儘にしたかも知れぬ。校正漏れして誤字其儘の所もあらう。之等は讀者の深甚な御同情に依つて御教示に與らんことを切望する。更に私の考へに於て誤つて居る所があるならば何卒御教示に吝ならざらんことを切に祈る次第である。

大正十二年三月三十一日

著者

教師の作業

目次

第一章　教育とは何ぞ……一

一　究極の目的を研究することが必要……二

二　一般的目的は教育を比較する上に有用である……四

三　目的の研究が實際を導く……六

四　一般的目的は近付くべきものであつてそれによつて置きかへられるものではない……一五

第二章　研究の對稱としての兒童……一七

一　兒童研究の必要……一七

二　兒童研究に參考となる注意……一九
三　兒童共通の特性……二六
四　個人差に付て觀察せよ……三六

第三章　教師の學科課程に對する關係……五〇

一　學科課程の意味……五〇
二　問題としての學科課程……五一
三　學科課程の一般的內容……五二
四　生物學的要素に依りて決定された學科課程の內容……五三
五　學科課程はたえず變化して居るものである……五五
六　教科課程の變化は漸進的である……五六
七　授くべき教科が增せる爲め教科選擇の問題が起つて來た……五八
八　學科課程の特殊な變化が或る物を省き或る物を附加せしめる……六〇
九　新教材に對する保守的態度と進步的態度……六三

一〇　陶冶を目的とした文化的教科課程と職業的教科課程……六七
二　「準備」と對立する「現在」の必要(問題的教科課程)……七二
三　教科課程批判と教師の關係……七六
三　教師と地方的教材との關係……八一

第四章　教師と學校の外的諸要素との關係……八五

一　學校と云ふ環境にある固定した要素……八七
二　教辨物……一〇五
三　日々の時間割と其の管理……一二三
四　兒童の衛生に關し教師の責任を負ふべき程度……一四二

第五章　管理及び道德的訓練……一五一

一　管理及び道德の意義……一五一
二　學校管理の目的……一五二

三　訓練を破つたり道德的なことをずるけてやらぬ原因……一五七
四　道德的ならしむる上の要領……一六八
五　諸種の刺戟について……一七五
六　兒童の自治……一八八
七　訓練上の矯正手段……一九六

第六章　教授——新教育に於ける教材指示……二一〇

一　教師の有する教授力の尊重……二一〇
二　教授、課業、の語義に付て……二一一
三　課業の分類、割當(指示)學習、暗誦(熟達)……二一二
四　教材指示は何を爲すべきか……二一三
五　課業割當の形式に關する疑義……二一九

第七章　教授——暗誦……二三三

一　學習なくして教授なし……二三三
二　暗誦の目的……二三七
三　暗誦を有效ならしむる根本的の條件……二三九
四　發問の方法……二九一
五　說明材料の使用……三〇九

第八章　學習時限……三二四

一　學習とは何ぞ……三二四
二　學習の基本的條件……三三六
三　學習時限を有效ならしめる上の注意……三四八
四　學習に際し主な精力浪費となるべきことを除くこと……三六二
五　學習時限に於ける教科書の使用……三七〇
六　兒童が學習上どこに困つて居るかを見付けること……三七六

第九章　學校作業の測定……三七九
一　測定の必要……三七九
二　結果測定の必要……三八一
三　測定さるべき教育的結果……三八三
四　學校作業の自己評價……三八六
第十章　出席簿、成績書類、報告書に付て……四一五
一　一定の出席を必要とす……四一五
二　出席に對する父兄の責任……四一六
三　出席に對する兒童の責任(道草)……四一九
四　出席を促す上の手段……四二一
第十一章　教師と教育的統計……四二四

一　教育的統計の目的……四四三
二　正常な分布曲線……四三七
三　正常分布曲線の利用……四四一
四　教師の心得置くべき統計的方法……四四二
第十二章　結　論……四五五

目次終

教師の作業

澁谷義夫著

第一章　教育とは何ぞ

教育の諸說を見るに議論は大體教育の必要なる理由卽ち目的と、教育とはどんな事をする事かと云ふ教材の本質に關する議論と如何なる方法で學校は其仕事を爲すかと云ふ方法の問題に關する議論に分析することが出來る。今私が玆に述べようとする所は主として此の方法に關係することで、大多數の教師が毎日毎日行ふ活動に關するものである。世には教育の目的を論ずることは哲學者に讓り、學習の課程に橫へられる如き教材論は教育行政家に一任し、貧弱なる教師は心

を常に方法及び管理の問題に用ふべきものであると云ふものもあるけれども、其何れの部面と雖も「目的」(理由)に關係付けず又、教育の主體たる生徒、教育の材料(教材)に關係付けずしては充分の意味を持つものではないのである。それで此等の諸部面に通曉して置く事が教授の第一義なるが故に、其一通りの理解は教場に於ける教授自體と同樣、教師の作業の不可分の一面である。故に本書に於ては此の理由で第一章より第三章までの間に於て此等の諸點に觸れようと思ふ。

教育の目的は究極の目的卽ち一般的目的と、直接的目的卽ち特殊的目的に區別することが出來る。大抵の教育的目的は、私が教育に付て論ずる限り一般的である。直接の教育の目的は教場に於ける教師が、其時間の目的として意識して居るものを云ふのである。卽ち或る學科を教へるに當つて、特殊な能力を發達さすとか、文章の一節を暗誦さすとか、公式の一部を記憶さすことを云ふ。

一　究極の目的を研究することが必要

教育の目的に就ての一般的の說き方は、人がよく組立てた教材と云ふものを考

へ始めてから說かれた。目的がなければ課程は盲目的に行はれるものであるから誰か指導せねばならぬ。專制的に治められて居る社會に於ては、政治上の指導者のみが教育の終局目的に關係し得るのみである。民本的な社會に於ては、萬人が完全なる市民たらんが爲めにする準備を爲すに當り、達すべき終局の目的に興味を持つて居なければならぬ。哲學者又は指導者は教育上の目的を設定するであらう。然し如何なる悧潑な教師でも此の注意すべき研究を、非常に緣遠いものとし、餘りに抽象的なものとして此等の議論に注意しようとせぬ。それで一般的な大きな教育の目的の判らぬ教師は知ある人間と云はれぬ。自治の國民とは稱し得ぬ。

教授の方法や、考察や、教材の單元は、日々の仕事や、一學期中の仕事としては如何に重大に見えても、學校の作業の最後の結果の方がより重大な意味を有して居るものである。教師が、熱心に「如何に教ふべきか」を實際に語るであらう或る事柄を見出さんとして、研究を始めるならば、時としては余りに理論的であると考へられるやうな教育の廣い大きな部面を取扱ふ講義とか書物の章節に勝へられぬであ

らう。然しかゝる教師に、時々教育の一般的目的を正確に論じた簡單なものを研究するやうに強ふる事は意義ある事である。彼等は其結果、其日常の學校生活に於ける活動に、如何に多くの意味が附加せらるかを見て驚くであろう。

二　一般的目的は教育を比較する上に有用である

從來教育に述べられて來て居る教育の一般的目的は非常に明瞭にされて居るが故に現代の學者が解釋せる教育の目的と比較研究することは、教育の實際に對して自信を與へ、研究を進めしめる所以となる。而して一般的な名稱となつて居るものを調べて見ると、理想の相違とされて居るものは皆單に發表の相違なりと云ふことを知ることが出來よう。かのプラトーの云つた言葉「良き教育は身體及び精神の總てに可能なる限りの美と完全を與へるものである。」と云ふのは述べられた時代と同じく眞である。然し夫を廣く解して或る近代的科學の目的の如く特殊のものとすることが出來るとは雖も、確かさを缺いて居るのである。完全な生活、調和的發達とか、道德的品性と云ふものは、夫が論理的結論とか又は究極の

點に關係して居る限り、調整とか、社會的能律と同樣に働くものである。

かく無限に特殊の地位に適用し得べき具體的意味を與へる樣に說明することの出來るものはこの一般概念である。此の道德的品性なる語に特殊の解釋が與へられて居る爲めにヘルバルト派の目的は、假令夫に現在認められて居るが如き他の總ての價値ある目的を包含して居ても、一方に偏して居るやうに思はれる。通常用ひられて居る能率の觀念や、一寸かぢりの能率觀では、いくら其言葉を使つても、其意味がないのである。其時代に役立つ社會的能率と云ふものも、速かに捨てられるやうに思はれ、實際に役立たなくなり、豫備として藏められるに到つた。一つの教育的目的は特殊の內容と關係する時には最も大きな價値を得るものであるが、具體的な言葉で云はれた目的であればそれが何であつても、廣く然も長く認められるものではないのである。けれども教育の目的が一般的に抽象的に述べられるならば、其適當な用方は一方にかたよつたものとなり、許される範圍は制限されるとも、とにかく其意味を指示することとなるのである。特殊の意義を含んで居る教育の目的の一般的な述べ方は、教師に價値ある經驗を與へるものと云

ふべきである。

三　目的の研究が實際を導く

時として教授者は其仕事の計畫を略んど持つて居ないと云ふことが云はれ、或は教授者が好める方面すら、略んど見得ぬこと程機械的になつて居るとさへ云はれて居る。其上教場では教師は、一定の算術の分量や、讀み方の分量を教ふべしと責めつけられる。教場で一齊教授をする所では細目によつて几帳面に一定時に一定の分量をやる樣に定められ、個人指導とか、自由教育と云ふ樣な形式で教授し先生もやはり一定の分量を教ふべきものとして要求せられて居る。然も此等の居る教師は、自己の教授の結果が如何に生徒に影響を與へたか、何が故にかゝるものを教ふべきかと云ふ事に就て、考へる暇も與へられない位忙しい。一體教師と云ふものは自分のやつて居る仕事の大部分に就て、他の職業に從事して居る人よりも、智識を持つて居る事が少ないのであろうか？否、其實から云つても、教育を受けし點から云つても、社會の他の職業に從事するものより優れて居る。唯教師

は充分に廣く職業と云ふものに付ての概觀を爲し得る樣に教育されて居らぬまでである。只教師と云ふ兵卒が許されて居る事實は小心翼々としてよりよいことと云はれて居るものを遂ふのみである。

思慮ある教師は已れの爲しつゝある仕事の意味、即何故と云ふ理由に付て斷えず疑問を起すのである。然し教へることが電車の軌道を走るが如く、二十年一日の如くに常套的なことをする教師や、自分自から教授をしたり、眞劍に教へることの出來ぬ教師は問題外である。眞の教師の考へは常に次のやうな問題に對する答のみ研究すべきものとは限られて居るものではない。即ちどうして此の級の兒童に分數の加算を教へたらよいか？三年生の兒童に如何に多くの言葉を一分間に教へることが出來るか等と云ふ問題を研究することに限られて居るものではない。又五七五の語文や七七の調の新體詩を記憶さすに最も經濟的な方法はどんな方法か等と云ふ問題についてのみ研究すべきものとは限られて居らぬ。かくの如き問題は、結局既に多く研究されて決して居ることであつて殘つて居るにしても容易に答へられ得るものである。解決は教師が已れの兒童に對する努

力如何に依つて決する。然し何が故に學校は存するか？算術や地理や綴方の一定の分量を教へると云ふことに附加して、夫を研究せしめる意義はどうか？或る子供は學校の提供する教材について少しも興味を起さぬのに、何故に私はその子供をして、いやな學科に注意せしめなければならぬか？殊に少しも自分が教はらなかつた學科を教へたり、正しいとも考へぬやうな學科を教へねばならぬのか？假令私が其學科が自然的のものであり、必ず課せねばならぬものと認めなければならぬ地位にあるとは雖も何故そんな矛盾を感ずるのであるのであらうか？

此の樣な特殊な問題を考へる前に二三私は教育の目的に就て述べて見ようと思ふのである。此の特殊の問題はやがて後に述べるであろう。此の特殊の問題は多くの教師をして、目的が一番よく教師の見地を利用する事を容易ならしめると云ふ事を示すのである。大きな見解を持つて居る教師は背景及び目的を持つて居る。かゝる教師は諸種の方法や、計畫や、訓練の手段や、學科の單元や、喧ましく云はれて居り、其價値を論議して居る教育的流行の眞價を批評する基礎を持つて居るものである。かゝる教師は規則の末節に從はないで、原理より行動し得る自

由を得た教師である。教育は種々に認められるが私は先づ四つの方面から教育と云ふものと認めるのである。其一は教育は社會的文化を傳達する手段とし、其二は自然化の手段として、其三は廣き興味を發達せしめる手段として、其四は社會的能率を發達せしめる手段として教育なるものを認めるのである。かく云つても其意味は分らぬから逐一尙少しく說明をして置く。

(一) 教育は社會的文化を傳達する手段として認められる　社會的制度としての教育は、或る時代の人々が其を繼承する次代の人々の生活に、其時代の文化の生命ある要素を得せしめんとする方法だと定義することが出來る。

學校を社會的文化を傳達する特殊の機關であると考へることは必要なことである。卽ち文化と云ふ遺產を傳へることなのである。遺產とか遺傳と云ふ觀念は旣に諸君の熟知されて居る所であらう。諸種の技術や、理想や習慣が、學校や家庭を通して次代から次代へ手渡しされて居ることよりも確かなことはなからう。

讀むことを學ばず、よき文學や意味に興味を持つべきを習はず、正直であり勤勉である事を學び得ざりし個人は、社會的遺產を受けて居らぬ爲め諸種の業に從ふ

も貧窮に陥る。加算すること、字を書き文を綴り、唱歌を歌ひ、畫をかき得ること、一生懸命に働き、忍耐し、禮儀深くあり、公正な心を持ち、直正であり、靜淑にすること、善い事柄や話や、麗しい景色を好むこと、滑稽な氣分を得たり、同情したりすること、此等は人が社會生活を營み社會の一人として生活する爲に必要なことであるが、皆生得的に得たものでなく、社會の文化的所產の一部として見なければならぬ。然も此等は各時代ともに學校に於て、受くべきものと豫想されて居るのである。此の見地から見ると教師の作業が如何に大きなものとなることであらう！又學校で諸種の授業をする人間は此の遺產を充分によく持つて居るものでなければならぬと云ふことも明になるであらう。

（二）教育は自然化の手段として認められる　我等の仕事を認むべき第二の有要な方法は、教育を自然化の手段と考へることである。此の詩的見地は我が國へ學ぶべき多く有しつゝ歸化した外國人と、我が國民の子供と比較して見たら容易に見出すことが出來るであろう。赤子の方が歸化人の想像するやうな意味よりも、其社會では多くのものを持つて居る。歸化人は日本語を學ばなければならぬ。

し日本の習慣、道德、理想、技術、態度、社會的標準、責任等を得る爲め努力せねばならぬ。努力する人間には、普通に家庭で育つて行く子供が自分で進んで行くのを知るやうになる事情の下で、自分の日々の生活が豐富になり行くを見ることが出來よう。私が今茲で使つて居るやうな自然化と云ふ言葉の外延は、其人間の文化の廣さ卽ち教育の程度のよい尺度である。一年生の先生が其預れる子供を見る時、其子供が如何に小さく、如何に何も出來ぬかを見るであらう。歸化した外國人が如何に小さくとも、彼等が、世の中で自分獨特の方法で生活し、世の中を家の如く思ふまでに如何に多くのことを學ばなければならぬのであろうか？。未成熟者は大人社會の外國人である。此の外國人をして充分に自然化し、其社會の人間とするにはどうしたらよいかと云ふことは教師の大問題である。

（三）教育は廣き興味を發達せしめる手段である　我等の仕事を認める第三の有要な方法は教育を生徒の興味を發達せしめる手段として考へることである。人が「僕は興味を持つて居る」と云ふならば、それはつまり、其の興味の對稱が價値のあるものであることを示して居るのである。弱い興味を示して居る人は、受動的で

あり冷淡であり鈍感なことを示して居る。又若し或る人が略んど興味と云ふものを有せずして、只二三のものに對する以外のものには、萎けて仕舞ふ位強く、其二三のものに興味を持つて居る時には屢々其人を狹心の人、極端家とか、迷信者、狂信者と云はれる。學校の仕事は、永久に願はしき興味を發達さす事であり、兒童が自己の世界を打ち立てるに必要な材料を多く提供することである。或る子供の興味の程度は其子の、讀んだり、遊んだり、作業したり、樂んだりする事物に依つて試すことが出來るのである。多くの家庭から出る子供は兩親が子供を見る數の少いために、恐るべき問題を提示する。多くの家庭は子供を動物的に滿足せしめるのみで、兒童の知的發達に價値あるものに注意して居らぬやうに思はれる。社會が最良のものとして提供した多くのものは、學校時代に多くの興味を發達さすことを失敗したので、二三のものゝ財產となるに留まつて居る。二十五歲以上の人の性格の缺く可からざる要素となつて居るものゝ中には新しい興味は滅多にないと云はれて居る。

吾等が使用せない財の大多數は、其を使用するに當つて極めて僅かな費用ですむか何も費用のかゝらぬ種類のものである。然し經驗を豐富にするに大に役立つものは、生活の價値を最もよく測定するものなのである。文化夫れ自體は非人格的快樂への訓練として定義せられた。何となれば沒我的滿足夫は如何なる他人よりも決して奪掠を行はぬことを意味して居るのである。雲の形に興味を感ずること、日沒、野に咲く花、星、園藝、集蒐、お噺、今世にある事件、競技、遊戲に興味を持つことは略んど總ての兒童を發達さす爲めに導く可き橫範的な仕事である。

(四)社會的能率發展の手段としての教育　教育の目的に就て第四の然も非常によく認められて居る述べ方は、教育は個人の社會的能率を發展せしむることを目的として居ると云ふことである。此の目的に就て通當に解せられて居る所を見ると行爲に重きを置くのである。そして社會の目的と個人の目的を相反せるものとして居るのである。犯罪人の群とか不道德漢の一團の如きものは非社會的のものである。浮浪人、富んで怠けて居るもの、怠けて貧乏せるもの、其他の社會的の寄生虫、例へば防ぎ得たのに怠けて仕舞つて時を失つたもの、それよりは程度は低いが不熟練な人、その人には必ず浪費が伴ふが、かゝる人の群は反社會的のもの

である。此等に對して如何にして最も經濟的な、優秀な訓練が爲し遂げられるか？如何にせば最も經濟的に彼等を訓練することが出來るか？然し此等は總て、社會的能率を表現するに失敗したものである。

教育に關する此の概念の活潑に了解することにより變化し得べき要素を含んで居る社會的事情や、容易に行爲にまで變化し得べき社會的事情に特に適用する事が出來る。即ち字を書くにしても、正直なる上にも、公正なる上にも、平氣である上に於ても、能率の高まるやうに結果する教育を考へることは容易である。能率が高いとか、有數と云ふ語は一般に仕事を爲すとか、結果を得ると云ふ樣に解せられて居るが、此の語の力は、此の目的を、其最後の社會的價値が最大なる主觀的價値に適用するに困難である。

かく文學を有效に味はしめ、日沒、閑暇、休日を充分に樂しみ有效なる技術を得信心深くなり、禮儀正しくなる樣に、かく教育すると云ふことは教育なる語の特殊な用法を含んで居ると見得る。或る學校は、其生徒の樂しみの爲めに、有效にむれた植物については誇り得るならんも、其有效な背景と云ふものに付ては略んど誇り

得ないのである。此の目的の表面的な理解は同樣に職業陶冶は、文化的陶冶と相反せるものとし、職業陶冶を過重するに到るものである。パンをかち得る價値は容易に賞讃せられ、文學歷史及び語學に關する學科は民族的連帶責任を負はしめるのであるが、其を授けた結果は、屢々介折を輕蔑する。然し世界大戰の壓迫は、狹く教育の實際なるものを熱心に進めしめ、有效にせねばならぬと信ぜしめ、近代のデモクラシイはパンのみが一の必要に非ることを示すに到つた。若し能率なる語に、有效ならしむるものと云ふ充分な意義が與へられるならば、能率なる語は、其作用を充分に果し、結果を成功せしめるが故に、社會的能率と云ふことが、教育の目的の最も優れたものとなるのである。其價値がよし直接に認められ、或は間接に認められるにしても、何人も教育は有效なるべしと云ふことに反對せないであらう。

四　一般的目的に近付くべきものであつて、それによつて置きかへられるものではない

前述の教育の一般的目的に就て約説して見ると教師は此の一般的目的に常住すべしと云ふのではない。此の近づき得べき目的は、哲學者が何を眞なりと云はふと教育行政家がどうであらうとも、兒童の教師が常に其時間の大部分を費して頭に持つて居なければならぬのである。斷えず、教材を毎分どの位授くべきものかを研究し、其價値を考へ、或は彼が爲さしめつゝあることが社會的に有效か否か兒童は興味を廣めたか否か等と毎時間研究して居る樣な教師は誠に、衰れな教師であるでせう。然しながら、教師は彼等が何を爲しつゝあるかを眞面目に考へ、又は其やつた結果を一般的、究極的、標準とか並に試驗とか、口答試驗とか、或は容觀的なスケールとかテストで測定して、其やつた結果を眞面目に考へることは總ての教師に有益のあることである。生徒が何になるかと云ふことは總てを含む大問題である。そして生徒の全生活が其答となるのである。

第二章　研究の對象としての兒童

一　兒童研究の必要

教育過程の中心形態は科學的研究の目的となることが遲れて居た。畫の方の技術では長く子供を一つの記號として取扱つて來た。例へば天使とか、小天使（チェラフィム）とか、羽の生えた形で現はした。十八世紀頃には、小男、小女、又はキユピイの如く大人の衣服をつけさせて畫かれた。藝術に於ける兒童の地位は明に其地位をよく現はして居る。然し兒童を新鮮な血氣に溺れて居る實在として考へられたので、兒童は多少不完全な、其自身では價値ある地位を有せぬ一つの手段となつた。ルソウ及び、自然主義の運動の起ると共に兒童は始めて夫れ自身の權利を現はし得たのである。十九世紀の終り頃には兒童研究運動の初めが現はれ、其不確な結論が吾等に二三の事實を與へたのみである。

科學的に建設された兒童特有の事實は兒童研究に負ふ所であるが、其數は多くない。兒童を同情を以て了解する事が必要であると云ふ事を認むる態度は最近の事で教師の間に非常に強くなつて來たのである。兒童に關しては研究により或は研究の結果出來た記憶に依つて獲られ得るよく調べられた眞理の體形が無い爲に、各教師は、其最も重要なる職業的準備は自已の學級の兒童の研究を斷えずする事に依つて得られることを見出すであらう。學校出の若い教師は、彼等が進んで居る爲めに、不幸にも兒童と無關係であり、何等知的興味を兒童より見出すことなく兒童の能力が豫期したよりも低きに驚き失望して兒童を眺め勝である。最初の印象とか學期始めに作られた最初の印象は經驗ある教師でも誤まられ勝のものである。總てかくの如き生徒に對する判斷は常に改正する要のあるものである。然るに各生徒の能力を豫想して其豫想に對して意見を爲すと云ふ事は避け得ぬ事であるが少くとも生徒を誤つて評價すると云ふことは、其生徒に教師に對する根柢深き恨みを抱かせるものであるから教師に取つては不幸なものである。『今日は次郎に驚いた。今日は實にうまく課業をやつた』と云ふ教授者は

これまで度々見誤つて得て居た避く可からざる印象を反省したものである。此の樣に驚かんとする意志を教師が有する限り其所には危險はないであらう。「次郎には如何なる善も望まれぬ、彼の態度なり作業からは、よいものは一つも見ることが出來ぬ」と盲目的に信ずるに到つた時は、反省して各兒童に善を發見する爲めに神に祈を献げる時である。

教師が何等の指導なくして其兒童を恰恰に、有效に研究しようとするならば失望に導かれる。「其處に生徒が居るであろう、其の生徒を研究せよ」とか「生徒をお前の教科書にせよ」等云ふたとて忙しい教師に何の價値がある！無價値である。以下述べんとする暗示は實際生徒を熟知せんとして作られたのである。其の後によく觀察して得られた兒童の特性と云はれて居るものに就て議論を進めて見よう。

二　兒童研究に參考となる注意

(一)内省　己れの生徒を自分と比較して、其の生徒を評價するのは教師の内省

を用ふるのであると云ふ。『此の命令が私にはどんなに感ぜられるか？』『自分が生徒の時代に、どう云はれたら、此の教材を理解し得たか？』教師が知らない樣な知識を教へられるのにどうして教はつたかを思ひ出し、又教師が今教つて居る子供よりも、或は其子供等の父兄よりもよく本を讀んだこと等を思ひ出して、内省の主なる誤りに陷らぬ樣に警戒せねばならぬ。教師は子供の時には現在の自分の多くの子供の如く出來なかつたのに、他の多くの子供よりもよく發達して遂に先生となつたのであるけれど他の子供は教師となることが出來なかつたのもあろうし、或者は教師となるを欲せなかつたものもあつたであろう。何れにしても教師が其若い時分の經驗から曳き出した經驗は注意して現在の事實によつて壓へる必要がある。卽ち『私が六年生の時代にはかく〳〵の話が好きであつた。かくかくのゲームが好きであつたから此の子供も夫を好むに相違ないと云ふ樣な考へは壓へなければならぬ。實際多くの子供がそれを好むのであろうか？何人もそれを好むか又好まぬか分らない。これは實際自分の持つて居る子供について調べて見ることが必要であらう。

(二) 兒童の質問　初期の學校兒童の質問はつまらぬものゝ樣に屢々考へられて居る。卽ち「なぜ先生風は吹きますか？」「何故石膏は硬いのですか？」「何故私が水の中に指を入れたのに、手を拔いても穴が殘つて居ないのですか？」「私が二階から落るときに神樣は私が落ちない樣にすることが出來るでせうか？」此の樣な質問をよく注意して觀察する人には、隱れた所に兒童のかゝる質問は其智的發達を示して居るものなることを見ることが出來るであらう。かゝる多くの問題を出し、答へるのに困らぬやうな其他の質問を出すやうな子供は、惠眼なる教師には物を探索せんとする能動的なる心性を有する子供なることを示すであらう。此等の追求的興味を滿足さすことの出來ないのは子供の活動の機會を無くしたのよりはもつとひどい失敗であつて人間の資料を無駄に使つたのと同じである。兒童の活動は學校で屢々よくやる樣に責められ良く行はしめぬならば正當に批難して差つかへない。兒童後期の質問は其僚友を困らすやうなものを喜び若し彼等が先生を捕へ得るならば非常に喜ぶのである。强く興味を感じた生徒はよく其思想を伸ばしたやなう質問をする。實に兒童の質問を堪へず綴つて置くならば、兒童

の心的年齢の早見表を得ることが出來るであらう。

(三)學校に於ける兒童の活動　學校と云ふ集團の一成員としての兒童は學校と云ふ境地を離れた同じ子供よりも教授實際家の研究には有功な研究の目的物である。心理實驗室へ一又は二三人の半分驚いて上つて仕舞つて居る子供を導いてした實驗は常に教場で生徒が現はして居る無限の要素を捨てゝしまつて居ると云ふ結果を持つて居る。かくの如き觀察は學校兒童に基いた觀察ではない。學校で子供はどんなお話を聞いたり讀んだりするのが好きか、どんな歌がすきか？どんな畫を學校で畫きたいか？どの課業が一番好きで何の課業が一番嫌いか？自分の研究して居るものに付て何故そんな事を言ふか？自分の好きな學科には最善を盡すや否や？お話に於てはどんな缺點があるか、綴方では？圖畫では？算術では？生徒は運動場では人に從ふか？又は指導者(リーダー)となるか？彼は正直で、快活で邪ではないか？彼はどんな種類の辯解をするか？此の樣な質問の答を觀察して生徒に對する教師の態度を變更すると云ふ事は有意味なことである。

(四)兩親及び家庭に於ける環境　兩親の研究は彼等が學校に送つて居る兒童の

上に間接ではあるが、兒童を明す光明を送るものである。惡い家庭から來る不幸な子供は家庭が學校に送るものである。良い家庭から來る其の中のよい友達は其家庭が其基礎を作つて居るので、最も成功せる學校でも決して發達せしめ得ぬ理想態度、習慣作法を其性格の中に既に體して居る。餘り極端な例ではないが典型的な五年級の例を取つて對照して見よう。

次郎と云ふ兒童。父は文盲で一字も讀めぬ。一日に十時間以上非道い肉體勞働をやり特に低級な話を好む。母はやつと拾ひ讀みすることが出來るが然し家の管理は下手である、兩親は寺へ行くでもなし講演も聞かず畫も見ない。家庭には本や新聞とては少しも備へつけない、兩親は二人とも馬鹿正直で、只肉體上の極限られた知識と多勢の子供のある大家族を維持するに必要な心的知識を持つて居るのみである。母の家庭の監督は弱く、神經病的に變り易く、或る時は執念深く或る時は感傷的に緩く子供を取扱ふ。父の態度は、紀元前の教育家の如く嚴格で抑壓的である。父は寡言で永く酷に取扱ふので子供等は父が自分の友達の如く何も出來ぬので深く根ざした嫌を持て居る。

明と云ふ兒童。父はよく暮して居る敎育のある人で、修養もして居り、禮節があり、其良き心得が、其人を職業の奴隷たらしめないのである。母は女子大學の卒業生である。母の家庭生活に於ける最も興味を持つて居る事柄は社會の社交生活を防げぬことであつた。兩親は共に兒童の伴侶であり、一週に數時間は喜んで子供と一緒にフザける。此の家庭の子供は學校の圖書館で與へられるよりももつと數多く然もよい書物に接し、其上に同じやうな幸福な環境の下に其幸福な兒童期を送つたことを忘れぬ兩親によりて讀書逆戯も指導されて居る。

如何なる敎師でも兒童の兩親の又は家庭の財產なり收入の途を調へて置いた方が利益である。夫は非常の場合に此を充分に利用するに價値のあるものである。恐らく何もかまはぬ生徒の來る家庭の下劣な消極的な品位を下げるやうな影響を明瞭に知つて居る方が一番よいので不合理な豫想をするのはよくないことで充分に反對せねばならぬことであらう。以前の經驗が豐富なれば豐富なる程生徒は學校が與へるものにより多くの利益を受けるのである。「彼にまで持てるものを與ふべし」と云ふことは、敎育上から云へば學校へ來て居る子供が、出席す

ることによつて最も利益を受くるものなることを示すのである。敎師は家庭の事情に基いて合理的でありかなり正確な豫想を立て得るにしても常に或者を發見する度に子供の能力を發達せしめんことを企て何物かよいものを見出さんと努め、其生徒に對する態度を變更せんと心掛けて居なければならぬ。

此の事をよくやつて居る家庭が常に兒童發達の爲めに最も良いものであると云ふ事を意味して居るのではない。良家の兩親でも時々兒童の幸福と云ふ事に無關心である、兒童の幸福と云ふ事に知識を用ひず、兒童の健康に不適當な食物、殊に過量のキアンディやコフイを與へ、夜遲くまで起して置き、感傷的な芝居や活動を見せるものもある。そして子供が落第した時には不幸をかこち、學校神經病を起すやうな學課課程とか敎師に不平を云ふ。

(五) 文學とか心理學に於ける兒童　少年文學及び兒童心理の研究は自分の學校兒童を研究するに一つの見地を與へるものである。吾等が研究せんとする人の幼年の生活の經驗が、其自叙傳に反省されて居る。夫には異常な性質が初めから現はれて居るが其作家が少年時代に於ける著しい出來事を探した當然の結果で

ある。又普通兒童に面白がられて讀まれる話の本は理想化され、誇張されて居るに違いないけれども、それだけ著明に、兒童の理想とせる欲求を知り得ることなる理となる。恐らくトムソーヤーの奇異な滑稽な行動は多くの學級兒童より知り得る如き個人的色彩を充分に拔きにして一般に子供のやりさうなことを倍加して述べたやうな組立を示して居る。此處で英雄的性質に相當するものを見付けるのは不可能であるが、實際子供はさうなんだ。少年文學を廣く讀めば兒童の行爲の記述が自分の擔任の兒童研究に興味を加へるのみならず、色の違つたタイプの子供の違つた性質を知る助けとなるであらう。

三　兒童共通の特性

心理學の研究や暗示を提供するに到つた實際教授上の經驗からは兒童は違つて居るよりも多く相似て居ると云ふ古臭い言葉が肯定せられる。學校教授の經濟的なるは此の共通の性質に依るのである。大抵の子供は一般に互に似て居ると云ふのは似て居ると云ふ點を精密に分析することなくして、許容したことが多

いのである。個人差の研究物は、多年の間に澤山出來て居り、特殊のものが出來て居るけれども教師が其級の兒童に付き同一點を記入し得るならば其生徒をよく知ることが出來よう。何となれば一人の性質は他の人の研究に依つて發見せられる。そこで共通の特性と云ふ事が論ぜられる。而して個人差が教師と關係を有する限り夫を簡單に述べることが出來るやうになるであらう。

(一)兒童の經驗の狹い、個人的な特殊の性質に付て　兒童の經驗は狹く特殊的であり、個人的である。殊に學校生活を始めた、一年二年の頃に然りである。家庭から學校に入つて來ても彼は家庭の環境にのみ永く親んで居る。彼が物を測る其標準は彼の父や母や、おもちやの小馬やおもちやの馬車である、子供は或る運動神經を通じて取扱ひ、又行爲し得る所のものの他殆んど何も知らぬ。學校の第一年の生活に於て兒童は其制限せられた經驗を彼等自身の個人的世界のあるものと、各新しく知り合になつたものと比較するに到るであらう、彼等自身の世界は彼等の定義により彼等の無自覺な我が儘によるもので、彼等自身の便宜と知つた世界との調和を謀る所のものである。小學時代の兒童は其四分の三は活動的であつ

て、其活動の大部分は學校が用ふることの出來ぬものである。其中の一部分のみが兒童自から或る正確なよく協同した目的の爲めに指導し得るものである。

(二)兒童は言葉より經驗を缺く　最初から兒童の缺けるものは言葉とか他の記號でなくて經驗を缺いて居ることなのだ。普通經驗は多く感覺機關を通じて來るものである。彼自身を現はし得ぬ樣に思はれて居る生徒は、言葉が足りなくて破產したと云ふよりも明に分化した感覺的印象を缺く爲めに害を蒙ることが多いのである。經驗と發表は、共に進まねばならぬチームである。此のチームのメンバーたる言葉を追ふ事の餘り早い學校の傾向は斷えず認められて居るのであるが此は歷へられなければならぬ。其經驗を越えて遙に高く發達せる兒童の語彙は空虛である。若し生徒が書けと云はれるまでに云ふべき何かを常に有するならば作文などはそんなに困ることではない。生徒の經驗のつまらぬこと敎育に於ける口上主義は危險であり精力の消耗であることを認むるならば提出さるべき總ての材料は具體的根柢を與ふべきものである。

(三)總ての學習の統覺的性質　既に得た名に於ける新經驗を解釋する統覺は總

ての學習の必要な條件である。提出された總てのものを同化すると云ふのは新しいものを熟知せるものに含めることである。既に得て居る觀念の庫が一杯になつて居る程よりよく理解しより早く新しものを獲得するものである。此が兒童既知の事項とか經驗せることを明に知ることが敎師の信賴し得る財產目錄でなければならぬと云ふ理由である。資本を悧恰に用ひる爲めには其量とか其種類を知らなければならぬ。暗示の力のあると云ふのは統覺に依つて居るのである何となれば明に誰でも其心にない物を呼び起す事は出來ないであらうから。

間違つた觀念の大多數は兒童の知れること又は提出せられた新しいものを解釋する習慣を作つた其習慣を用ふる爲めに直接に必要な傾向を發達さしたものにある。屢々不批判的な觀察者でも前に得られたものを實演(プロジェクト)するのを發見し得るであらう。最早や眞實でないもので正しい觀念とされて居るものを明に新事情に用ふるを見得るであらう。かくして過去の時の記號として「た」の意味を作り上げるのであるが、吾等が此を抑壓する爲めに、子供は其言葉で夫を現はし敎へられた如くにやり「考へた」「泳いだ」「作つた」「投げた」とやる。同樣に彼は比較級最大級を

知り得るのである。かゝる場合に子供の心は概括作用と共に論理的に働いて居るのであるがこれで子供が發達するかどうか心配する。然し社會にては常に論理的に高調されるものではない。總ての普通の子供はかゝるミステークをやる。彼等が模しつゝあるモデルがあるに拘はらず誤りをやる。或度までは此等の誤謬は彼等が見得るものと混ずるのであつて、此が却つて彼等の心に常に活動しつゝある。彼等は子供の貧弱な論理を述べて居る。『何處で子供が其樣な觀念を得たか、意見を得たか解釋を得たか』と云ふ事は子供が其觀念を得た背景を得るに價値あるものであるから追來して價値のあるものである。

(四)總ての子供は明に記された發達の段階を通る　兒童が通る發達の段階は本能的基礎によるものであることは疑もない所である。假令權威者が本能の本源的性質の影響と決して一致せぬことをしても發達は本能によるのである。

質問の一般的特徴とも云ふべき或る豫期された答は教師が兒童を理解するに要を得たものではない。兒童が遊戯して玩具の家を建てるのは原始的本能の殘存せるものであるか又は模倣の結果であるか知らぬが。事實は子供が家を作る

やうな段階を通つて生長するものであることを示すのである。後の後まで殘つた本能と云ふものが疑ひもなく存して居るのであるが夫は主として兩親から傳はつたものと云つてよい。一時的本能——それは或時には強く働きそれから後には一寸も現はれないやうな本能——は非常に強く活動する時期があるが其後にはよく興味としては現はれるのである。子供時代に印紙を集蒐したり、大きな卵を集めた人は、其集蒐活動の性質が全く變はることがあるかも知らぬが、此の活動に興味を失はぬものである。實際に、入學當初の兒童は皆二三年上級の其友人等には飽き飽きするやうな程度に於て話の繰返しを好むものである。七歳兒の感覺的飢は音樂に於ても、强い色彩に於ても話に於ても著しい對象を好み、彼の好む方に誇張することを好むものである。二三年後になると彼は普通より纖細な辨別や一層デリケートな拍子や陰影を好むに到るが常である。

上級に於ては、社會的動機を著しく認めるであらう。中學校の生徒が熱心に興味を以て聞く戀愛物語は通常六年生や高等一年生の生徒の並のものからは嘲り

罵られる。此等は單に兒童の經驗する發達段階の一例として上げたまでである。かゝる段階をよく注意し、夫に適應した方法が作られるならば教師の作業は一層從來より容易となり有効となるのである。兒童の興味は必要もなく害もないからとて忽にし、又は壓へ付けようとするのは流れを知らぬ未熟の水夫の活動と同じである。舟は上流に向つて遡らなければならぬのみならず舟の横腹を流れに打ち付けるので、利益なき困難を増すのみであらう。

(五) 力の發散　或る技術を得る爲めに何時も餘計な骨折を非常にやることがある。此の傾向を發散と云ふのである。故に用ひた力の大部分が欲した事項を完成する爲めに集注せられなくて發散したり四散するので力の發散と呼ぶのである。小學校教師の最もよく知れる例を取れば讀方の初歩を習ふ生徒が顔をしかめて讀むとか其本を死人が握つた樣に固く握む樣な事件や又は初めて書方を習ふものが肩に力を入れ、顔を歪めたり指に力を入れて緊く鉛筆を持つが如きである。

上述の如き精力の放散は最も容易に發見することが出來るが放散的傾向は恐

らく總ての學習に於ても見付けられ、如何なる學年にも存すると考へられる。此の事をボンヤリ認めて教師は生徒に困しい仕事と相樸取れと云ひ、汝は汝に難し過ぎることをやつて居ると云ふ。或る生徒を助けて其問題解決に缺く可かざる本質的努力を見出さしめることは、兒童の學習を監督する上の最も大切な要點の一である。此の力の放散が初期の學習者には必ずついて居るものであるから、夫が永く續かなければ心配するに當らぬ。アイウエオ時代の兒童でも讀書の習慣がかなりつけば、常に其痙攣的な運動を無くするものである。若し夫が無くならぬならば賢明なる讀者諸君は此の見易い然も不經濟的な努力を止めさるのに全力を注ぐであらう。

(六) 兒童の興味と能力は相互依存して居る　大抵兒童の持つて居る能力は殆ど同じ容易さの多くの機關のどれにでも向けることが出來る。特に得手だと思はれて居る所のものも特種の興味として始めたものである。或る制限はあるが兒童が或る學科を好むと云ふのは、彼の天稟が或る學科に成功せしめ他の學科では失敗せしめたと云ふ理由ではなしに彼の環境から云へば餘り重要でないもので

あつても、單に生徒が好むとか、成功したからと云ふ方が安全である。父が算術に興味を持つとか、文法は駄目だとか云ふ確信、又は特殊の能力あるが概して拔けて居る教師とか、教科書の善惡――此等は兒童をして學科課程中の或るものを好み或ものを嫌ふに到らしめるよく知られて居る要素の適例である。其次の段階は生徒はかう云ふに到る「私は夫をやることが出來ぬ」とか「もう其學課には出ぬ」と云ふことになる。

よく宣傳されて居る「改良法」と云ふのは、生徒の活動の從來觸れられなかつた、動的性質を屢々よく說明して居る、教授の力に依つて强き興味を起し團體的精神が起されるならば充分に力を入れて爲す努力が或る學科に置かれ眞に驚くべき結果を作り上げる事が出來るものである。此等は以前に指導されずに居た爲め放散して居たエナージィを充分に利用することに依り達せられた。尋常一二年生に讀み方を教へた驚くべき結果は幼年の多藝を示して居るのである。相當の注意を以てすれば同一兒童が圖書とか書き方に於て等しく非常な進步をするのであらう。

尙物分りの早い兒童が其能力の指導され得る事を示して居るのである。注意深き考査に於て、要求されるやうな著しい結果を示すことが不可能なる場合を除くならば、最も進んだ教育上の研究はかゝる兒童に付て次の如く述べて居る。

(1) 彼は心的にも肉體にも最も良い遺傳を得て居る優秀な子供である。

(2) 其子供の環境は學校が褒める樣な種類の知的發達に最も好都合である。

(3) 其極幼年時代から其注意を文献とか書物の上で知識を得ることに集注して居た。

彼等の興味は大抵の子供とは異つて居るので、其遊び仲間は殆んどないのである。若し積極的に其友達と一致し得ないのでないならば其子供は或る子供仲間に於て自分等を必要なものとし又は普通のものとする性質を缺いて居るのである。其の兒童は通常の子供が其の仲間を評價せんとして表はし、生活上のゲームを爲し、人を制裁するにいたり、社會的態度を發展せしめる精力を普通浪費される時間に利用して、早く知的に完成せんとし異常の方向に其を向けたのである。大抵かかる場合には教師が二三の學科で出來る生徒に力を込めた成績よりずつと

よいのである。進歩を評價して居る教師は其優秀兒をして五年間經濟的に努力して、高等二年程度の學課課程を完成する樣に指導し得るとし、一年間に三年間の成績を得さしめることは不可能ではないとして居るのである。

上述の例は生徒の能力は指導され得ることを說明したのである。既に述べた如く必要もない興味を起さしめる事の不經濟的なるは、子供が嫌ひであるからとて根本的な教科を廢すると同樣で馬鹿なことである。兒童の趣味は彼等は彼等の必要を充す爲めの最後の指導ではない。其必要と無關係で必要な目的を達するに障げとなる。それで最も有能な教師は必要缺く可からざる學課を、最も生徒が好むやうな具合に提出する教師である。教師の適任者とも云ふべき人はどの學科に於ても生徒が皆興味を持つ樣に爲さしめる人だと云つても誇張でない。

四　個人差に付て觀察せよ

上には兒童共有の特性に付て述べたが夫はどの學級の兒童の間にも存する實際の個人差を教師が見なくてよいと云ふのではない。個人差はよく教師が觀察

せねばならぬものである。教授の本義は總て個人的のものである。世の中に團體の學習なるものは存在せぬ。各兒童が現在彼等が教へられて居る如く、教授せられたものを覺えるのである。兒童の最初の本能は文明社會で行はれて居る人工的な教育過程に有力に反對するものである。既に述べた如く兒童の環境は學校の理想の實現に反對するやう或は貢献するやう其興味能力を發達さした。生徒の身長は高いか低いか色白の黑髮か又は褐色のチヾラ毛か？又は彼等が示す他の著しい肉體の差とか、兒童の實際の經驗なり、觀察は如何と注意して見るならば肉體も精神も共に非常の差のあることを知ることが出來るであらう。此は經驗も統計的證明も共に學校兒童の間にかゝる差違のあることを證明するのである。一般的の個人差、及び特殊的の自分の持つて居る生徒の個人差に關して認められた總てのものを利用することに依つて教師は其技術を最高限まで發達さすことが出來るのである。實際の兒童研究に其見地を暗示したのは、個人差を次の如く分類せん爲めであつたからである。

(一) 注意の型の相違　注意のタイプには二種あつて二つとも等しく有用である。

其一つは研究的の注意の型である他は監理者的注意である。此を表はすに適當の言葉がないから先づかく呼ぶことにする。前者は他の事總てを忘れて一つの題目に其努力を注ぐ、學者の特質たる注意である。夫は虛心な教授（イロハウサール）を意味し、實際にはあり得ぬ事であるが、其人の心が何處かへ行つて居るのであらうと厚意的に信用して居るやうな具合に滑稽的色彩を帶んで居るものである。兒童に付て云ふならば學習に餘念なき爲め、終業の鐘が聞えぬと云ふやうな注意を云ふのである。監理者的注意と云ふのは何か後の爲めにする仕事があつたらしやうと構へ、機會を常に搜して居る子供が夫を現はして居る。床の上に落ちて居る鉛筆を見つけて拾はふとして居る子供や、使ひにかけて行かうとして居る子供や皆が教場に入つたかどうか見に行く子供が示す注意を云ふのである。其樣な子供は、人を迎へんとするやうな妨害を無くして永い間研究し勉强せんとする能力や意志を殆んど持つて居ないのである。云ふまでもなく各兒童は此の二種の注意を混へて持つて居るのである。此の純粹な二タイプと云ふものは世の中にないが、經驗ある教師は、集注力の維持に違ひのあることを說明する爲めに此のやうな注意の

何れが强いかといふことを容易に知り得るのである。

(二)暗示性の相違　普通の觀察では兒童は別々に暗示に反應するものなることを示して居る。正常の暗示性には直接暗示、間接暗示の如く種々あると云ふ如き法則を作らんとする試みは、その法則が普遍的でなくとも興味あり研究に値する。暗示は消極的の形であつても積極的の形であつても、夫が傳へられる時は多くの先生が考へて居るよりも差違の少ないものである。短い言葉の「ならぬ」「可からず」と云ふ言葉は教師が普通命令したり力說したり、何か爲さしめんと欲する漠々たる感情を壓へるのに不充分である。「小學兒童は惡戲けてはいけぬ」「蔭の木から小枝を折つてはならぬ」「私は」と云ふ字は前置詞の目的とするな」等と云ふ命令は一般に何か爲す命令になる、屢々消極的命令が禁ぜんとして行爲を屢々やる「爲すな」と云ふことは了解するが困難である。禁止は行爲に現はれぬのである從つて結局達せられないと云ふ事になる。

暗示に於ける否定は何等の結果の無い抽象であると分つたけれども、或る兒童の傾向は否定的に可なり著しく反應する。人間の强請なる事の法則は經驗ある

教師によつて發見せられた。恐らく兒童の最も強い傾向が正に要求せられたもの、命令されたものと反對して居るならば、其は抑壓的性質を持つて居るであらう。恐らく總ての子供に其瞬間には抑制的であらう。容易に分化することの出來ない條件に附加するに臆病であり、感傷的であり、温順で教師とよく一致して居る兒童は積極的に反應し易い。常に次の樣なかゝる暗示を爲す教師は、卽ち此の組で誰れか紙を綺麗に始末して吳れないか？皆さんの大部分は算術の點をつけて貰はないか？」――此の結果の記錄をつくれば兒童の暗示性を知ることが出來て後に此が非常に教師の助となる。

上に述べた樣な暗示を一般に用ひたとて、兒童の大多數は何等の反應もせないか或は消極的に反應するのみで單調に役に立たぬ繰返しを爲すのみである。總てのものに好まれても力を籠めて努力するのは僅かの兒童なることを常に見出すのである。然るに或る勉强する兒童とか、自覺し過ぎて居る子供は必要もないのに興奮せしめられる。クラスに居る教師が上述の傾向のあることをやり過ぎると云ふことは、暗示の可能的結果がどんなものかと豫想されたならば、目に見え

て少くすることが出來よう。

（三）思考、想像に於ける相違　兒童は觀念を考へるものと事物を考へるものとに分類される。觀念を考へる子供は、具體的事物が何であつても構はぬ。それから自由である。其樣な子供は容易に分析し、分類し概括し、公式化し、原理を應用する事が出來るのである。物に付て考へる子供は一時に一物を學ぶ事を好んでゐる。如何なる場合にも一つの簡單な研究がよく爲されても、多くの事例が示す通りに、時間を空費する結果となることを屢々見ることが出來よう。物について考へる型の子供は同一、統一、歸一、等の語を一つ一つ學び得る。然し此等には何れも一の字を含み、何れも一の字を持て居て、此の一の字が主要なる意味を以て居ると云ふ樣に概括することが遲いのである。

此の二型の根本的相違は個々の子供が持つて居なければならぬ意味の分量とか具體的な想像の量による。觀念を考へる子供は意味の分量が少くて其思考作用を働かし得る。例を上げて云ふならば其樣な子供は個々の石を畫かなくても石原と云へば夫を考へることが出來る。壁に紙を何枚か貼る事を要すると云ふ

とき紙を計算するにも壁の色や紙の色や、卷紙の形態などは餘り意識して居ない。注意のタイプの如く、專ら物を考へる人、觀念を考へる思級家と云ふものはない。然しながら具體の個々の事例なしに作業する能力の著しき差違は各教室で見ることが出來よう。

知識を得たり、記憶したり、知識を用ひたり又は其意味を樂しむ場合に用ふる心的想像の相違は印象を受ける感覺的の基礎に關する。大抵の子供は眼を通して主に理解するのであるが卽ち視覺型である。總て聽く印象、嗅覺による印象、壓覺による印象、觸覺による印象、運動感覺によつて受ける印象は種々の程度があるので皆違ふ。此の相違は或度まで經驗と云ふよりも稟性によるのである。熟知して居ると云ふ理由で或子供は庭園と云へば眺める或るものを意味し、他のものは或る植物の味とか臭を暗示され、第三のものは雜草を拔き取る感じが最も明になるであらう。音樂の拔粹に注意する時にノートの音を最も强く思ひ出すもの、スコアーを强く思ひ出すもの、樂器に觸れる具合を想像するもの、其他種々の想像を爲すものがあるのであらう。勿論視覺型の子供、聽覺型の子供、手を動かして覺え

る子供等と云ふ明かな區別もなければ、かゝる正確な分析が出來るとも思はぬ。此等の點を注意することが教師に大切だと云ふことは、毎時の提示は種々の感覺に訴へなければならぬと云ふことを暗示したまでである。

(四)年齡の相違　同じ作業を爲せる同一學級の兒童の年齡の差違は種々の兒童の態度を持ち來し、一致し難き興味を有するに到らしめるのである。我國の小學校の各年級には馬鹿に年齡の相違して居るのは居ないが落第生の居る級に於ては、其年齡の相違の爲に級の多くの子供と越味を異にして居るものがあるから此の點によく注意をせねばならぬ。然し此等の注意せねばならぬ第一の事は落第生とか、生年月日の年齡が違つて居ると云ふ點ではなくて生徒の曆年齡と心的年齡の相一致して居ないと云ふ點である。十二歲にもなつて居て八歲位の心的態度や能力より示し得ぬ者がある。此等はヤーキーの點數式心性考査法を用ひて見分けることが出來よう。曆年齡から云へば八歲から九歲、乃至十歲までの擴がりを持つて居るのであるが心的年齡はもつと其擴がりを持つ居ることに注意せねばならぬ。此を知ることに依つて取扱の方法、學級編成の方法なども良行くで

あらう。

(五)男女間の相違　一寸した最初の取扱の相違とか訓練の相違に依つて、女兒は男兒よりもより意識的ならしめ、暗示性に富ましめ、正確にし、細い點に注意し感傷的ならしめ、身に注意せしめる事が容易である。男兒は獨立して事を爲し、身に注意せず、細かい事にかまはぬ云ひかへして見ると初學年の間は、女兒は男兒よりも質に於て優つて居ると云へる。男兒は非常に變化に富んだ性質を現はし、最善のもの最惡のもの、最高のもの、最良のもの、色々性質や態度を現はすので陶冶性に富んでは居るが概して女兒がよいと云はれる。

(六)身體及び感覺に於ける天禀の相違　身體的に正當でありよく育てられて居る子供とか薄弱な身體を有し、營養不良の狀態にある子供との差違について考へることは生徒を了解する上に意義ある事である。學習し作業することに堪へ得る能力は疲勞の遲速、學級でする稽古を氣に病まず平氣ですると云ふ事は活潑に身體的條件に基く、丈夫な子供や大人に適當な學科の分量は神經的な、弱い機官を有する子供には過重である。眼とか耳の缺陷は醫師に見せ又はテストを爲し、觀

察をして發見しなければならぬ。一度此等の障害を見つけたならば、卽ち近視とか聾を見付けたならば其務とか、割當る課業は其特別の必要に應ずる樣にせねばならぬ。よく注意する敎師は黑板を見る事の出來ない爲めとか先生の言葉を聞くことの出來ぬ爲めに、其作業を充分にせなかつた子供を許し更に適當に課題をあてがひ、吃音の子供をして、他兒の妨害の恐れを感ぜしめたり、馬鹿に昂奮せしめて讀書することや話することを要求するのは敎師の方の不正である。平靜な事情の下で唱歌とか音律のある言葉を練習せしめ、答に於て繰返す部分のある質問に答へる機會を與へる事は吃音を矯正する助けとなる一つの手段である。かゝる缺陷を速に見付け出來る限りかゝる缺陷兒童の不便を除去してやり變態の原因を少くしてやらなければならぬ。

(七)訓練上の相違　温順なる兒童他人と喜んで協同する兒童、知識がある悧恰な子供は訓練の問題とはならぬ。困るタイプの子供として、ハークレイは(イ)片意地、(ロ)傲慢、(ハ)百分獨り良がり、(ニ)責責任、(ホ)無氣嫌、(ヘ)短氣、(ト)無誠實、(チ)惡德を上げて居る。然し實困るのは喧ぐ子供、騷々しい子供、不注意な子供、人を怒らす子供又は卑しい

事をする子供である。何となれば此等は習慣的に我が儘となり不行狀となる生徒の特性を示して居るものであるからである。生徒をしてよりよき擧止に導くには或る特殊の困難なる仕事と思つて特別に指導するにある。生徒が堪へず騷ぐとするならば其子供が前の訓誡を忘れたと云ふ其子供の片意地が憶への惡いと云ふ事に歸せられるであらうか？其が兒童の頑固な不明によると決したとしても教師が信じ勝である內的の片意地であらうか？惡い環境による爲めか？夫は教師がよく其生徒を了解してやれば除き得る想像して居る不正とか辱かしめられた等と想像して居る爲めに故意に定つて惡い態度を取るのではなからうか？

（三）學校作業に於ける能力の相違　此處で上來個人差を大略述べて來たが兒童は學校の作業をする能力に於ても著しく違つて居る。多人數の學級では或る子供は最少の能力より持つて居ない子供の三倍から六倍の能力を有して居るものである。或る時には出來る生徒は少しの疲勞もなくどの學科でも非常によくやり運動場へ出てどんなゲームをしても非常によくやるものがある。彼の出來の惡い友達は此に反して何等の能力を示さず特に得手のものがあるとも示さない。

教師をして失望せしめ無神經のタイプに屬するとして其子供の能力を探すことを失望せしめる。

慰安的の議論は如何なる子供でも優秀になり得る學科を見出し得るとして充分にやらすことが出來ぬのだとするけれども或子供が出來なくなつた時或は一般に子供が鈍くなつたと決せられる前に休ませなければならぬ。優秀な成績を得た生徒の記錄を皆綴つて置くならば生徒仲間の指導者とも云はるべきものは惡い成績を得て居るよりも此のよい成績を多く得て居るものから出て來て居るのを見ることが出來よう。教師が暗愚を品等するは後に彼等が優秀者となるが爲めに爲す寄港ではない。學校での怠け者が立派な人になつたと云ふ事例は例外として見つからない。教師が急いで作つた、或る兒童は見込がないとか努力の加へ甲斐がないと云ふ裁決を甘んじて受け入れる前に教師は諸種の證據を集めなければならぬ。教師が始終其級に付ては居らぬならばよい準備は出來るものでない。若し然りとせば教師は其級の生徒の能力の平均を標準として共に進まねばならぬ。心的活動の遲い爲めに難しいならばこれは困難であらう。それは

一度破つた無用の努力を除くと云ふ事を捨て、精力の浪費の多い學習の習慣を作つた爲めであらう。

最後に生徒の中には特殊の得手にして居る事があつて、夫に應じた能力を缺いて居る事がある。かゝる事例は比較的に稀なのである。特殊の能力と思はれて居るものゝ中には子供や兩親の氣まぐれか又は全く偶然的な好惡によることであると云ふことが分つた。社會は個人に社會に必要缺くべからざる能力を最高に發達せしむることを要求する、兒童にベストを盡して、此等能力を呼び起さしめないのは社會的の精力浪費である。何人でもうまく取扱ひ得る總てのものを消費し、精力を使ひ盡すまでは絶望とは云はれぬ。總ての兒童に知識を働かす機會を平等に與へんことを熱望して居るのであるが、現時の教育はそれをやつて居るか級の或る兒童は容易に一定の仕事を爲し得るのに比輕的少數の或る出來ないグルウプの爲め此を犧牲にすることはないであらうか。それで其學級の仕事を錄に爲し得ぬ生徒は終業後特に注意して指導することにし、其他の兒童には色々其能力に應じた問題なり材料なりを與へて、一々此を監督指導し、多くの生徒が學

び得た事項について再び一齊に練習せしめて其を確める事が教師の任務であらう。特殊の出來ぬ子供の爲めに時間を大部分消費するは人類國家の力の不經濟である。

以上は研究の對象たるべき兒童に付て大體を述べたのであつて、讀者日常の觀察には吾人が兒童を研究の本體とし兒童の力に從つて此を發達せしめる上に參考となるものもあるであらう。此等は色々と御教示に與りたいのである。

第三章　教師の學科課程に對する關係

一　學科課定の意味

此處で私の云ふ學科課程と示ふのは、學校教育の主要教材を云ふのであるが、今日實際多くの學校でやつて居ると思はれるあの書き出された窮屈な妙な動かぬ紙の表のみを云ふのでない。此の學料課程と云ふ言葉のはじめの意味は非常に面白ろい意味を有して居るので、單なる言語學的興味以上に面白いのである。學科課程は英語の Curriculum で獨逸語の Lehrgang であるが、此は人間が且つて通つて來た道を意味するものである。それで學校の學科課程は自分の生徒が覺える學科の種目とか、其内容の刻まれたものとか、不可思議な方法で兒童の頭におしこむものゝ種別、分量と云ふ點に付て云ふよりも、兒童が通過すべき經驗を組立たものであると見る方がよい。授く可き學科をかくの如きものと見るならば、此の學科を

して最大の價値を生ぜしむる爲めに、注意し賢く選擇し、兒童心意の發達に應じ最も經濟的に齊へなければならぬ。課程の内容となる選擇の問題、排列の問題から、教育に關する最近の諸種の議論に觸れることが出來るのである。

二　問題としての學科課程

吾等が、此の學科課程を眞面目に研究して得た考へに從つて批判して見るか、又は單に皮相な見地からか、又はそれから起る根本的な言ひ表はし方によつて無批判的に多くのものを解釋するかであると云ふことは眞實である。前者は兒童が教へられて居る學科は、ずつと將來になつてから達せらるべきものから取らねばならぬと云ふことを實現して居る。其理由として學科選擇の上に教育的目的の實現がかゝつて存するからであるとして居るのである。後者は、教育の一般的目的に關しては、漠然と同樣の見解を抱いて居るが、教育上のこまかな點に對する其態度を、鋭くしかも頑固に持して居る。彼等は馬鹿げた樣に思はれ、無用と考へられる教材ならば、それが一寸あつても、何時でも鋭く攻擊するのである　其教師の

事情を鋭く分析して、其先生の見解が一冊の教科書以外に出て居ない極めて狹少な見透しの少いものだと云ふことを攻撃するのではなく、其教科書の或る部分の省略が、各學校又は各生徒の要求に適應したものでないと云ふことを攻撃せずに、單なる要、不要の狹い主觀で攻擊し勝のものである。どんな教師も學科課程の性質とか目的を知らずして、最善の作業を爲し得るものではない。如何なる人も、近代學科課程作成問題を少しは知り、其解決に對する一つの見解を持するに非れば、現代の教育者を人並に見ることは出來ぬのであらう。本章は教師の作業に關係する二三の學科課程問題を論ぜんとして設けたのである。

三　學科課程の一般的內容

學科課定は一時代から次の時代に傳達して價値あると論考せられた人間の經驗を學科と云ふ一連の有機的體系としたものである。如何なる時代でも、其時代に生じた傳說を悉く傳へた時代とてはなく、其時代の發見を悉く次代に讓つた例がない。其理由は人間が一問題の解決に用ふる方法は他の問題の解決に不適當

であるからである。大發明、大發見のある毎に過去に大切なりし多くのものを無用にする。然し尙一般的に云ふならば、最も價値の大なりしものは保存されて居るのである。よし新發見を利用することが何等の爭や無理をせずして、傳統的なものを容易に追ひのけることが出來ても。

四　生物學的要素に依りて決定された學科課程の內用

教材の組織體としての學科課程は二つの生物學的事實に依つて、其働きを爲し得るのである。

(イ)後天的に獲得したものは遺傳となつて子孫に傳達されぬ。教育は、それが形式的なものでなくとも——經驗によつて作られたもので教育的に指導されてなされたものでない——學校を通して爲さるゝ形式的のものであつても必ず各個人に依つて得らるべきものである。總ての子供は、それが學者の子供であつても藝術家の子であつても、醫者の子供であつても、器用な人の子であつても、最も馬鹿な親を持つた子供や、何も仕事の出來ぬ人の子供と同じ樣に學ばなければならぬ。

華族や富豪の子供でも乞食や盗人の子と同じ樣に勉强せねばならぬのである。

(ロ)人間が其永い幼年時代を經ると云ふことは經驗を得るに多くの時間を與ふることを保證するものである。玆で云ふ幼年時代とは成人になるまでに要する時期を意味する。この意味で云ふ時はカゲロウは幼年時代なるものを持つて居ないと云ひ得、犬は極僅かしか幼年時代なるものを持つて居らぬと云ひ得るのである。子供は二十一歳まで幼年時代を保存して居る。文明社會になるほど此の期間は延長される。

人間の幼なるものは教育される能力を持つて居るが下等動物には此の特性が僅かこそ現はれて居らぬのである。分析して調べて見ると人間の子供は他動物よりも遙かに豐富な根本的傾向卽本能を持つて居ると云ふことを證明することが出來るであらう。然るに犬や猫は定つた本能的反能を持つて居るものであり、其心意は猫は鼠のすきなもの、犬は人を見て吠へるものと云ふやうに、ちやんと定つて出來て居るのであるが、人間は非常に數の多い指導せられぬ本能を持つて居るが故に、願はしき傾向を定めて此を使用して發達せしめ、願はしからぬものは使

はなくて無くならしめ、實際に人間の行爲を變化することを可能ならしめ得るのである。例を上げて見るとかう云ふやうなものである。或る兒童は會話して居る時には何を云ふにしても本當の事を語ると云ふ本能的傾向を持つて居る。此の自然的の本能を發達せしめて、其子供に僞を云はぬと云ふ態度を習慣的に作らせることが出來るのである。又は境遇を變化せしめて其本來の性質を伸ばす機會を與へ得るのである。本能的活動に基礎を置いて活動する、人間の永い幼年期は、其最初から有して居る傾向を發達せしめ、習慣として固定するに到らしめ、記憶するにも知識を得るにも、態度や理想を作るにも此の作用によつて爲すのである。此等變化の總和が個人の一生の可型期に教育を組成せしめるのである。

五　學科課程はたへず變化して居るものである

學科課程なるものは常に變化を圖るべきものであることは其性質上當然のことである。一時代に必要であつたものは必ず次の時代には、其一部を不要とするものである。

教材の大部分はかなり不變のまゝである。十年も二十年も先生をして幾組も幾組も生徒を卒業さしたやうな疲れた教師、卽ち幾度も自分が持上つた生徒を卒業さしたやうな疲れた教師には教材は何等變化の無いやうに思はれるであらう。或る型について云へば同じやうな古い材料とさへ考へられて居る。或る場合には同一教材であつても生徒は毎年新しいのであるから、然も教材の提示は永久に同じ形であり得ぬが故に、其教材を習ふ爲に其次に來る生徒には毎年新しいことなのであると云はれて居る。然し他面によく教育の書物で見るであらう如く教育の革命とか、新しい教育とか云つて新しい學科課定が論議される。此等は教材が如何に速かに變化するものなるかを人に告げるものである。

六　教科課程の變化は漸進的である

新しい教科を學教課程中に取入れることは、教科の內容に於る變化と云ふことと、大にかけ違つて居るものではない。從來の教育が傳統に捕はれて居るの故を以て、教材を非難する教育改革者の中には、教材なり教科課程の歷史と云ふことを

考へないものが多いのである。新教科を六つも七つも數年間に取入れることは過去の教育を徹底的に破壞する事を意味する樣に思はれる。けれども教場で行はれる作業を實際に檢する時には、其變化は大なる如く思はれるけれども、其名目の變化に過ぎなくて其以上に少しも出て居らぬのを見るのである。過去四五十年の內、然も尙今も新教育と云ふ言葉は種々に用ひられて居る。然し尙私は尋常小學校の六年間は、兒童が尙其初めに設けられたやうな學科に、其力の四分以上使つて居ると云ひ得るのである。大部分力を入れる學科が、五十年前と異らぬと云ふことは、頑迷なる保守による爲でも無く、時代の新運に添はぬやり方あでると云ふのでもなく、只此等の教科の大部分が其當時に於ても、尙今日に於ても、根本的のものであり本質的のものであると云ふ事實に歸せられる。最も我等の必要とする意義ある變化は教科の改良ではなしに、それが如何にしてより有效に授け得るか、如何にすれば兒童を最もよく學習せしめ得るかと云ふ問題であつて、吾等が永い間完成せんとして試みつゝあつたものをよくせんとすることにあるのである。

七　授くべき教科が增せる爲め、教科選擇の問題が起つて來た

教程科程の內容が非常に速く變化したことは一時に起つたのではないが、然しどの教師も心しなければならぬ注意すべき變化が起つたのであつた。若し吾等が、教科課程の歷史の奧に深く立入るならば、多くの人の知らぬ然も、學校で有效に敎へ得る物を見出すであらう。中世紀の百科大辭典には總てのことが含まれて居るやうに想はれて居た。ベイコンやミルトンの時代でも或る國の總ての知識は知ることが出來ると考へられた。一人の人が知つて、價値があると思はれることとは皆學び得ると考へられたのであつた。或る一つの敎科の內容が非常に豐富になつた後でも、學校に適用された便利主義の考へ方で、敎科の範圍は比較的狹くされて居たのであつた。

近代デモクラチックな公立學校の發達と共に、廣く社會的變化に應ずべしとの要求が增大し、新敎科が加へられ學校敎科はよほど變形せられた。學科課程に盛

つてある內容は可能的に實際役に立つものよりずつと多くなつた。便宜主義に基いて出來た考へ方は最早や何等の勢力を有せざるに到り、學習課程に社會生活が及ぼす直接の影響が增して行くのを止めることが出來なくなつたのである。保守主義は、屢々敎授の技術の上にも現はれて居るのであるが、敎科課程の變更を凝視した時に、實際的に非常の力を有して居るのである。それについての說明は、物事を爲す永く習慣つけられた仕來りが、如何に最良の方法として安全な地位を占めて居たかを示すであらう。書物を苦しんで寫すかはりに印刷された書物が實際利用されるに及び、かの手で書物を製作する工業は變つて仕舞ひ、其製本の秘密の傳達と云ふことは價値なき事柄となつて忘れられてしまつたと云ふが如きことである。然し此の變化なるものは、古き仕方、古き規定と云ふものと衝突せずしては起らなかつたのである。其時代の學者の多くのものは言つた。「古い本は新しいものよりも美はしく、便利であり、讀み易い。從つてよいと我々が考へるだけ値もよい。誰れが安つぽい書物なんか讀むものか？」と。此のやうな保守的な勢力は非常に有力であるが特に敎師と云ふ職業に從事して居る人間の間には力强

いのであつて、一番強いと云つてよからう學者か先生と云ふものは其說に到るまで時として保守的なのである。彼等は他の社會から變へるやうに强ひられるまで教育上の變化と云ふことに抵抗する。かう云ふ社會だから年が物を云ふ勤續が表賞される。社會から壓迫されなければ自分の態度を代へることの出來ぬ人間が社會を指導すると云つて居るのである。

八　學科課程の特殊な變化が或る物を省き或る物を附加せしめる

社會の事情の變つて來るに從つて學科課程も變つて來るのであるが、此の變化がだん〳〵進んで來ると新教材を附加したり、舊いものを略したりせなければならぬ。時間に制限があるから、あれもこれも使ひたいのであるが、吾等がやつて見たいと思つて居るものは皆教へることが出來ぬから、新しいものを附加すればきつと取り除かなければならぬ古いものが出來て來る。學科を增す事は、その爲に主張を再び壞すやうなことになる。然し授くべき全學科と云ふものは止めるこ

とは出來ないのであるが、次に述べるやうなものは何時でも一つの論題となるであらう。此處に學科課程から見えなくなつた教材の二三のものを例として示さう。教育に關する近代の書物に眼を通して居る人は、一册でも二册でも讀んで居る人は何の苦もなく、それを表にすることが出來るであらう。

(イ)多分且つては實際有用であつて、現在では必要ではない教科の多くの單位は除去されて居る。此の種類の例として、古い算術に見える西洋の鷺鳥追ひの問題とか我が國の種油と菜種の交換問題とか宿場の駕籠の速さの問題と云ふのは見られない。それは我等の祖父とか祖母が研究した虫のついた塵却記などに見出されるもので誰れでもこれを知つて居る。今日の人は油を換へなり宿場の駕籠に乘らぬから、かう云ふ問題は生活と關係はなく、其練習も又無用でなのである。

(ロ)前の例は時間の關係でなくなつたものを云つたのであるが、此處に述べるのは、其使用の範圍が極く定つた小範圍のものは用ひられなくなつたことである。例へば、金銀細工とか藥劑師の使ふやうな目方を計る量目の計算は、其を必要とする少數者に使用が限られて居るから、そのやうなものはなくなつた。かゝるもの

に總ての人の努力を使ふことは少數者の職業團體の爲めに犧牲にされることであるから用ひないのである。

(ハ)尙一つは比較的少數の教育を受けた人でなければならぬやうなものは尋常小學の兒童には把捉する事の出來ぬものであるからして、さう云ふものは中學や專門學校に讓つて小學校ではこれを割愛せねばならぬ。文法の細い分析とか、漢文の讀み方と云ふのは昔はよくやつたものである。西洋でも古い文法學校などでよくやつたものである。數學で云ふと代數とか幾何に屬するものは此の類に屬するものである。

(ニ)尙其上に教材の偶然的事項が教科課定の中に含まれる。夫は著者の特に研究したものとか、鋭い論理的要求に基て居るものであつて實現の出來ぬやうなものである。例へて見れば、古い文法とか修辭學の書物では、前置詞は文章の終りに置いてはならぬものであると云ふ規則が見出されるが、今では初步の國語教授を唱へるものは皆事實上常に文章をむすぶに良い言葉であるとして認めて居るのである。尙一つの例を上げると古文めいた國語を教へるに當つて、余り修辭とか

文法とか、語句の探索のみをやつて居つて現代日常の國語としての形式を授けるやうなことをせぬが如きである。國語教育の方面から見ても算術教育の方面から見ても、かゝる材料が數多く入つて居る。科學的知識は個人的意見と代はるものであるから、新しい教材に比較的よいものを豫期することが出來るでせう。實際主義を重んずる時代には、かく學科の瘤に類するものを除く爲め常に無慈悲な「何故に」と云ふ語を適用して居るのである。

九　新教材に對する保守的態度と進步的態度

社會が變化するにつれて嘗ては非常に大切であつた學科、卽ち漢文のやうなものは實際社會では活用することが出來なくなつた。そして新しく物理、化學、其他の新しい非常に價値ある新教材が教科課程に加はるに到つた。

歷史や地理や生理學、圖畫、音樂、手工其他種々の名を冠つて居る基礎的科學の要素が小學校の教科課程の中に附け加へられて居る。其上に音樂の鑑賞とか性の教育とか體育、農業、其他職業準備の教育とか並に道德的訓練、職業指導と云ふもの

が、教育上に於ける其權利を主張し必ずせねばならぬことの樣に高潮して居る。然かも學科の削除はそれが附加はる樣にそんなに速く行はれないので、其結果過超の教科と云ふことになる。生徒は余り多くのことを試みるべく責められて居る。そしてどれも良く爲し得ぬのである。

さてそれなれば何を省略すべきか、保留すべきか、變化すべきか、教科に附加すべきかと云ふ議論になると、どんな知識か或は經驗が最も價値あるかと云ふ問題が其中心の論點になる。此等の古い教材に對しては保守主義者は云ふ此の教材は古より試みられそして善いと云ふ事が分つたのである。且又現存せる最も有名な人でも又嘗て此等の教科を學んだ。恐らく夫等の人々もかく有名になるに到つたのは此の教材に負ふ所が非常に多いのであつて此の教科を經ざれば今日の名聲は勝ち得なかつたであらう。余も又此を學んだ、然も私の受けた教育の中に於て他のものと同樣に値あるを見た。此の古い教材は完全に組織されて居る。よく陶冶された教師は勿論此の學科の知識を有し、よき教科書には此の學科が適當に現はされて居る。諸君の提出する新教材は其價値も疑はしいものであり、又

よくも組織され系統つけられて居ない。然も夫を教へる人も其教材に付ては充分に知るまいし、かゝる教材に關する書物も極めて貧弱であらう。學校作業がうまく行はれぬ所では略んど心的訓練は出來ないものである。かゝる教材は父兄によつて教へらるべきものであり、藝として特別の先生に教へられ、然らざれば實際職業上の經驗に依つて學ばさるべきものである。」と云ふ。此の議論の最初の部分は漢字奬勵、少くとも漢字制限に反對する人々の口實であらうし、後の部分は職業指導とか職業的陶冶に反對する人の云ふ所である。

此に對して進歩主義の人は(必ずしも根本的に此の主義を唱へる人には限らぬが)次の樣に主張するのである。『現在の教科課程の中にある教材に付て云ふならば、保守主義者の云ふ所は尤もである。然も保守主義者の云ふ所の古い教科を研究することに依つて人は多くの利益を受けるであらうが、クラスの生徒の大多數はそのやうな教科には略んど注意せぬのである。且又多くの教師は此の古い教科に對して得意であり、立派な教授が出來るかも知れぬが、二三の人を除くの他、此の樣な教科は現代生活と略んど關係が無いから其取扱に形式を重んじ、無内容な

言を弄し、乾燥な取扱ひ方をせねばならぬことになつて來る。恐らく理想的に云ふならば進歩主義の唱導する新教材なるものは家庭にて教へなければならぬものかも知れぬ。然しそんな家庭はめつたにないのである。或る家庭では實際にかゝるものを教へて居るかも知れぬが、それは斷片的に流れ、其方法も不經濟的のものとなり、知識も又不正確になり勝である。新教材は略んど普遍的な價値を持つて居るものであるからこれを家庭教師を雇ひ得る小人數のものにまかし去ることは不適當である。少しの教材を縮約したり、又は取り除けたりした部分に非常に價値のある教材を見出すことが出來るであらう。それで古い教材にはなるべく時間を少くし、新しいものにも少し多くの時間を與へなければならぬ。よい教師よい本は速かに此を利用することが出來るであらう。心の陶冶と云ふことに關係して居る限り新教材は一つの材料とすべきものではなく教ゆべきものなのである。如何なる學問の研究に於ても、心を陶冶する材料を唯一に限ることは出來ないであらう。』と教科課程の一般的機能とか性質に關係する二者の意見の主なる差違は次に吟味することにする。

一〇　陶冶を目的とした文化的教科課程と職業的教科課程

緒論に於て述べた究局の教育的目的に對し附加した內容の中で、人は直ちに、多く論議された問題が、そのまゝになつて居て、贊否何れも決して居ない事實を意識するであらう。然しこれは相爭へる諸說を支へる爲めに非常によい議論が出るであらうと云ふことを意味するのである。

かの一方に偏した爭論はよく教育せられた先生を得ると云ふことから必然的に問題を生ずるのである。方法上の議論は根底深き確信とは少し距りがあるのであつて、如何なる計畫も案も普遍的なもの又は缺く可かざらるものと云ふものがない爲めに熱狂的に爭はれると云ふことは略んど無いのである。然し教科課程に關連して、何れを重んずべきかと云ふ教科の輕重に關する信條に大に差があるのである。學科過程を分つ差違は、思想家が其考へに從つて分けたものであり、其結果出て來た表によつて見るを得るが故に、其表により彼等が社會に於ける教

育の機能に付て抱ける相反せる意見を容易に見ることが出來るであらう。

文化(修養)の爲めの教育。　職業の爲めの教育は次のやうでなければならぬ

は次のやうでなければならぬ

- 理論的
- 一般的
- 間接的(直ぐ役に立たなくてよいもの)
- 抽象的

- 實際的
- 特殊的
- 直接的(直ぐに役に立つもの)
- 具體的

即ち此の相對せる文化の爲めの教育を施さんとするものと職業の爲めに教育を施さんとするものと職業の爲めに教育を施さんとするものの間に取られて居る教材には此の樣な相違點があるのである。

文化的教科の表に現はれて居る意見の辯護者は知識を重んじ、趣味の爲め閑暇の爲めの教育を重んずる傾があり職業の爲めの教育を重んじて作つた教科課程の贊成者は爲すべき能力、賃銀を儲けると云ふ方面を重んずるのである。即ち第一のもの、文化の爲めの教育を說く人はよく一般的觀念の入つて居り、後に分化す

べき根據となるやうな標準を得て居る陶冶された心の價値を重んずるのであるが職業の爲めに教育をすると云ふ第二のものは適用することの出來る特殊の內容を重んじ、早くから分化して其特殊のことをよくなし得ると云ふことを高潮するのである。此の兩者の相違點を見るに、初めの論をするものは物によつて考へると云ふよりも觀念によつて考へると云ふ方がよいのである。若し然らずとせば思考は直ちに行爲に變へられると云ふことを信じて居る人なのである。社會的統計、經濟的統計によると此の文化的教育を說くものは兒童を永く學校に止め、職業を爲し得る準備をせねばならぬと考へて居るやうに見えるが、此の第二の職業的教育を重んずる人は子供はなるたけ早く學校を止めて、種々の商賣をさすべきものと考へて居る。

此處に述べて來た此の相反せる見地を考ふるに當つて吾等の注意すべきことは、其意見の差違は屢々言葉の上でやつて居られるものなることを見ることである。此は上に相違點として述べた表に用ひた言葉よりもつと明なものがある。學校教會をもつと實生活に實際役立つ樣に實際化すべきかどうかと言ふ點に付

て意見を異にする二人の人があるとするも、其實際化なる言葉にどう云ふ意味を含ましめて居るかと云ふことによつて大に意見が相違して來ることを見なければならぬ。此れと同じやうな關係に於て極端な地點には思慮ある人は到らぬ突飛なことをせぬことに注意せねばならぬ。如何に極端なことを云つても結局それは修辭的のものとなつて仕舞つて、其實際は傳統的に建設された方法なり教科課程に急激な變化を與へ得るものではないのである。都合によつては其一部分をも變へることの出來るものではない。現在小學校でやつて居る教科課程は半分以上何にも役に立たぬ朽つた木であると云ふことを云つたとて、其樣な意見を云つた人間が其半分を他のことに變へて居ると云ふことを意味して居るのではない。かく云ふことは常に漠然と今學校で用ひて居る事柄の多くは大きな價値を持つて居ないから然るべく改廢せねばならぬと云ふことを云ふのである。

直接的準備とか特殊の準備と云ふことよりも一般的な修養を目的として居る教科課程を信じて居る人は小學校に於ける兒童は特殊化した仕事を與へ又は選擇せしめるのには余りに若過ぎる。よし或るものが選擇されるにしても兒童を

有效に陶冶するには發達が不充分であると云ふ。職業的であると云はれて居る多くのものはそんなに大きな教育的價値を持つて居るものではないのであつて、そのやうな種類のものは工場なり、實際農場でやる方が余程經濟的に教へ得るものである。學校で教へ或は學ばしめる教科の課程は兒童が實際世に出て働くやうになつては決して觸れることの出來ぬ世界の大思想大理想なり大業を熟知せしめ親しめる所に大きな價値を持つて居る。兒童の幼き時は如何なる場合にでも、其職業上の狹い影響は感じ得るであらう。きまりきつた仕方で機械的と同じことを爲すことは彼等に強ひられ、其樣なことをすることが兒童の精神にまで喰入つて居る故に子供は己れが爲し得ることよりもより大きなものであることが必要である。公民生活や社會生活に於ける適當な準備を爲さしむる爲めに、人は店の壁を超えた經驗を有せなければならぬし、知識は單に市場の物價の報告や取り入れられる米の俵數に限ることが出來ぬのである。日本人が生れて機械師となり、農夫となり外科醫となりそして死んだとする。それは生れた日本人が各職業を選擇せねばならなかつた必然的傾向を示すものである。それで少くとも日

本人として生れたものは日本人として教育せねばならぬのである。狹い影響を受けて居る子供時代をもう暫らく延ばせ！。日々の仕事についての斷片的の話よりも事物に就て考へたり話したりする方が良い公民となるに助けとなり、己れの隣人を理解する助けとなるものである。然らば何故過重と云はれるまでに學校時代に子供に學ばさしめるのか？

教科過程にもつと直接の陶冶を與ふべしと主張する人々は常に多くの學科の教材は普遍的であるけれども、何等の作用を爲すものでないと常に云つて居る。それが使はなければ直きに忘れられ、生活と離れたものとなつて止まるのみで、學校以外に何も役立たぬ。かゝる一般的教材にどんなものを用ふるにしても、兒童の大部分が學校を人生の初期に卒業し教材が僅かの分量である限り、其一部分を實現し得るのみ。兒童は自分を何處に導いて呉れるか分らぬやうな教材を學ぶ學校へ行くのを嫌がるものである。

一一　「準備」と對立する「現在」の必要（問題的教科課程）

大人の生活を營む活動の準備と云ふ程度にも種々あるが此の程度に依つて種種の教育がある。此の大人になつてからの準備と云ふことが兒童問題の發達を促がすのである。此は方法の問題と同樣に教科課程に付ても全く同じなのである。確かに子供は自分の仕事をする或る置位の材料を必要とするからそれを整へるに都合のよい樣にした方がよいと多く云はれて居る。若しも教場でやることが或る遊び事をするに必要であるならば子供は極僅かの時間で其課業を學ぶものである。問題的教科課程の主張者は次の主張を爲すのである。

1、若し教材が兒童自身の活動から發達して出て來て居るならば兒童がそを熟達せんとする動機は存在するものである。遊戯でおもちやの家を建んて爲に道具の用法を學び買物の費用を計算する爲めに算術を學んだり、學校でやる諸種の會に人を招く眞の招待狀を書くが如きは、動機化された學校教科の一例である。

2、かくの如くして學ばれた教材は兒童の缺く可からざる部分となる。卽ち其教材も彼の他の經驗と同樣に自分のものとすることが出來るのである。讀方、

話方とか算術や語法の規則として孤立したものとしてではなく、或る事柄を爲す手段なり方法として學ぶのである。兒童の教育と云ふことが兒童の問題を解くことから出來て居るならば兒童は教師に次のやうなことは決して云はぬであらう。「私は頁の始めに書いてあつた規則の用法を忘れましたから其處を違へました」とか「私は正方形の面積を測ることを知りません」とか「體積を測ることを知りません」等とは云はぬであらう。

3、若し知識の獲得と云ふことゝ其使用と云ふことの間に永い時間を經過するならば多くのものを忘れると云ふことは確かである。此の種の教科課程は聞かんが爲めに或ることを爲すとさへ云はれて居る位、學習と密接に關係つけしめられてある。

4、兒童後年の必要と云ふ理由で教へられた教材のあるものは兒童の理解を超越して居て一向無關心なるを見るのである。かゝる場合に忘れて仕舞ふかも知れん等と思はれるやうなものは決して實際に學習されたのではないのである。

此等の主張を考へて見ると兒童の直接の必要に適用された材料は確かに偶然的の性質あるもの、組織立てられて居ない性質のものである。會々兒童が問題に依つて學習するならばそれは非常に遲いものとなるのである。大抵の問題は兒童には教師が兒童が出會するであらうと考へるやうな境地を苦心して作らなければ起すものではないから、兒童の自己活動より出る發問から教科課程を整へようとするのは實際的困難に會つて、理論的利益に屈するのみ。或る問題的教科過程を組織するに當つては多くのものは個々の教師に委なさければならぬ。その事は個人的に地方的に、無意味なことが教へられるであらうと云ふことを意味する。兒童が今使つて居る教科の或る部分を總て其經驗の一部にしようと云ふことは夫は不可能のことである。且つ子供は掛け算の九々の如き教材の必要な部分を有効に熱達せんとする强き動機に依つて一生懸命に仕事をするのか或る事柄を明かにし自分の小さい問題を解く爲めに正しく綴る習慣を得ようとして居るのかそれは疑問である。

同樣に又兒童が普通の學校で與へられる刺戟を喜ぶと云ふよりもかゝる目的

を達する爲めにより一層の熱心さを以て學校の仕事を爲すのかどうかそれも疑問である。所謂問題的教科課程なるものは、或る單位の教材が行爲に訴へられたり、何かに作られるものであるか又は觀念が直接に行爲にまで變へ得る言葉を含むものなる時に、其部分を活氣つける計畫としては大變に値のあるものである。此のやうな力は學校外の社會生活をする場合にも又支持されるのを見出すのである。

一二　教科課程批判と教師の關係

既に述べた如く教科課程の批判の多くは俗人がして居る。其或る批判は非常によく穿つたものであり研究の價値あるものである。然し或るものは此に反して略んど力の無いものであつて、單に教師をして其教ふる兒童の父兄がどう考へて居るかよく理解せしめるものであるから同情的注意として效果を有するのみである。恐らく何處の國だつて總ての種類の男女の人々、總ての階級の人々が教育について議論するものではない。且て歐洲人が米國の教育狀態を視察した際

に云つたことがある。即ち『道で合つた最初の人に道を問へ、然れば米國の學校が何をして居るか分るであらう』と。此は我が國に於てもよく知ることが出來るのである。或る地方の教育狀態をよく知らうと思つたならば道行く子供に道を聞いて見るが一番よいのである。此の初等教育に强き興味を感じ國家の問題ととることは、我が國が過去五十年來大に教育に努力して來たことを知ることが出來よう。假令學校に下れる批評がつまらぬ愚にもつかぬことであり不親切なものであつても尊敬して聞き了解せねばならぬ、そして出來るならば學校として必要なことなり問題に關する知識を適當に增加するやうに利用せねばならぬ。

學習コースに付て賢い注意を爲すは教師並に視學の仕事なのである。かゝる批評は誤を發見してそれを眞正面から正すと云ふやうな形で行はれるものではない。それは定つて諧謔的な調子で爲されることを知つて置かねばならぬのである。最も普通の形に於て學校で生產した結果の一部を使用するのは實に商人である。此の商人の批評は常にかうである。學校は餘り多くのことを教へ過ぎる。そして嘗て爲された如き根本的作業を怠つて居る。嘗て爲されたと云ふの

は恐らく彼等の學校時代を云ふのであらうが、とにかく此の樣に云ふのである。小學校卒業生の誤をやるのは殊に書き物をする時とか文を綴時きとか計算に於てよくやるのである。そして其生徒を評して云ふ「近代文字すら書くことが出來ず、金圓の記入計算だに出來ない。何で此の子が合理的なることを豫想し得ようか？

時に此の批評は非常に勢力を得ることがあるので地方の學務課では其爲めに教科課程を變へなければならぬのである。そして學校が特に或る教科を重んぜなければならぬやうになる。假令生徒が發達して行く上に無關係なものであつてもさうなのである。かゝる要求は概して二三の生徒をよくするに止まり他の生徒は時間の多くを失ひ教師の一部には非常の不平を抱くやうになる。あまりよい評とも云ふことが出來ないであらう。かくの如きつまらぬ教科の批正は不必要である。たとへ其爲めに教師が利益を得へ夫を後に有效に指導することが出來るにしてもよいこととは云へぬのである。

商賣人の批評にしてもそれは拒むに困難ではないのである。商人等は彼等が

學校卒業當時と同じ樣に徒弟なる者は皆實用になり得る讀み書き計算習ふと云ふことを考へ其現在の能力より他に考へぬのである。彼自身は學校を卒業してから今やつて居る色々の事を學んだのである。然も今やつて居る事は極く狹いものであつて其業を營む上に限られたる事項であり、其事項についても賢くもなければ敏速でも正確でもない。よく間違ひをするとて叱る使用人以下のものであつて自分に不足を感ずるが故に色々批評が起るのである。學校が作り出した最も良いものは常に商人の支配し及ばぬものである。且つ學校を正しく判斷すると云ふ事は早くから賃金を儲けなければならなかつた經濟的に不運であつた人には出來ぬことである。且つ總ての學習上惡い點を有する人を見る等と云ふことは商人には出來ない相談である。それで考へた商人は學者とか教師を顧問にして店員を使ふのである。

かくの如く屢々要求されるやうな絶對的正確と云ふことは十代の子供には略んど望むことが出來ぬのであつて二歳駒に頑丈なることを要求し重い荷馬車を引かしめんとすると同樣である。屢々學校は形式的に完全に正確な作業を爲さ

しめつゝありやとの質問が出るがそれに對して私等は次のやうに答へようとするのである。これまでやつて來て居る試驗なり考査は古い試驗問題を使ひ、古い文字の範圍を驗し、生徒が覺えて居るかどうかを見たのである。毎年學校ではよりよき書き手や文章家を作つて居るのである。けれども多くのものは敎へられ、學習したことに付て一定の確かさを得ずして卒業する。そして又、そのやうにして卒業するものゝ方が多いのである。其上義務敎育は一般的であり强制的に行はれるから出席者の多くのものに對して極めて僅かな管督より出來ないと云ふことが多いのである。それで其天稟の素質如何に關せず完全に或る仕事を皆のものに終らせなければならぬとすることは不合理である。』

然し基礎的敎科を得ると云ふ標準は、一般にかくならねばならぬと云ふやうな高いものを決して意味して居るのでない。多くの種々の學校を視察して來た他の批評は商人が其結果に付て鋭く批評した如く、それと同じ敎科の上の屢々繰返す練習とか有效なる訓練の必要と云ふものを家庭の方へ追ひやつて仕舞つたまで云つて居る。それで此の事は賢い敎師に個々の生徒をして必ず一定の度に

まで達せしめ得るやうに敎科を配當し、或る敎科を高調し活氣ある方法に依つて時間をより有效に使用するやうに企てよと要求するのである。

一三　敎師と地方的敎材との關係

1、敎師の或る團體に對し適用された研究の特殊の方法は敎師も又夫を採用せねばならぬものである。卽ち學校の一番利益なことは總てのものが好んで其規定を共同して遵奉することである。けれども特殊の事情のもとにあるものは不滿であるであらう。けれども爲政者の爲した所だとして從はねばならぬことにして居るのである。然し公けに職業の外の誤謬指摘は惡い職業作法であつて當に何物をも得ぬのである。どんな學科課程と雖も其小さな部分に到るまで命令的に出して居るのではないのである。此は敎授に當つて從ひ易き爲に作つたもので敎師を絕對に據らしめて知らしめないと云ふのではない。敎師が不用と考へ其土地には本質のものでない、大切のものでないと思はれるものや確に後にした方がよいと考へたものは省略し後に廻はすことを許し最も價値ある生命ある

ものを課し力說することを許して居るのである。廣く解釋し補充的に自由を認めることに依つて自由な態度が出來る。此の自由な態度を取つて居る良き教師は單に印刷された融通の利かぬ課程を離れて常に豐富な有效なコースを作ることが出來るのである。

2、學科課程を忠實に行ふ爲めに努力するにしても、其完全なる理解が重要な段階である。新しい教科は夫が充分に理解されない中に非難される。多くのものは氣分に依つて變化と云ふことに反對するのである。改新に對する最初の反對は消極的な否定である。もしかゝる人が充分に然も悧恰に研究せぬ中に意見を述べるならば、其反對意見は略んど皆不都合なものであることは確かである。此の種の人々は彼等が根本的に必要であると認めて居る教材が新課程に見えぬからとて凡ゆる非觀を教育の上に投かけるけれども後になつて頁數だけは變るが其内容についてはそんなに變化して居ないのを見出すであらう。地方の學校の先生方の普通云ふ不平は文部制定の學科課程は非常によいが田園小學校には適せぬと云ふのである。然しかゝる教師を補助して居る視學連中は時々かゝる不

平家が學科課程を充分に讀んで居ないことを見、且つ彼等に示された新しき價値ある方面を聞かされて驚くやうなことも珍らしくないであらう。現在の事情の下に於ては、各教師の必ず準備すべき事項は試みんとする教科課程について數ヶ月間研究することである。多級小學校に於ては或る級の學科課程や授くべき教科の内容を研究することが大切であつて、其事は或る教育書の分節を放漫に讀むよりもよいものなることを知らねばならぬ。且つ又教科と學年の間の諸種の關係を研究し結果を見ることも又大切な仕事である。

3、教師は兒童の學習コースを修正し變化することを助けねばならぬ。修正することを許さぬやうな教科課程ほど惡いものはないであらう。實際教授を行ひ學習を指導する教師より他に何人も出來ないし又知り得ぬ教材變更の意義ある申出を聞き、合理的な暗示を採用し得ぬほど貧弱な學校管理者や校長はあるまい。教科課程を作製するにあたつて教師を有效に參加せしめ教師の暗示を取りそれを積極的に含めて行くでこそ課程が生きて來るのである。私は此の學科課程が嫌だ。それは余り陳腐だと云ふとか又は其内容が余りに多すぎると云ふのでな

い。かく云ふことは特に其意味が不明であるとか、其儘では利用し得ぬと云ふことよりも遙かに價値の少いことである。

第四章　教師と學校の外的諸要素との關係

此の章で述べんとする學校と云ふ境地の要素の大部分は主として兒童を含めて云ふ教授と云ふものや、教師とか實際働いて居る教科課程とは少し緣の遠い多少外的なものを云ふのである。けれども教授に關係のある內的のものとか外的のものと云ふ樣に區別はかつきりつけることは出來るのではないが茲では便宜上外的のものと呼ぶこととする。そして大體夫を四つに分けて考へて見ることにしよう。

此の中で先づ指を折るべきは、學校存在の地位とか建物とか溫度を含んで居るものであつて、此は制限されきまつて居るもので總ての計畫的な外的設備は此を背景として行はれるものである。校舍は此れに從つて建てられるものであつて此等外的事情を外にして考へずには教育は行はれるものではないのである。かくして暗い教室とか通風の惡い教室は始終生徒の眼の視力とか一般健康に危險

なものである。狹い梯子段とか出入口の不適當な所について居るのやドアーの内側に開くのは火事とか地震等の急激に起る悲慘時に危險を引起すものである。外的要素の第二の種類は物質から出來て居る設備であるが第一のものよりもつと教授に關係して居る點が多い。此の中に黑板とか地圖とか掛圖、衣服、圖書室、其他教師や生徒が教授の際や學習の際に使ふ補助品或は教育環境を作る上の備品等が含まれるであらう。

此の第三、第四と本章に於て區別したものの中に於て教師が管理する爲めにした組織なり、處分をせねばならぬ樣なかゝる教師の作業が入つて來るのである。然も其組織たる方法には常に必ず兒童の健康を保持するに必要なものを含んで居るのである。其上に誰れしも知つて居る如く教授には直接關係がある理ではないが教授の成功不成功は大部分其結果に據るのである。それで物質的環境の制限の下に教科が教へられるのであるから、最初の二節に於て教師は優者であり成否ともに責任を負ふべきものであることを說いて見よう。

一　學校と云ふ環境にある固定した要素

(一)學校と云ふ環境に關する教師の考へ方が正しく合理的でなければならぬ理由　此の種の最初のものに付て云ふなれば永々しく議論する必要はない。學校の地位は選ばれ、建物の構造なり、室の通風採光、溫度等は其仕事を始める前に調べなければならぬ。校舍は人が如何に悃恰に其不滿な點を指摘し不滿足を買ふにしても、もう如何ともする事が出來ないのであつて、一度定つて建つと改築するまで其儘である。公共の態度に著しく變化があり學校の教師なり管理者が大に改革せられても校舍が新しい場所に立てられ新式の構造にせられ新しい地位を占めぬならば常に與へられる注意は有效ではない。時節々々に話される言語は家庭に、より良き影響を與へる偶發的機會となるが故に、制限はあるが教師の更改は生徒の自然的環境を屢々改良するものなるが故に、此等の事は吾が最良の學校管理者に何が賞讃せられるかと云ふ事に關する要素となるべき事實として表はす價値がある。教師の理想は教師の日々に出席する學校の環境によつて力强く影

響されるものである。既に教師が受取つて居る標準を言表はした言葉は此の理想を示し夫を其學校に植ゑつけた程度を語るものである。

(二)學校の地位　學校の地位は勿論二次的のものであるが、此は地理的の中心であるとか又は人口の中心であると云ふ理由で選んではならぬものである。中央に地位すると云ふことの考へが屢々もつと大切な要素を無視するに到るものである。健康と云ふ點から、四時の給水の關係、土壤の吟味、排水の考慮、沼への遠近、塵の多い通りかどうか、空氣の流動を拒むやうな森や岩がありはせぬか風當りはどうか、種々の工場や市の高い建築物との關係はどうかと云ふ事柄が生きた最も重要な考ふべき點なのである。妨害物の存在する場所は努めて避けなければならぬ。

三條の鐵道線路に依つて取圍まれて居る一段歩ばかりの三角形をした土地に、小さき町の學校が建てられたとする。上級の各生徒は教師が居なくても機關車の繪を畫くことを學び其數を數へ、車輛數を計算し、時間に通る汽車を見守つて多くの嫌な苦しい時間を空費する。勇敢なる精神は決して汽車の繪を畫くことを

意味して居るのではないのである。田舍に於て、多くの人の往來する路を見渡す所にある學校では、或るものは教師の惡口を云ひ、或るものは組み打ちを始め、或るものは道を通る商賣人を他の兒童が見ないやうに古新聞を窓に貼つたりする。此のやうな所にある學校は皆間違つて居るのであつて、かゝる所に校舍を建てた社會ほど馬鹿者は世の中に居ないであらう。

(三)校庭　校庭は同時に運動場となることが出來る位大きくなければならぬ。も少し慾を云ふと風致を添へる爲めの庭を取る餘裕のあること、學校園を置いて其處でプロジエクトを爲し得るだけの土地のあることを要求する。子供が農夫の田や畑でボール遊をしたり、學校の側の建物の窓を破つたり、馬車や荷車や自轉車の多く通る通りに出て遊んだりするやうな事情の下にある學校では、此等の事故を防ぐのを一つの教師のする仕事だとして居るのである。然し其社會が兒童に適當な遊び場所を造つてやるならば決して教師を困らすやうな事情は起るものではないのである。

運動場を作るに當つては其形とか合理的な平面と云ふことの外に一年中霜解

けや雨水によつて使用の出來ぬやうにならぬことを附加して考へなければならぬ。勾配をつけるとかコンクリートを布くとか排水上の注意をするならば生徒をして永く教室に閉ぢ籠らせるの要はなくなるであらう。美的見地からしても排水の出來ぬほど平たいのは抗拒せねばならぬ。

(四)適當な道德的環境　最後に述ぶべきは學校の環境の適當な道德的な風潮と云ふものが教師の仕事を明にし、生徒の品性を作るに役立つと云ふ事である。極特殊の場合を除いて學校は青年子女がブラツキ廻る雜閙の地とか、料理屋、貸座敷のあるやうな所に立つべきものでないと云ふ事は一般に云はれて居る所である。かくの如き所に學校があるならば生徒の品性を低級ならしめるのみならず、かくの如き所でかはさるゝ野卑なる言辭が會話の中に織りなされ、不知不識の間に人の卑むべきことが其性質に喰ひ入り、非難さるべきことを正當と思ひ、品性を陶冶する上に導くべき言葉なからしむるに到るものである。假令夫が長屋の櫛比して居る所でも浮浪人や遊び人が行かない所は學校が最もよく利用し得る土地なのであるが然し惡く行くとふと惡い方面へ發達するからなるべく避けた方がよ

い。此が學校は假令どんなに小さくても村の中に建てるよりも郊外に建つべしと云ふ議論の一論據となつて居る所以である。

(五)學校の位地及び運動場の改良　(イ)學校園　田舍の教師には學校の運動場なり其用法を改良することは難なく出來る。其理由は比較的短い期間に學校の庭園は役に立たぬやうになる。雜草の生ひ茂ける猫額大の小地面は直ちに手入れすることも出來るが、夫は夏休みには教師には略んど教育的價値を有せぬものとなり美的價値の無いものとなる。然も忙しい社會は學校の庭にある小さな庭園などは大きな他の社會的利益の存在する爲に忘れて居る、之は適當の設備を爲して學校園に於けるプロジエクトを完全にする爲めに用ふることが出來るならばそれは非常に價値のあるものとなる。

(ロ)植樹日(北米合衆國の西部草原地方にては一人一樹を植うることとし、其日を特にアルボアデイと呼んで居る)　植樹日の儀式は米國ではよく行はれるのであるが、これがよく行かないのである。これは植ゑる木の種類を注意して選ばぬことと、適當な植ゑ方や忙しい植ゑ方を知らぬ爲めと、新しく植ゑた木に適當な注意を拂はぬ爲めに起るのであつて、つまり管督不行

居の結果である。木を植ゑさせる學校の方でも餘り注意しないし生徒の側でも其意義を充分に會得して居ないので、木が大きくなれば枝が折られたり切られたりするので面白く行かぬ相である。けれどもこれは兒童の進級した記念とか、卒業記念とか云ふ具合に兒童の側の或る事件と關係つけて行くならば面白い結果を得るものであり、植林の上に興味を持たしめることが出來るのであつて、青年會に入會するを待つ必要はないのであらう。此の子供の植ゑた木に對して常に注意せしめることは、兒童をして自己のしたことに對して永久に責任を感ぜしめることが出來るのである。

(ハ)改良すべき其他の事項　人が教師として或る學校に一年を費すならば建物の上に付ても、又地面の上に付ても、外的事項を改良せねばならぬ多くのもののあることを見出すであらう。次の二三の事項は議論を待たずして改良すべきものなることを首肯し得るであらう。

(ニ)大掃除を徹底的に爲さしめる事にもつと力强い興味を感ぜしめること。物はそれを綺麗にするよりは大切にせよと云つた方がよいかも知らぬが、掃除と云

ふことと物の保管に注意せしめなければならぬ。かゝる事は社會の爲すべきことで教師の爲すべき仕事の中には入らぬであらうが、今ある如き事物の神は言葉に現はされぬ多くの義務を教師に與へるのである。

(ホ)此はよくあることなのであるが以前に必要であつた垣根は移轉さすこと例へば灰の捨て所に棒があつたり入口に車止め等のある所は取り拂つて自由に歩けるやうにすること。

其他の改良すべき點は更つて來た教師の目によくつくであらう。あらねばならぬ所に植物が植ゑてなかつたり、庭を眺め、校舍を見たならば、自分の學校の環境の改良すべき點の幾つもあることに氣付くであらう。

(六)教室の大きさ及び形について　教室の適當な大さと云へば普通兒童一人につき床上十五尺から三十尺の正方形の面を要すると云はれて居る。少くとも各兒童に二百立方尺の空氣を要するとされて居る。大さと其形を考へて見るに長方形の方が正方形の室よりも光線の關係とか音響の關係から見てよいのである。模範的の教室といへば二十八尺に三十二尺の室で、室の巾は二十四尺を超えぬこ

とであり、特別な光線の關係がないならば高さは十二三尺のものである。二十八尺以上の室では多くの教師の經驗によると後の兒童にまで其聲が充分に屆かぬと云ふことである。其上容易く話を聞いて學習することの出來る子供でも後に居る爲めに教師が彼等に何をいつて居るか聞き取れぬこともあり、黑板の字を讀んだり表とか地圖を充分に見ることの出來ぬことが多い。教場に於ける教師は教室の大きさや形は自由に變へることが出來ぬであらうが、兒童の席を色々に考案して作り變へることに依つて餘り長いものは短かくし、種々の道具を整理して餘り狹いものは擴けることが出來るのである。

(七) 教室の光線について　適當な光線といふことは其量とか方向とか、それを强くしたり弱くしたりする統御の出來る事を意味して居るのである。光の分量は假令兒童が鉛筆を机上の紙の上に垂直に持つて居ても强い影の出來ぬほど充分にあることを必要とするのである。一般に窓の面積は床の面積の四分の一から六分の一あることを要する。それは勿論プロジエクトをやる壁なり木なり他の建物のあることにも或る程度まで關係するが大體右の如きが適當と考へられて

居る。光線は左方及び後方から導かるべきもので、時には右から來てもよいが絶對に前方から導き入れてはならぬ。窓は略んど天井の高さに及んでもよい。交叉光線は避くべきものであつて其恐れがある場合にカーテンで兩方の窓を覆ふが出來ぬならばクラスの机を一方の窓へ近寄らすべきものである。蔭影は光線の分量なり方向をコントロールする爲めに用ふることが出來る。最も實際的に行はれる場合は上から下りる所のカーテンを半分位下し、閃光を防ぎ太陽の直接光線を避ける樣に窓のカーテンを按配する事である。光線を保つ爲めには壁を淡黃色にするか强い綠色として天井を白色にするかである。東から來る光線とか西から來る光線は南からや北から來る光線よりもよく利用することの出來るものであつて、南や北から來る光線は直接光線とか强い反射を避けることが出來ないから特に故障の多いものである。

教師は建築物以上のことは出來ない。建物の中で仕事をせねばならぬのである。しかし教師は一日中最も良き光線を得んが爲め又は惡い光線の所に居る生徒を移動させるなりして、影を注意してよく教室を利用せねばならぬ。太陽光線

が書物を開けた頁の上に照りつけて居るのにそのまゝにして置いたり直接光線に向はしめるのは犯罪を犯すのと變りはないのである。若い先生は小學校の上級生はそのやうな悪い條件は自分で避けるものだ等とほんやり考へて居る。然し兒童は上級生でも一向此をやらぬのである。教師が生徒の視覺を重んじたり、蔭影について考へたりせなくても視學はこれに無關心なことが多いのである。

(八)座席について、

最も良い學校の座席と机は一人一個づゝであつて、それが自由に加減することの出來る裝置になつて居るものである。一つの机に二人向ふことに對しては一つの意義ある議論がある。それは經濟的意義である。しかるにそれには種々の不便がある。多くの生徒が獨立して自分勝手に仕事することが出來ぬこと。普通の子供は不始末な机に向つて居る子供と一緒に坐るし、地方に依つては座席を定めるのに身長順とか籤でするとか、出來不出來によつて定める爲めに清潔に身を持つものが常に自分と同じやうな人と一緒にならぬことや、隣り同志の腕白小僧や、人種上の偏見から敵視して居るものと一緒に座を占めて種々の困難を惹起することや、傳染病が隣の席の子供にうつることなど上げて見

ると隨分澤山ある。自分で高低の加減の出來る机なり椅子を非常に愉快なものとするに到る。腰掛なり机の高さに依りて發達しつゝある子供は一年中數回も席を更ふる必要がある。適當な机や腰掛がない時には生徒を動して最も適せる地位を占めさせなければならぬ。座席の不適當のものとして普通に次の樣に上げてある。

1、腰掛けの高過ぎる場合、生徒の足は床にとゞかぬ爲めブラブラさしたり、後の机によりかゝつたり、兒童がすべり落ちる。

2、腰掛が余り低きに失するもの、生徒は鎌の樣な腰付になつて二つに折れる。

3、机の高か過ぎるもの、字を書く腕や左の肩が左の方よりずつと高くなるので脊髓彎曲になり易い。

4、机の非常に低いもの、兒童は肱を前について脊を曲げるので後屈になる。

5、机と腰掛の餘り遠く距つて居るもの、(プラスの距りと云ふ)兒童は腰掛の端に座するか、又机によりかゝる。

6、机と腰掛が餘りに狹すぎるもの、(此をマイナスの距りと云ふ)體をつめられ

て氣持の惡いものである。席を出入するに不便である。

決して總ての不格恰な、不衛生的な學校兒童の姿勢は皆な學校の不適當な器具によるものではない。けれどもかゝるものが兒童の中に存する限り其救濟をはかるべき者である。此の樣な惡い器具は身體的に危險なばかりではなく、又それが兒童に不格恰な姿勢を强ふる限り、兒童はベストを盡して仕事をすることの出來ぬものである。適當な席が與られるならば兒童は始終教師の課する作業や自分で計畫した仕事を喜んでする。此をよく檢査することも又教師の仕事である。不適當な机や椅子に腰かけさして置いては教師が如何に努力した所で好適な兒童の作業は決して望むことの出來ぬものである。

近代家具の發達は種々な机や椅子の形を作るに到つた。短時間は例外として垂直に字をかくにより漠然とであるがよい姿勢を保つたまゝで書くことが出來頭を曲げる必要がないから非常に愉快に作業することが出來るのである。或る二三の椅子なり机は仕事の種類に依つて高さを變化する事が出來る樣に成て居るならよい姿勢で仕事が充分に出來るのである。此のやうな改良を學校に施せ

ば非常によい改良となるので虛弱になる他の原因の無い限り、學校病と云はれて居るものに子供がかゝらずにすむのである。過去十年間に作られた數萬の小學校の机は多く立派な仕事が出來ない樣に作つてある。それはぐらぐらする爲めに書くことが出來ぬのである。どんな立派な書家であつても動かぬ支へがなくては字を立派にかくことが出來ぬのである。況や机によつて兒童の伸ぶべき材能を壓へつけて置くが如きは實に罪惡である。これと同じやうなことは机がゆれたり又は其幅の狹い爲めに書物なりノートを生徒が床に落すことである。此の爲めに生徒の作業は如何に挫折することであらうか？然しあまりよく造られた机は鍵だの、錠前だのと云つて仕事を始めるまでに隨分時間を取り物の出し入れに不便であるから適當なものでないことが分かるであらう。

机は一人一脚であつて自由に高さなり幅を變ずることが出來るもので然も諸方へ持ち歩くことの出來るものなることが諸種の理由から必要だとせられる。便宜上いづれの學校も机を眞直な縱列にして置くが夫は自由に動かし得るものであつて時には圓形風に作り、作業の種類に依つて種々の方向に向け得るものな

るを必要とするのである。會話をするに當つては其話によつて分團を作るとか、合同作業をするに當つて仕事の都合上十人なり五人が一所に寄り集るやうにすることが出來るものでなければならぬ。特殊な事をやつたり學藝會をしたり、其他社會上の種々の會合が學校で爲されることもあるので清潔にされた廣い床を要することが多いから生徒の携帶品置場とか廊下とか教室の一方に總ての道具類を片付けることの出來るやうにして置くことが學校としてはよいやり方である。机腰掛類は頑丈であり然も動かして破損せざる程のものを作らねばならぬ。その他教室の形について云はれる所のものに關係して居るが、もし机腰掛が固定して居て動かぬものであるならば兒童席の列の長さを室の長さとに比例して作る便宜上のやり方は先づ仕方がないとして認めなければなるまい。

(九)教室の換氣について。適當に換氣することはよい學校作業の缺くべからざるものである。衣服から生ずる不潔物、呼吸の爲めに生ずる有機物クレイヨンの塵、ときとしてはストーブから來る一種のガス、同じ空氣を度々吸ふことから生ずる空氣の變化等は屢々教室の空氣を換へることを必要とするのである。教師も

生徒も往々惡くなつて居る雰圍氣に氣が付かずに居ることがある。然し其教室へ他から入つて來る人は直ぐに換氣の必要を感ずるのである。時として秩序的に排氣をやらぬ教室に入つて來る先生は一分か二分遲れて來た時に最も其必要を感じ、實感を得ることが出來よう。然し實際何リットルの空氣が必要なのか何立方尺の空氣が入つて來なければならぬかと云ふ空氣の量を測ることは困難である。然し近代の研究に從へば同じ容積の空氣では夫が死んだ動かぬものである時卽ち少しも動かぬ場合には、同容積の動いて居る空氣に比して遙かに有害である。兒童は一人につき一時間に二千立方尺から三千立方尺の空氣を汚すものであると云はれて居る。勿論兒童一人が此れ丈の空氣を實際に呼吸するのではない。汚すと云ふまでゝある。他の方法で測定した人は普通の大さの教室は三人の兒童の要求に應ずるのみであるから十分間毎に一度づゝ完全に換氣せねばならぬとして居る。けれどもかゝる測定は換氣の理想を一般的觀念で云ひ現はしたものに過ぎぬ。然し誤つて餘り窓を開け過ぎ空氣の流通をよくし通ぎるとストーブを焚く所では終日室を暖めずに居なければならぬであらう。換氣の必

要はあるが隙間だらけの我が國の各小學校は此の點では大に手を省くことが出來るのである。ストーブを焚いたとて廻轉窓を開け放して置く要はないのである。換氣の充分に出來て居る教室では常によく兒童が活動するのであるが、寒い時に新鮮な空氣と稱するものを入れ過ぎたり、室を冷し過ぎると云ふと、發育の途中にある子供は直ぐに故障を起すのである。換氣の不完全なのは一人一人の兒童を打つことよりも罪惡である。換氣窓のある室では兒童の呼吸狀態を直接見なくても、空氣の入れ換へに注意することは教師の一の作業である。風の方向に注意し、溫い空氣が窓の上から急に逃げて行くことに氣付て居る場合には總ての窓の上を少し許り開けて置くのがよいので一つの窓だけ開けて置くのは餘り效果の無いことである。此の窓の上の方を少し許り開けて置けば寒暖計を眺めつつ室の溫度を充分に保つことが出來るであらう。屢々教師は休憩時間だけ開け放して置くが此だけでは、一人の兒童により汚される空氣の量だけ入れ換へる事が出來ない。然し冬期に於ては空氣のよく流通する冷い一室よりも空氣の動き方は少しは少いが、暖かい溫度の室の方が健康にはよいのだと云ふことを記憶せ

ねばならぬ。田舍の學校や地方の學校に行くと朝寒いのに窓を開けて居るので、ストーブをドンドン焚くのであるが中々室が溫まらない。此の室の充分に溫り切らぬ中に嚴格に換氣に注意すると云つた所で夫は無知を示すものに他ならぬ。ストーブを焚けば空氣はストーブの中で溫つて外に出る。それで隙間から空氣が突進して來るのである。ツマリ、ストーブが換氣器の役をして居るのを知らぬのである。それでも兒童の多い爲めに換氣の要ある時は廻轉窓の上の方を少しづゝ皆開けて置けばよいのである。室を溫めることと換氣の關係は冬期の寒い時に有效に行ふべきものであつて溫い時分には、それほど注意するの要はないであらう。此の換氣の設備をするにしても換氣するにしても、溫い空氣は膨張して上騰し冷い空氣は凝結して下降すると云ふ原理を記憶することが大切である。

(10) 教室の溫度を適當ならしむべし　教室の溫度を適當にすると云ふことは健康の上にも教授訓練の上にも關係することで缺く可からざる事である。大きな建物の中では教師の直接の責任は室の寒暖計が適當な溫度を示すや否やと云ふことを見て溫度を適當にすると云ふことで終つてよい。其溫度だと云ふのは

我國では大體五十五度か五十八度と云ふのがよいであらう。多級小學校とか其他ストーブを多く焚て居る教室を持つて居る學校ではよく溫度に注意することが必要であつて、其調節はかゝつて教師の肩にあるものなることを忘れてはならぬ。兒童が暑過ぎて困らせぬか、寒過ぎて困らせぬかと云ふことを見るのも又教師の責任である。室が馬鹿にストーブで溫められることは悪い條件の最なるもので、其爲めに兒童の多くは咽喉に故障を起すであらう。其教室の熱の根原なるストーブの傍へ余り近く寄せ過ぎるとか燒けても居ないストーブから餘り遠く距らせしめると云ふことは餘り感心せぬことである。兒童を氣持よく教室に座せしむるや否やと云ふことは全く其擔任教師の責任に歸してよい。此の責任を考ふるに當つて尙一つ注意すべきことは、溫かさうに重衣して居る子供や營養のよい子供とか脂肪分の多い子供は風邪にかゝることの少いことである。最後に注意すべきは男兒は女兒よりも風邪にかゝり易いと云ふことであつて、女兒は脂肪が多いので男兒よりも風邪にかゝることが少いと云ふことである。

(二) 教室内の空氣の溫度　溫められた教室内の空氣が餘り乾燥し過ぎて居る

ときには確かに我が國の多くの學校には濕度を與へる設備はしてないが故に、ストーブの上に鐵皿なり蓋のない水入れなりを置いて其乾燥を防ぐやうにせねばならぬ。それでも不充分の時には教室に撒水する必要のあるものである。此の注意を忽かせにする時には風を惹く原因を作るものであり兒童の鼻とか咽喉を害するものである。火を焚いて室を溫めると同時に室の乾燥を防ぐことを充分に考へて置くことが大切である。

二　教辨物

教師は屢々教授の際に使ふものを適宜に購ひ、それを自由に然も有效に兒童に使はせることに注意せねばならぬ。此の購入と使用の二方面についてはどう云ふ結果が現はれて來るかと云ふことに對して注意して見なければならぬ。特に教授に際して使用することに付ては後の章で述べることにする。如何なる試みを爲すにしても此の教辨物に觸れぬものはないから一通り學校の外的要素として此等を考へて置くことが必要であるし、教授の際に大なり小なり利用すると云

ふ上に便利であるから考へて見よう。

(一)黒板　黒板は普通木であるがよいものになるとガラスや、石盤が使用しゝある。此の黒板は餘程まで兒童が自由に使用し得るやうに裝置せねばならぬ。低學年の教室に於ては黒板の下端は床から二十六インチ以上であつてはならぬ上級に於ても三十六インチを限度とすべきものである。板面の幅は四尺あれば大抵間に合ふ。長さは長い程よい物である。或る教室には十二インチか十六インチまでの幅のある鏡板がつけてある所もあるが此は何か永久に飾物をつけて置くとか屢々必要な圖表を貼つて置くのに非常に便宜のよいものであることが證明された。此の上部にある黒板は黒板其物の要求に從つて書く場合を廣くするのみならず、其上部なり使用せぬと思はれる所に塑像や彫像を懸けて置く時には其處に文字を書き畫を畫く時いつも清潔にすべしと云ふ藝術的理想を高張するに役立つであらう。黒板は二つの窓の間にある細い壁間に懸けてはならぬものである。もしかゝる所に黒板をかけるならば教師の仕事は兒童の注意を惹かないであらう。

チョーク又は黒板に使ふクレイションの塵は黒板を過度に使ふと起る一の危害である。此を除くには

(イ)所謂澱粉チョークを使へばよいであらう。それを使へば略んど塵が立たぬことを知ることが出來よう。

(ロ)黒板拭とか石板拭は下級に於て塵を出す噴火口となるからよく此ははたかせなければならぬ。

(ハ)黒板の下端にある溝は毎日よく注意せしめなければならぬ。塵の飛ぶ主なる原因は、拭き物を使はなくても、黒板を使用するものが其處を動くと飛立つのである。餘り大した發明でもないが黒板の下端の溝に細い目の金網を入れて置けば餘程塵の立つのを防ぐことが出來るのである。其金網の構造は上部が金網で下部及び三方が木で出來て居るときは非常によい。黒板を拭く時にも塵の多くは此の中に入り、溝に落た塵は、此の金網箱で捨てることが出來るから、單に塵溜の役をして居る溝よりも非常によいことを知ることが出來るであらう。

(ニ)黑板は屢々洗ふことを要する。我が國に於てもよく使はれて居る小黑板は大體敎師が使ふものであるから、濕つたスポンジを拭き物として使へばそんなに塵の立つ樣なことはないであらう。

(ホ)生徒や兒童には黑板を掃くのによく注意すべきことを敎へなければならぬ。黑板拭きを手でぶらぶらさしたり床に落すと室中塵まるけになることを知らして置くの要がある。

兒童がやる黑板上の個人作業の價値は非常に大きいものであり、緊張した仕事を爲さしめ得るものであるから塵が立つからと云て廢めさしてはいけない。塵が立つからとて黑板上の個人作業をやらせない先生は、兒童の力を伸す機會を浪費する人として、彼の板上の說明がまづい人であるから其使用を拒む人として見てよい。

黑板の上に上手に繪を畫くことの出來る先生は單に聲にのみよつて仕事をしようと云ふ人よりも非常に大きな利益を持つて居るものである。然し總ての人は黑板を以て、線や圖表や綴字や、言葉をかきつらねて敎授の實際を改良しようと

するものである。敎授者が試みる統計表的試みは、更によい仕事を爲さんとする刺戟である。如何に多くの敎師が獨語して居ることであらうか、卽ち『此の生徒は私に如何に期待を向けて居ることであらうか？然も私は板上にチョウクで以て何物をも充分に發表することが出來ないので如何に彼等を失望せしめて居ることであらうか』等と獨語せしめることであらうか？

器用な先生は板上に一部を手際よく書くのであるが、地圖は多くの學科に缺く可からざるものなのである。學校の黑板は常に此等の材料を現はす爲めに自由に使用されるものではないけれども、敎師はよく設備してあるものを充分に使用せずにしまふことが少くないのである。或る學科に關係して居る地理は二三の子供がよく知つて居るかも知らんが、級の三分の二以上は地圖の助けを貸ることを必要とするのである。田舍の視學は或る學校の歷史の授業を見たら直ぐ其必要を感ずるであらう。立派な地圖を使用することは必要なことであるし又望ましいことであるが敎師は常に其地圖に興味を有するものゝ爲めに一定時間の間其敎室に掛けて置くことを必要とするのである。勿論塵が地圖の上にかゝるで

あらう。けれども教師は其地理の塵を拂ふ時に彼の旅行談をやりつゝ卷き藏めたならば、其教師の傍に居る子供に大變地理を愛好する心を起さしめ得るのである。多くの學校は一年の半分も地圖をかけて置くやうなことがあるのか知らん。中等學校の或る先生は次のやうなことを云つて居た。一時的に時間時間に地圖を持つて廻つたとて何もならぬ。そのやうな地圖の使ひ方は全く失敗だ、假令黑板に其地圖のスケッチを書いて置いたとて駄目だと云て居る。

よく兒童を觀察することの出來る或る學校の高等二年を教へて居る某氏は云つて居た。或る子供は其歷史の書物の中へ一頁大の地圖を書くのに努力して居た。すると其先生は云つた。其地圖は歷史の時間中は閉ぢて置きなさい。あなたはその地圖を時間中に見てはなりませぬと云つて叱つた。此の先生は二重に誤を犯して居るのである。此の先生は地圖を使ふに一番よい時は暗誦の時であるとして居るのであるし、使ふべき地圖は値の高い地圖とか年表でなければならぬと考へて居るのである。其二つは何れも利用することの出來るものであつたが然も利用されなかつた。かう云ふ先生は地圖の爲めに金を使ふことは學校當

局の喜ぶことだ等と考へて居るのであらう。何が故に使用もせぬものや無用な備品に金をかけるのか？

兒童の前に久しく地圖がかけてあれば兒童は自然に多くのことを地圖から學ぶのである。かくの如き地圖は始終使はれんとする機會を待つて居るものであり兒童に何物かを常に與へつゝあるものなのである。然しながら學校の壁間が狹かつたり、色々の道具が並べてある所では充分に實行することは出來ない。けれども地理とか歷史の特別教室を有する所とか、特に備品置場の定つて居る所では容易に出來ることであらう。最も便利で然も學校の最大多數のものに役に立つ地圖は大きな卷きものになつて居る地圖であつて、必要な所だけ大きく出すことの出來るものである。此を持ち歩くことの出來る箱の中に收めて置けば最も便利である。最も優れた教授上の計畫は黑板に略圖を書いて置くことであつて黃色なり白色のチョークでやるがよい。すると其略圖は研究せんとする方面を現はさしめるのに非常に役立つものである。大低の壁間に掲げてある地圖は詳し過ぎて混雜して分らぬ所が多く出來るし其上現代の地圖なる時は、歷史上の觀

念を其地圖で與へることが出來ぬから略圖を書くことは益々必要となつて來るのである。略圖は地理としての現代の特殊な方面の研究を含んで居ないから特に歴史なら歴史、地理なら地理で學習せしめんとする點を明確にすることが出來るのである。然もそれを器用に使用することが出來るならば兒童の地圖ともすることが出來るのである。

(二)辭書に付て　辭書の使用は一生涯續くべき習慣である。若し兒童に辭書の經濟的で然も有效な使用法を敎へることが出來るならばそれは最も好ましきことなのである。然れば或る部分は敎授なくして學習し得るのであるが、或るものは夫を嫌ひ、他のものは時間を浪費する習慣を作るかも知れぬ。けれども其使用は確かに敎師の餘計ないらぬ努力を無くするのである。嫌ふもの、時間を浪費するものは引き方を知らぬ爲めであるからこれはよく敎へてやればよい。理想的に云ふと兒童各自が自分で自分の辭書を持つてゐることが必要である。學校で書物を供給する所では辭書は缺くべからざる備品の一部である。次の樣なことが辭書の使ひ方を敎へるに助けとなると云ふことであるから列擧して見る。最

初使はすべきものは、イロハ引がよい。

(イ)兒童は自由にイロハが使へるやうになつて居なければならぬ。

(ロ)色々の名詞や、代名詞、形容詞などを(敎科書に出て來たもの)イロハ順に列べさす練習をさす。

(ハ)イロハの順序を考へしめて、或る字引に並べてあるやうに言葉を順序正しく並べる實習をする。

(ニ)字引に依つてイの部分は何の邊にあるかノの部分はどの邊にあるかシの部分は何の邊にあるかをイのつくものは初めの方にありノのつくものは中邊に、シの頭につくものは終の方にあることを知らしめる。そして他の字のある所を容易に見分けることの出來るやうに練習させる。

(ホ)字引の頁の最初にある言葉を見出しの語として數個書かして見る。そして同じ樣な言葉が目標の語の前後に並んで居ることに注意せしめる。例へば、あたまとあると、あたり、あたい、あたる、あたたかい等と目標となる言葉の次に並んで居ることをよく知らせる。

(ヘ)目標となる語を方便として五語なり十語の書いてある紙片を渡し此を早く見出す練習をさす。此の實習をするに當つて子供は字を見付けた頁を記入して置けばよい。

(ト)上級に於ては此の練習をやつてどれだけの語の意義を覺えたか、音は如何に、訓はいかに、と云ふ此の三方面を注意して見る。

(チ)子供は必要な言葉を見出すのも困難であり、適當な字の意義を見出すのも困難であるから、必要な字の必要な意義を見出させる特殊な練習をするの必要がある。この樣な練習は兒童に字を引くに當つては注意深き選擇が必要だと云ふことを少くとも結果として知らしめることが出來る。

(リ)見出しにある說明とか附錄は價値の多いものである。兒童にも敎師にも此の利用すべき點が利用されぬ爲めに、不確な點に答を得ずして字引を恨むやうなことが少なくあるであらう。

もし兒童が各自字引を持つことが出來ないならば、此の辭書使用の原理は經費の問題となつて來るのであつて金に依つて定つて來るであらう。二圓に六册位

な辭書でも毎日毎日非常に役に立つものであつて一册に二圓かけた書物よりも或はもつとかけたものよりも永く使用され或は兒童に利用されることが多いのである。尋常小學とか高等小學程度の敎室の理想的設備は各個人が使用し得る辭書を備へて居ることである。そして最後の審判官として完全な辭書か、語を省略してない詳しいものを一册備へ置くことである。

(三)百科全書　百科全書は學校に於ける設備として一通り持つて居なければならぬやうである。然し夫は他に有效に使用し得る金なるときは得られないものであり、學校が其他の必要なる圖書をかなり備へない中は得られぬものである。それが備へられた時なり、兒童が夫を使用せんとする時は必ず敎師の指導を待つて爲すべきものである。或る學校では此のやうな書物を多く買つて子供が此を破るに到つたらとて誇りにして居る。これは百科全書より他に參考する書物の無い時には止むを得ぬが他に兒童の讀むべきものがあるとするならば餘計な金を支拂つたものと云はなければならぬ。此百科全書は買ふにしても買ふ前に、其內容は正確で落頁はないか、其印刷は鮮明か、記事に誤はないかどうか、書いてある

言葉は著者の意志した樣に子供等に分るかどうかよく確めなければならぬ。夏期の林間學校用とか、或は教師代用とか、全科表解などと云ふものは此の點に於て失敗して居るものである。有名な天下の訓導が序文を書いて居る物でも不完全なものが多い。

(四)學校の圖書室　學校の圖書室とか學級文庫と云ふものを作つて書物を選擇する時はよく書物を知つて居る人に悧恰にやつて貰ふことを忘れてはならぬ。よく見て見ると世の中には教師の圖書選擇上の最もよい判斷を障げるやうな傾向がある。其第一は選擇せんとする教師が校長なり主事の趣味に從つて書物を選び己れの判斷に從はぬことである。一は強い歴史的因習に捕はれたり又は科學的傾向に迷つて最も大切だと思はれるものを購ひ得ぬ事である。又教師の趣味は一般的のものでないから、多くの子供に同じ興味を持す事は考へ物である。第二の判斷の誤は時の流行に從つて本を選ぶことである。此等の書物は棚にある時はよく見えるけれども、其中にあるものゝ中には非難すべきものも少くないし、流行のもの必ずしも悉く勝れたものでないからである。且又同一型の書物が

多過ぎたり、他の必要なものを買ふ前に資金が無くなつたりすることがあるからである。且つ此は數年經れば餘り價値がなくなるから心すべきことである。第三に心得て置くことは二十部、三十部と揃つて居る叢書を購ふことは金の餘つたときにすることである。叢書類はなるほど立派に飾ることが出來るが叢書の全部が傑作と云ふ理でもなし、多くは同一典型の記事に流れることが多いから、購入は後廻しにせねばならぬ。田舍の學校や村落の小學校は多く此の叢書病にかかつて居るやうである。第四の誤りは單級の學校等で見る所であるが生徒の知識の程度に應ずることに失敗して居る點である。小さい兒は最も數の多いものであつて而かも家庭にある數多き種々のものを讀むことが出來ぬものなのである。上級の生徒は下級の必要の爲めに購つた書物を面白く讀み、利益を得るものであるが上級生の爲めに選擇されたものは下級生は受け取ることが出來ないので無價値なのである。

一般に書物は學校の教師とか學校の事務を專ら取つて居る人が選擇するものとされて居る。然し社會の子供の爲めの圖書費と云ふものは、所謂素人側のうけ

の良いものゝ爲めに費されることが多いので、學校兒童が鑑賞し得ぬやうなものが多く與へられて居るのである。兒童の讀み得る書物を知り、其必要なものを選ぶのみならず圖書館なり圖書室の使用を鼓吹し指導する事は立派な教師の作業の一つである。書物なき家庭、社會の圖書館や、兒童圖書館を一度も訪れたことの無い大人が住んで居る家庭では子供をして、學校であてがつた教科書以外に何も讀まぬやうな子供を育てることとなるであらう。幸にして私の學級は村井義寛と云ふ篤志な人があつて此の兒童文庫と云ふものゝ建設に進んで出資されたので一通り尋常科低學年の讀むべきものを集め得た。それに林國藏氏を始め二三の特志家が卒先して出資されたので現在の如く一通りのものを集むることを得たのである。私は大體以上の見地に從つて圖書を集めたのであつた。

尙一つ此の兒童圖書館なり兒童文庫の特色と云ふものを擧げて、一般讀者の御高判を仰がふと思ふ。私は兒童文庫乃至兒童圖書館には金があるならば少々の無理をしても教科に參考ともなるべきものならば同一種の本を五六册づゝ備へて置くべきものと思ふ。特に兒童の興味を有するものと思はるべきものは二三

册づゝ購置く方がよいと思ふ。子供は他人のやつて居るのを見て自分もそれに倣はんと欲するものであるからそのやうにした方がよいと思ふ。殊に低學年に於ては其必要を感ずるものである。然らざれば他人を恨むとかそねむ面白からざる氣風を生ずるからである。

(五)備品購入の指導者としての教師　屢々教師は備品購入の指導者なりと云はれて來た。此の信任を果す爲めに適當の忠言を叙し置く必要がある。教師は書物なり、備品の出放題の値を知つて居る等と豫期してはならぬ。教師は誤を避け金の浪費を防ぐ知識を得て居るものであり又得ることの出來るものである。商品目錄なり、標準相場は出版業者や學用品供給者から出されて居て注文すれば得られる物である。それをもよりの商店で購ふ爲めに各府縣の學校備品費と云ふものは非常な額に登つて居る。かう云ふことを實際授業したり校務を取つて居る教師に忠告するのが視學の仕事であらう。

一番よいものを得ると云ふ理想は時として浪費になる。何故なれば一番よいものは決してよすぎると云ふことはないから。學者なり、學校當事者に最善と思

はれるものも小學校の兒童には適當ではないであらう。そのやうなものは子供の手にかけては浪費に過ぎない場合が多いのである。例へば田舍の單級小學校で種々のことをして得た百七十圓の金を大きな地球儀を購ふ爲めに費したとする。それは其小學校に取つては備品の極一部を備へたに過ぎないのみならず、教師の誰れもがそれを充分に理解することが出來ないし、大きいと云ふだけでそれを見た生徒に少しの興味をも與へる事の出來ぬつまらぬことになるであらう。田舍では十五六圓の地圖で結構である。最善のものを望むと云ふとそのやうな結果に陷るものである。

これと反對に書物や備品には最少の費用より出さぬと云ふ所に出合ふ。安いものを購つたとてそれはつまり何も得る所がないのである。唯値が安いと云ふので昨年の年鑑を買つて見たり、古い品物を買つたりすることがあるがそれはつまり何もならぬ浪費なのである。五錢か十錢安いと云ふので、貧弱な表裝の本や、紙表紙の本が時々圖書館で見出される。表裝して無い本は誰も注意せないからして、かゝるものを備へる人の經濟的知識は疑はしいものである。荒らされて居

る本棚とか、表紙のたれ下つて居る書を藏して居る圖書館や文庫は、完全なものと云ふことは出來ないのである。

(六)教室の裝飾　此は私が初めに考へて居た備品の中には入つて居なかつたのであるが、教室の裝飾と云ふものは、學校が作りつゝある生徒の品性の上に大きな影響を與へるものであつて、教師が必ず心得なければならぬことであり、その藝術的の趣味を養ふものである。正しい調和的な環境は如何なる人も理論的に否定することの出來ぬものである。假令時に誰れも略んど注意せないけれどもさうなんである。

けれども教室が美しいからとて算術をよく學ぶことが出來たとか歴史がよく出來るやうになつたと云ふことは證明することが出來ない。然しよく飾つてある室で勉强した子供はより多く學習し得ると云ふことは蓋然的に云ひ得ることなのである。其爲め社會が學校の樣子はどんなのかと注意して子供を多く送るが故に、それに無關心な社會の子供とはよりよく學習し得ると云ふことに歸することが出來よう。これと學習と云ふことは別であつて、單に學校の一の働きに過

ぎないが子供は其鑑賞したものに依つて生長するものである。然し吾等の經驗した總ての部分となると云ふことは云ひ難いし又吾々が經驗する總てが我々の部分となるものだと云ひ難い。然し思慮ある教師は何れの言ひ廻しにも贊成せぬ、何故なれば善良なる趣味は非藝術的雰圍氣の中では養はれないからである。

教場の裝飾の中にある藝術的趣味は該切なものでなければならぬ。然し教室の壁間をうづめて美術展覽會の會場のやうにするのは理由のないことである。「多過ぎるよりは少な過ぎる方」と云ふ方が從つてよい格言であらう。教室は馬鹿に華美なもの、粗笨なもの、纖弱なもの、俗惡なものを置くべき場所ではない。若し有意的に室の美を保たんとするならば低級な藝表的標準を防ぐ爲め、家から適當のものを貰ふなり借るなりして據るべき藝術上の標準を示して置くべきものであらう。無害であつても、不適當な部分がなくても其結果を壞すやうなことを許してはならぬ。それに依つて趣味を改良するやうにせねばならぬのである。壁間の飾りと云ふ大きな要素を含む畫を選擇するに當つても、兒童の年齢なり趣味を考へることを忘れてはならぬものである。複式の級や單級制の學校では各年

齡の兒童が其畫なり裝飾を見るであらうと雖も一番年下の子供の必要に應じたものを持つて來るべきである。年長の子供はその中にある價値を見出すが年少の子供は自分等の理解の程度を越えて居るものに對して何等の趣味を感ぜないからである。畫の框とか懸け方とか、配置の具合とか云ふことは子供には一向意義の無いことなのである。非常によい畫と云はれて居るものは、釣合なり、光線の惡い所に懸けては値打のないものであるから此の點によく注意して置くことが大切である。

三　日日の時間割と其管理

日々の教授の時間割とか學級作業の割合は充分心に止めて置いて課せなければならぬ。此の事は二級以上に分れて居る學校では比較的簡單なことである。然し分科教授の行はれて居る所では少し此は困難な點が生ずる。然し最も困難な問題は田舍の單級小學校に起るのである。特別な時間割を特に作ると云ふことは決してやつてはならぬことであるが、然し其中に含まれて居る重要な考は特

に注意して置く必要のあるものである。一日の授業の長さとか學期とか、休憩時分とか、教ふべき學課とかは常に法律なり習慣に依つて定まつて居り、立派な理由なしに取り去ると云ふことは悧恰なやり方ではないのである。一日の授業時間は現今一般に各小學校で實施して居る習慣的なやり方よりももつと早く始めたり、遲くしたりすることは出來るやうに思うし又學期の長さを短縮したり延長したりすることも土地の事情に依つて立派な理由となるものである。凡そ興味のある所に問題は起り、確かにされるのであるが、此の問題は多くは教師が間接に參加するに過ぎぬものである。然しながらかく課せられて居る制限内で時間割を管理する各教師は、實際には容易に考へ通りになし得るのだと云ふ自由の態度を持つことが必要である。此處で述べんとする所は此の定められた時間表に對して教師がどこまで順應し得るものか變化してよいものかと云ふことである。

(一)計畫に從つて變化するに非れば時間表に從へ。一般的に云ふならば教師は嚴密に時間表に從ふべきものである。時代に遲れたやうなことをするのは愚策である。先きに出ると云ふことは彼等は何を教へ得るかと云ふ學科を組織する

ことを研究して居ないやうな初學者の外には聞かれるものではない。此の誤りは何れも或る學科を輕視し、忽にし續けて來たと云ふことを表明するものである。其處には時間割に挿入法なる唯一のよるべき方法がある。教師が教ふべき學科の或る單位を熟知するに到るまでには時々學科の單位を教へようとはせずに或る時間内に或る事柄を教へ込がうとすることがよくあるのである。然し慣れて來るに從つて此の矛盾は少くなる。如何なる故師も一學年の中にもうこれ以上教へることが出來ぬと云ふ樣な點に達したものは一人もないのである。故に配當された時間に一通り豫定事項を終る樣にした方がよいのである。

今述べた事柄は時間割から出發して、豫想され得る所のものに適用したのみである。爲すべき相當の理由があるならば、作業の順序なり、時間の長短、始業の遲速等は變化することを奬勵する。例へばA級では或る所まで進んだから豫定外の作業をさして置いてB級では少し遲れて居るから定められた學科に對して努力すると云ふが如きである。又A級は個人的指導を主として兒童の學習を本體として教授を進めて見るがB級は學級的一齊教授をやつて見ると云ふが如きもの

である。

(一)科學の性質と其重さ　學科の性質なり其重さに依つて時間表に於ける其學科の地位を決めることが出來るのである。低學年に於ては讀み方が最も多く時間を取り優秀な地歩を占むべきものである。若し全級擧つて或る學科に進みが悪いならば、其能力が相當進むまで時間割を變更し劣つて居る學科を課するやうにすることを認めなければならぬのである。或る季節に應じた學科の材料があるならば時間外に特に時間を設けて然るべきものであらう。卽ち芽生えの研究は秋に於てするより春の方がよい、種子の發芽の研究は秋や冬よりも春の方がよいと云ふが如きであつて此の時節には少々時間を多く取つて研究に費さしむべきであらう。野外教授とか遠足とかする機會が與へられる學科は自由に調整することの出來る時間を設け置くことを要求する。生きて居る教師は常務的に機械の如くやる人ではなくて、或る必要な學科に生きた適用を爲さしめる偶發的の機會を捕へて自由に時間割を變更し得る人なのである。相續ける時間に餘り多く形式的教科とか訓練の意義を有する教科を置いてはならぬ。此のやうな教科

は他の學科を中に挿んで適當の間隔を置き一日の作業を滑かにするやうにせなければならぬ教授の材料を蒐集したり、他の小黑板を多く使つたりせねばならぬやうな時間は晝休みの次とか體操の次とか休憩時の多くある時間の次に置いた方がよいのである。

(三)一學級の大さと其性質　一學級の大さと其級の性質と云ふものが時間割を作製したり、作業を課したりする上に充分考へられなければならぬことゝなる。高等科二年の最後の學期に、年の行つた兒童が居るならば、卒業してから役に立つやうな地方的教材を教へて呉れと云ふに到るであらう。例へば此等の兒童は日常普通の手紙とか商業上の日用文が書けない場合があるとする。此の場合に時間を付け加へて教授することに誰か反對するものであらうか？訓練のよく行つて居ない爲めに時間が浪費されることがあるが、教師は此を避けんと欲するならば、時間割なり教師の豫定の中に、大部分のものかどうしても逃れることの出來ぬ作業を設けて、怠けもの、悪戯子僧に仕事さすやうにせねばならぬ。人數の多い級では絶えず何か仕事を課することを工夫し、一齊的形式段階にのみ依つてはなら

ぬのである。人數が少くて靜かに一生懸命に勉強する級では一齊教授のみで徹底するであらう。凡そ一學級の人數は五十人程あるを我が國の現狀とする。けれども此は多數に過ぐるとも云ひ得ぬであらう。其取扱ひ方如何に依つては決して多くはないのである。けれども私は少なければ少い程よいと思ふ。一學級を形成する人數と云ふことは經濟的理由の他に理由がないのであるから出來る限り少人數で一學級を作る方がよい。

(四)疲勞の問題　疲勞の問題は日常の時間割を作る上に考へなければならぬ點である。此の疲勞の研究は種々爲されて居るけれども、其結論は一致しないのである。世には極めて常識的な考を以て疲勞と云ふことを考へて居るものもあり、教師の間にも疲勞と云ふことゝ興味の缺乏と云ふことゝを混同して居るものもある。ソーンダイク教授の云ふ如く、疲勞に依つて影響されて居る樣に見える兒童は行爲能力が少くなると云ふよりも、意志することが少くなるのである。兒童は行つたことに依つて疲勞すると同時に、行はぬことに依つて又疲勞するものである。或る學科に對して冷淡な子供は假令彼が自分の趣味に從つて作業しても、

ちつとも疲勞などせぬ。そして努力するでもなし、昏睡して居ると云つた方がよからう。此に反して彼に與へられた所のものを學ばねばならぬとか、強ひて其の授業を受けなければならぬと云ふことを意識して居たり、考へて居る時には他の自然のまゝの注意をして、強ひられた注意をせぬ時よりも、より多く疲れるものである。

兒童の態度とか個人的能力を離れて、學級教授に於ては教師の態度なり趣味と云ふものがある。教育測定を試みると非常に價値あるものを見出し得るのであつて此れが各教師が兒童に與ふる疲勞の源となるのである。夫で此の疲勞と云ふものは各教科が內在的に有して居るものではなくして、其は色々の要素から出來上つて居る、教授の副產物と考へられ得るのである。卽ち兒童の哀むべき健康とか空氣の惡いと云ふこととか過度に緊張した教授は疲勞の直接原因となり、遺傳が惡いとか、時間割が惡いと云ふことは其遠因となるのみ。兒童にはよく檢査をして見ると一日中に爲し得る活動力と云ふものがあつて、それが曲線狀態を示して居るのである。大抵の子供は一日中第一時間目の中の十五分、八時始りとす

れば八時十五分から八時三十分までが最高點に達するのであつて、午後に概して低い線を示すものである。毎時間の休憩は遊び過ぎない兒童にはよい結果を與へるものである。兒童が喜んで晝辨當を食すると云ふことは疲勞から生ずる原因よりももつと多く次の時間に働き得る力を附與するものである。或る學校の時間割が一日四時間だとする。然れば其中最初の一時間が一番よい時間であつて、其次に第三時間目か第二時間目の終りがよくて第四時間目が一番兒童の働きの悪い時間だと云ふことは、可なり信じてよい說である。非常に重要な教科は良い時間を選んで配當すべきものである。

教室に入つて居てする學級内で子供のする仕事の時間の長さと云ふことは直接疲勞に關係して來る。何故なれば、級でする色々の仕事は、若し其級がよく教へられてあるならば、兒童の勢力を非常に要求するのである。何かの練習をするとか掃除するとか、相互批正するとか、何か子供等が會合する爲めの裝飾品を作ると云ふ樣な場合である。生徒が過勞したと云ふ徵候は、注意力が一樣でなく非常に散亂し動搖すること、不正確なこと、記憶力の減退、アクビすることと落付がない、心

をイラつかせる事等と云ふ如きである。此れと同じ現象は室が餘り暖かになり過ぎて居るとか、塵の多い室とか、他の外的條件から同じ結果を齎らすのである。實驗によると種々の年齡の兒童には、次の時間位學級作業を爲さしめるのが適當だと云ふことである。

滿　五歲——　七歲……十五分間
滿　七歲——一〇歲……二〇分間
滿一〇歲——一二歲……二五分間
滿一二歲——一五歲……三〇分間

時間の餘り短いのは餘り色々と學科が變るから時間の浪費となるし、時間の餘り長いのは疲勞の爲めに又浪費となる、最後に述ぶべきは、而も重要なことであるが、教室を自然的に、而も衞生的に氣持よきものとして置いて、必要もないのに生徒を緊張せしめたり嚇したりすることを止めて、なるべく疲勞の原因ともなるべき原因を除くこと〻休憩時間には教室内の作業をすつかり忘れて一心に遊ぶやうに勵ますことである。但し調子に乘りすぎる子供に遊ぶことの奬勵は考へ物で

ある。

(四)級を組合して時間を經濟にすること　時間の經濟は或る學科の授業に二つ又は三つの級を組合はすことに依つて得られるのである。此の一の方法はよく田舍の小學校でやつて居るが四年生以上の級を二つ組合して作業さすことである。高等一年生の仕事を或る年には高等二年生にもさし、次の年には高等一年生に高等二年生の仕事をさすと云ふが如きである。それで下級のものが上級のものをやり上級のものが下級のものをやると云ふ不便はあるが複式にやるよりも時間の上の經濟である。一年間に二ヶ年のものをやると云ふより二ヶ年を一つの單位として其間に教材を前後さして全部教へようとするのである。尋常五年生と六年生も或る學科では此のやうにすることが出來るであらう。習字とか圖畫、唱歌體操など云ふものは此のやうにしてやることが出來るであらう。賢明な取扱ひ方をする人は一方に圖畫、一方に綴方等をやらせて置て交互に説明を與へることを得るであらう。

(五)個々の生徒を助ける上の設備　時間割なり、生徒の作業を爲さしめる上の案

などを作る上に充分に熟考すべきことは、個々の兒童の要求を可成充分に滿たしめるやうに計畫する事である。學級教授制度の悲しむべき不利は教師が生徒の必要に應じて助けを與へ得る生徒に學習時を與へることの出來ないことである此處に於てバタビア方法と云ふものが價値あるものとなつて來るのである。此の方法は、學級擔任が教授をして居る時に充分に個人的に指導を與へ得る力と時とを持つて居る教授者に依つて助けられることである。此は理解の遲い子供とか缺席したとか、何か他の作業をして居たものに他の子供が皆充分に覺えたことを教へる方法である。これは決して經濟的なやり方ではない。此は少しよく行はれる個人教授があるならば直ぐ分るものを、將來進んで行く道に障害があるとて可能的な能力こそ持つて居ない者に、過重な學科を脊負はす事になる。つまり其障害をも除き得ぬことになる。これは學級教授と同じく費多きものである。不正當である。田舍に於て熟練な教師と云はれる人はどんな人かと云ふに級のものが朗讀したり暗誦して居る間に個人指導を爲し得る人なのである。これは個人指導の時間と云ふものを特に設けなければ不可能の樣に思はれるが暗誦さ

して置いて次に書取りに移るとか、內容を檢索さすとか作業を轉換する時に必ず
に應じて爲し得るであらう。究極の經濟卽ち安樂に敎へて行かうとする敎師は
機械の樣に日々同じ事を繰返し而も新しい方法が示されると「私は時間がないの
でそんな新しいことは出來ません」と云ふのみで默して語らぬのである。このや
うなことでは敎授の徹底などと云ふことは望むことが出來ないであらう。

（六）一般的練習作業　此の練習作業と云ふことは大切なものであつて、其性質如
何に依つて全級の兒童を最もよく活動せしむることが出來るであらう。どんな
時間割でも、敎授案でも此の種の作業を充分に爲さしめ得ぬものならば完全なも
のとは云ふことが出來ない。如何なる敎師も學校は此の時期にどうすべきとか
と云ふ此の複雜な問題を解決するまでは其責を充分に果したものと云ふことは
出來ないのである。此の缺點を脫れんが爲めに普通二つの大きな理由が述べら
れて居る。卽ち一は敎師はそのやうに考へるけれども何もすることが出來ない
と云ふのでありその第二はそのやうに感ずるけれども時間がないと云ふのであ
る。此の二つの辯解は相關聯して居るものであつて、共に主張する要點は時間が

ないと云ふことである。自分の學校時代の記憶から二三の計畫を以て出發し學
校雜誌とか他の先生から云はれた二三の點をつまみ上げて計畫し、其計畫を遂行
し練習を爲さしめんとするからして、時間がないと云ふことが正しいことゝなる
のである。此のやうな練習は兒童のあらん限りの能力を働かすものとするなら
ば、其練習は非常に價値あるものとなり敎案に練習などと書いて置かなくても、兒
童は讀み方なり地理を充分に學習するであらう。其處で敎師が個人指導を充分
にすることも出來るのである。然し此の練習作業をよく取扱はないと、云ふと兒
童は時間を取り過ぎたり何物も得ずに終るであらう。

此の一般練習又は公開練習とも云はれるが、これをやる時にどうしたら其價値
を發揮さすことが出來るか？此を先づ第一敎授の實際上の見地から見るならば
子供がよくやつて、誤をすることが少いであらうと見たならば時間通り規帳面に
やることがよい刺戟になるのである。其場合に齊唱、齊讀を爲さしめる機會も出
來る理であるし、又一生懸命に休みなく、熱中せしめることも出來る。

第二には重要なる敎材であつて而も敎授案とか時間割にないものを此の時間

に於て可なり高潮することが出來よう。此の樣な具合にして道德教材とか宗教的教材とか作法に關する話を聞かし又は兒童に考へしめることが出來よう。

第三には此の心理狀態を捕へて學校內で兒童が問題にしたことゝか社會問題を捕へて來て考へて見ることも出來る。此は無理に、疑問は無いが無關係なことを材料に使はしめんとて定められた學科を强ふる案よりも非常に價値のあるものである。兒童が多く眞に學習したものは此の樣にして突發事項を取扱はれたものに多いのである。

例へば市場に行つた時取る樣な方法を取るとか共通に興味を感じて居る事項に付て偶然にも人が集つたとか云ふ樣な時にやる方法である。つまり商ひごつこを教師が爲さしめて教師も買手になつて其値をねぎるやうな方法である。

第四には其よりの出發點の鼓吹と云ふことを輕々に評價してはならぬのである。若し一般的な練習が或る力强い興味を力を持つた實在と云ふ大きな深い意義を持つて居るが只何かなしに喜ばしい兒童に與ふれば平日兒童が仕事するときに出て來る向上力は非常に力强いものとなつて現はれ、一瞬間にはつかひ切れない

ものとなる。かゝる價値は永久に不變に無限に殘るものであつて兒童を知つて居る教師ならば如何なる人でも此の最初の鼓吹が其理想を發達せしむるに役立つものなることを疑ふことが出來ないであらう。

公開練習、一般練習と云ふものから如上の價値が生ずるものとするならば其練習には善であると云ふことゝ興味を有して居ると云ふことの二要素を含んで居なければならぬ。此の要求の最初は低學年の總てのものには取り入れることは出來ぬ。世界は發見されんとして待ち使用されんとして留まつて居る立派な歌や不可思議な話に滿て居るのに安つぽい歌を歌はせ貧弱な話を聞かすのは馬鹿な話である。然し夫等の安つぽい話で子供をあやなし樂む事が正當なこととすれば、その取扱に最善のものを要求すると云ふことが出來なくなる。第二の要求である興味のあると云ふことに對しては、時としては其場所にふさはしいものでこの要求を缺いて居るものがあつて不適當なものが少くはない。僕の學校へ來た或る訪問者はよい話をしたが、生徒はよく聞かなかつたと云ふ人があるが、よく此の半面の眞理を表はしたものである。兒童がよく聞かないやうな話ならばそ

れはよい話ではないのである。他では如何によくても其教室では良い話ではないのである。話を種々して見た結果によると、話は他所から持つて來たものよりも其處にあるものゝ方が價値のあるものである。或る練習を面白くせしめる爲めには年齢とか、能力とか、教室の要求に應ずることが必要なので、適當に話し兒童を倦き倦きさせたり、途中で切らかしたり、計畫もないのに話を延ばすやうなことがあつてはならぬ。

其話に不確な點や新しみのあると云ふことは、話を成功せしめる可能性を增したものと云ふべきである。此の話の性質に付て云ふならば、種々に變化のあると云ふことが決定的に必要な要件となるのである。然れば、今此練習作業なるものは兒童の要求に應ずる爲めに、他の學校作業よりもよく注意して計畫し研究せねばならぬものであると云ふことが分つたであらう。或る練習を課する樣申出られた時は次の三つの問を出して見よ。「此は善なりや？」「豫め見出し得たものは最善なりや」「生徒は夫を爲さうとして居るか？」

初めて教師になるものは此の一般練習を變化さして行ふことがむつかしい樣

に考へられる。新しいしかたを見出すことが出來なかつたのは必ず知つて居る者に對して興味を持たせるに過勞せしめた爲めである。或る青年教師は一般練習の目的に適して居ると思はれるやうな活動をノートに聞き書きして計畫を建てた。其計畫は雜誌や本に出て來る練習のさせ方よりもよかつたと云ふことである。勿論其人も雜誌や書物から多くのものを貸りたが自分が聞いて書いたものは、何れも個人的色彩を强く有し特殊の意味があつて、非常によく生徒を活動せしめることが出來たと云ふことである。其先生は一二年經驗した後其表が全學年を通して普通の必要に應ずるに充分であることを發見したのであつた。變化させん爲めに常に他人のやり振りなり雜誌を見て便利だと思へるのを取つて行つた爲め、非常によいものとなつたと云ふことである。此處に述べる一の計畫も讀者諸君の計畫の補助となるものであらうから一通り見て頂きたい。此の教師の作業は各年齢の兒童に適用することが出來るものであるから、此の表は特殊の學級なり年齢の子供に限らるべきものでないことを注意せねばならぬ。

(1) 唱歌　個々の生徒なり代表者に一定の日數の間の或は一週間位の歌の

プログラムを作らせよ。時間の大部分は習つた歌を歌はせる。歌の書物が澤山ないならば歌をノートなり石盤に寫させよ。一つか二つの國歌を記憶せしめよ、時に一番上手な歌ひ手に獨唱せしめよ。

(2) 記憶の芽　これは屢々使はしてはならぬ。

(3) 謎、とか問題の箱　これを作つて置いて入れしめ、其數は制限せぬ。

(4) 魔法箱の樣に興味あるもの、特に難しいと思はれるものを整頓して藏せしめること。

(5) よい話(これは書物と其話の名を記憶して居るだけで十分である)

(6) 專心になつてする練習　社會に於て反對なき限り十分に行はしめる。

(7) 談話　誰れか社會に居る人を招くか、訪問者に數分話させる。其人成を確かに知り、其人が何を云ふかを大體知らざれば話さしむる勿れ、又其話が終つた場合に放置して置くこと勿れ。多くの大人は子供に話の出來るものではない。訪問者に話を賴んでして貰つた場合、假令其話がねむいやうな長たらしい話であつても途中でやめて下さいと云ふことは卑怯である。一日の課

業の中、正規の時間よりも多く練習作業の時間を取るのは賢いやり方ではない。其中の一部分でなければならぬ。

() 現在起つて居る出來事　責任を負はせる爲めに、級の兒童を數分團に分けて、方面を制限する。例へば、Aのグルウプ(分團)は東京の新聞を見て、これを調べる。Bのグルウプは大阪新聞を見てこれを調べる。Cのグルウプは横濱の貿易新聞を見て海外の事情を調べる。尙分團の數があるならば、其各々に科學的方面、傳記、政治的記事等に注意せしめる。二週位經た後、各分團で以て調べた事項の中最も面白くて有益だと思はれるものを發表せしめ、全級でどれが一番價値のあるものか評價せしめる。

(9) 觀察盤　これは低學年によいのであるが必ずしも低學年に限るの必要はない。卽ち十種の雜たなものを此の盤の中に入れて置いて、兒童に三十秒の間見せる。其次に各生徒に見せ記憶して居る物の名を書かしめる。或るものは盤の中に無いものまで名を書くであらう。それは何故？

此の樣にして教師は自分の經驗を經めて行くことが出來るのである。かの上

に述べた青年教師も此の樣な方法を取つたのであつた

四　兒童の衛生に關し教師の責任を負ふべき程度

或る度まで此の衛生的方面を考へることは建築とか、設備の方面に缺くことは出來ぬ。此の方面の或る部面は本章の最初の部分で觸れた。然し理想的に地位した學校、適當な材料で建てられた學校、立派な設備をした學校でも、生徒に注意すべきことを漏なくするためには先生の注意丈で行屈かぬものである。其樣な學校でも時によると、植ゑてある植物が理想的ではないことがある。教師は醫者や眼科醫の云ふ色々の事を記載するが其職責ではない。教師は衛生狀態を觀察し學校に居る間兒童の健康が直接損はれぬやうにする責任がある、且又永久の身體的經濟、心的經濟を結果するやうな習慣と理想を作るのに責任がある。教師は其現はす地位の關係から兒童の身體上の缺陷とか、治療上の注意とか、教師の職能の上からの注意を其父母に與ふべきものである。

(五)視力　近代の學校は兒童の視力を餘り過度に使ひ過ぎる。故に教室の諸條

件が理想的ならざる限り諸種の危險に陷るものである。故課後視力を保持せんとする習慣を作り、學校で緊張した視覺を緩めんが爲めに、家では必要もないのに固い鉛筆を使はせたり、ボンヤリした色やキラ〳〵した色を使はせない樣にする訓練をせねばならぬ。又非常に薄くされたインキで字を書いたり淡い墨を作つたりしてはならぬ。此等のものは字の外形を明にすることが出來ず見るに骨が折れるからである。其上暗い燈火の下で書物を讀ませるな。且つ紙の上に光線の直射する所で書いてはいかぬ。且つ紙の上に光線の方向と平行せない樣な線を引かしてはならぬ。もしも家庭の方が學校よりも此の樣な條件が惡いのに家庭でかゝる點に一層の注意を拂はぬならば、有效に行はれるものではない。此の不適當な材料を使用する時は教師直接の指導の下に爲さるべきものである、勿論教師の影響の下に兒童がある限り、教師は印刷の惡ひ教科書や、讀物を兒童が使ふことに强く反對し、又視力を損ふ如きものゝ購入に反對せねばならぬ。何となれば色盲等と云ふ現象を兒童が起すのは全く教師の責任であると云つてよいからである。近眼の兒童は夫を考慮して便宜の所に座せしめなければならぬ。

教師は上手に視力を檢査して適當な眼鏡を指定することは出來ぬからして、簡單な視力檢査表を作つて之を發見し兩親に告げ眼科醫にかける樣にせねばならぬ。

(二)聽力　聽覺に缺陷のあるものは何を差措いても先づ第一に發見せねばならぬ。此の節田舍の學校で、義務でどんな子供でも入學させなければならぬのに知能考査をやるが、勿論やることは教授上大に助けとなる。然し夫よりも先づ此の聽覺の缺陷を調べる方が緊急な問題でないかと思ふのである。もし出來るならば此の缺陷のあるものを見付けたならば、ひどくなる前に見付けたいのである。腺增殖(アデノイド)、耳尿のつまつて居るもの、耳だれを病んで居るものは一見聾の如く見える徵候を示すものである。此を檢する爲めに二種のテストが使はれる。兒童が聾なりや否を檢する爲め各教師が心得て居かなければならぬものであらう。

其一はウオッチチックテストと云ふのであつて、懷中時計のチク〳〵云ふ音を聞かせ、それかどの邊で聞えるかを確めることから成立つて居る。時計が皆違ふから何尺位の所で聽えるのが正常であるかと云ふ標準を定めることが出來ない。若し教師が普通聞える距離を定めやうとするならば自分でやつて見て、自分に聞

える所の距離を測定して此を標準にしてやるが良い。其定め方は十二回位やつて見て其平均値なり中間數を取るがよい。檢査せない方の耳は閉ぢて置く。其時子供が想像に依つて影響を受けないやうに注意する必要がある。此の想像はストップウオッチの使用に依つて起さぬ樣にすることが出來る。

然らざる場合には平均子供はどの邊で聽えるものであるか記錄して置く事が大切である。大體異常兒は感覺が鋭敏であつて通常兒の樣な狀態を裝ふに努力して居る。それで異常兒の發見は注意してすることが大切である。

第二の方法はホイスパーテストと云ふのであつて、小さい聲でさゝやいて聽力を驗するのである。此も又想像の働きて壓へられるものである。或る距離に兒童を立たせて置いて何う云ふことを教師がさゝやいたかを言はすことゝ何れの方面でさゝやいたかと云ふことを云はすことである。通常兒童は二十尺位の距離で其方向を知るものである。けれども何か故障のあるものは十尺か五尺の距りで略んど何れの方向で先生がさゝやいたかを知らぬものがある。此等の兒童は聾の疑のあるものである。又唇の運動で、其意味する事柄を覺ゆる子供がある

から此を防ぐ爲めに、さゝやく人の唇を隱して置く必要がある。此のテストの困難なことは同じ高さでさゝやくことが難しいことと、同じ程度の明瞭さを保つことの出來ぬ爲めである。諸方面で教師がさゝやく時に同じ樣な調子を保つことの出來ないのも其困難さを增す。「おすはりなさい」と云ふ事は音響學的に理解し易いが、「左に廻はれ」とか、「兩手を左右にのばせ」と云ふのは理解し難い。此の教師の檢査は缺陷の發見にあるのみでそれ以上に出るのでない。只父兄に告げなければならぬのみである。聾の子供も又學校では特別に席を設け聾の爲めに不利益を受けぬやうにしてやることが大切である。

(三)腺增殖（アデノイドの發達）アデノイドのあること、卽ち鼻腔と咽喉の接觸せる所に腺が殖えて腫れ上ることも又兒童の學校作業を障ぐること甚しいものがある。時としては萎縮病かと疑はしめるやうなことがある。これがあると永久に呼吸に障凝を來し、聲を損じ、聽力を害せれることがある。若し兒童が習慣的に口を開いて呼吸して居たとするならば、アデノイドのあることを示すものである。兒童がいびきをかくならば風邪にかゝつたのかアデノイドだと思つてよい。

若し兒童の語調が「なんにもないんですか」「なんかちようだいな」「なんにもできないんで、つまらん」等云ふ發音をする時、特に鼻にかけることが著しければ、アデノイドが鼻音の原因と爲て居ると云つてよい。此を取つて仕舞ふと學校作業なり日常生活を一變さすことの出來るものである。此は多くの事例が示すのである。此は父兄には見出すことが困難なものである。何故ならば鼻にかけて云ふ子供の聲が可愛いものであるから氣づかずに居ることが多い。此は教師が忠告して是非とも取つて仕舞はねばならぬものである。子供時代に此を取り除かないと云ふと腦を始め諸種の機關の發達を阻害するものであるから、よく注意せねばならぬ。昔から「馬鹿は口を開いて居る」と云ふが此のアデノイドのあつた爲めに賢くなることが出來なかつたのでさう云はれたのであらう。

(四)子供の姿勢　二三の子供の姿勢はよく觀察する必要のあるものである。發育の急激な子供はうつかりして居ると曲腰となるが、母親が忙しい所の家庭ではよく此にかゝらしめるものであるから學校では特に眞直にせなければならぬのである。鼻を紙にくつつけて字を書いて居る子供は、出來る丈眞直にして書くや

うに注意せねばならぬ。前に述べた如く不衛生な姿勢を取らしめるのは、學校の机腰掛等の備品が不完全な爲めであることが多い。然し首を前にかしげたり、遲鈍であつたり、無作法であつたり、手足をもかつかせること等は他の原因によるものであらうが、學校ではつとめて其樣な弊に陷らぬやうにし、もしかゝるものがあつたならば矯正してやらねばならぬのである。其他兒童は色々な惡い姿勢をしたり無作法をやるが此はそのまゝにして置くと中々矯正し難いものであるから、學校に於て十分に矯正する樣教師は努力をせねばならぬであらう。

(五)傳染病と其衛生的豫防　兒童の間に起つた傳染病を防ぐことは全く教師の責任にかゝつて居る。此の傳染病の知識に通曉せよと云ふことは出來ない。然し二三の著しい徵候を知つて注意し、傳染病の豫防に關する永久の警戒は、教室を管理する教師には必ず要求して置く事が正當であらう。熱が出るとか、特殊な咳嗽とか、皮膚の上に特に多く發汗すると云ふことは始終注意すべきものであるのみならず、傳染病流行當時には殊に注意し一般に直接にも間接にも疑はしき患者は隔離して家庭に送るべきもので、教師は其機を逸せず速かに爲すべきものであ

る。水や湯を飲む場所を設けたり、使用の茶碗に注意したりすることや、齒の磨き方や、實際磨くやうに奬勵することはこれ又教師の作業である。傳染病患者の使用した教科書を廢棄したり机や腰掛の消毒を管督して充分に爲さしめ、又自分もすることは屢々必要なことがある。此は學校が書物を與へて居る所では容易に出來る仕事であるが、子供が各自教科書を持つて居る樣な場合にでも遠慮はいらぬ。他の者手に觸れない樣にせねばならぬ。裝身具、居室、及び非常に金の出してある備品等にも尙衛生上の注意をせねばならぬ。掃除が又此の傳染病の媒介となる。それで出來ることなら教室には油をしいて、雜巾で經濟的に塵を集め得るやうにした方がよい。小使には兒童か教室なり校舍から出て歸つて仕舞うまで塵を立てぬやうに充分注意して置かねばならぬ。且つ學校が引けて窓を開けて置いて一時間も經ぬ中は掃かしてはならぬ。机や腰掛の上に積つた塵は特に濡れ雜巾で拭うて、塵はたきでたゝかしてはいかぬ。都會の學校ではやつて居る所もあるかも知らぬが、多くの學校では小使なり兒童なり先生が自分で拭くが此は矢張り、出來るなら兒童に雜巾を使用さした方がよい。餘り費用をかけなくて完

全に掃除を行ふとせば、教師は鋸屑をまくか、床に油をしいて置いてやらしたらよい。鋸屑は時々小使に洗はせる必要がある。舊い校舍の汚い床では、水を充分に撒くなり冬期には雪を撒いて掃除させるなら、比較的危害を蒙ることが少いであらう。冷却された室に圖書室を作つたり、其處で手工したりするならば、掃除の時には危害は少くなるであらう。

第五章　管理及び道德的訓練

一　管理及び道德の意義

學校の管理及び訓練は、學校と云ふ團體生活をする有機的組織體内にて、非社會的傾向を禁じ、或る程度まで學校の規律的生活を離れんとするものを壓へ、從つて放浪な生活するものを除かんとする、或る境地の大勢を云ふのである。此の見地は、教師は最も少く教授する所のものが最も良く管理すると云はれた時によく示される。この事は生徒と教師と一緒になつて働いて居ることを意味して居るならば眞理である。世間の人は多く訓練の力を過大視して居る樣である。然しそれは稀に訪問したりする人や、兩親は生徒のやる不適當な行爲を見たり、知つたりするが、然し其事情をよく分析したり、實際の原因を知り得ぬからして、尤もなことである。何となれば此等の人には教師の側の教授技術について無知であり、缺い

て居るから自然さうなるのである。

私は、私の指導者として此の管理の語源を探ね廣い意義に此の言葉を解する。此の訓練と云ふことゝ關連して道德を維持して行く道德的訓練なる觀念と熱心であり精神的であり、希望を有し、成功すると云ふ自信を持つて行なふ適當なる心的條件とか、道德的條件を述べよう。管理者で指導者である教師、生徒の取扱人、統御者、鼓吹者としての教師は、兒童の團體を勤勉に働かせしめ、教師に對して速かにして賢い同情を寄せしめる生徒の側の協同の精神の存在を確かにするのである。管理とか道德的訓練と云ふことは、學校の目的を達する爲めに調和的活動を爲さしめる凡ゆる方法を意味するのである。

二　學校管理の目的

學校管理の二大目的の一は兒童各自が他の兒童に妨げられずに、割り當てられた仕事を有效に爲し得る機會を與へることである。その二は、兒童が後に到つて役立しめ得る社會的行爲なり、自己活動を爲す習慣と理想を發達さすことである。

學校は社會的習慣と個人的習慣を有機的に統一せしめ、それを活動せしめることを本質とせねばならぬものであつて、此は學校以外の如何なる所にても、實際やることの出來ぬものなることは萬人承知の如くであらう。よく此が行はれるならば學校は商店とか教會の如き場所ではないと同樣又家庭のやうでもないであらう。學校は夫れ自身の特殊なる形を有するものであつて、學校らしくあるものでなくてはならぬ。勿論他の社會の機關として使用されたからとて賞讃も非難もしない。但し學校は學校の目的を實現する程度に應じて其效過を測らなければならぬ。學校が其獨特の行爲の標準を定めると云ふ此の權利を認めしめることに失敗するならば、極めて普通な形式的な組織と爲し、ずることをしても、不當な批難を招き、又反對に學校の習慣なり生徒としての態度を誇張し過ぎて他の社會にも及さんとするに到るであらう。教育學の講義をして居て、實際兒童を教へない樣な教師には意識的に教授をして居る凡ゆる教師に、教育的笑を起さしめることは樂であらう。又一般に便宜上人人から認められて居る通り、學校は試驗に友達を助けてやつたり隣席のものが答へに苦める時、さゝやいて教へてやると云ふ

やうなことを批難するため生徒が生長して同情のない、隣人としての溫みを有せぬ成人となるかも知れないと云ふ危險が暗示される。或る人は兒童が或る期間の間、教師に從へと要求されて、自分自から行ふとする行爲を充分に考へさせられないため、兒童は自己指導の能力を失ふか誤つた指導者の犧牲となるのだと云ふことを心配して云つて居るものもある。

一體訓練の變化と云ふことを近代の心理學が認めるより以上に辯護せぬにしても、斯の如きの心配が根據を有するや否や研究に値する。兒童は常に學校でやる行爲を、其境地の一部分として認めまた確かに認めるに違ひない。學校の教室を離れても、單に學校に似たやうな所に來ても學校でして來たことをするか自分の境地だとして認めるのである。かくの如くしてさゝやいてはならぬ、勝手に歩き廻つてはいけぬと云ふことを學んだ兒童は寺に行つても教會に行つても、其他の講演を聞きに行つても常に習慣とするに至るのである。然し兒童は時として隣席の人に質問したいのであるが教師に云はれた通り手を擧げ得ぬこともあり、體操等の運動をして居る時間にかゝる相圖をなさぬとて、數年間も手を振つたり、

直立したりすることを教へられて居るが、一寸指を二本位上げるに止まることもあらう。學校で爲せる作業を充分にやる爲めには、本質的に誤つて居る行爲を多く行はしめてはならぬ。子供に或る事柄を禁ずる場合には、よく其理由を知らしめて置くことが大事である。

管理の上に第二に重要な事は教師が眞劍に考へた事は、受け容れしめなければならぬ。學校の組織なり道德からは、快活であり、正確であり、謙讓で、成功せんする永久の習慣と態度を生ぜしめなければならぬ。此のやうな態度は忘けた、無秩序な、不定な、詐欺的な、破廉恥な教室の空氣から出るものではない。今日我が國の大抵の小學校では、學校が濟んでからも、人に從ふ態度を示す位も強く教師の權威に從ふと云ふ程、社會的性質を發達させ過ぎても危險ではない。寧ろ兒童の個性を壓へずに發達せしむる上には、義務を強く主張して、命令に應じて速かに、疑ふ所なく行爲する樣に導くことが必要なのである。

此處に軍隊教育の理想たる「此を行へ、此の方法にて、速かに」と云ふことの立場を見出すことが出來るのである。銘々勝手に行爲する、ルーズな協同團體を理想と

する人達は合法的な權威に從ふと云ふことに餘り價値を認めぬであらう。然しながら協同して事を行ふ以上嚴密に己れの分を守ることを必要とするのであるから、銘々勝手放題なことをする所に協同はあり得ぬ。故にかゝる協同は理想とし得ぬ所である。

或る行爲の形式を學校で許すべきや否やと云ふ場合には今述べた二つの目的に合致せりや否やに依つて決することが出來るであらう。兒童がさゝやき許可なくして席を離れて飛び廻り、集合の合圖のありしにかゝはらず運動場をぶらつき廻り、ゴム球を投げたり、梯段で遊んだり、隣室の教授を妨げるのも構はず喧ぎ立てたり、學期始めに子供同志が席を定めたり、相互批正をしたり、勝手にノートを取ることは許して可なりや否や、此は此の上記の二つの目的に照して見れば自から分るやうになるであらう。然し經驗の無い教師とか機械的な教師は、かう云ふ場合にどうしたらよいでせうか？等と云ひ出すが、それは何時までたつても定まつた答を得ることが出來ないのである。何時でも學校管理の目的に照して許すべきこと禁ずべきことを明にして置くの要がある。

二　訓練を破つたり道德的なことをずるけてやらぬ原因

最もよく管理された學校精神の支持と云ふことに就ては、教師に取つて困難とする點が多くあり、又其困難ならしむる要素も少くないから、よく考へて置くの要がある。此の訓練に從はぬものあるときは直接に間接に協同を缺き、相互の同情心を失はしめ甚しき混亂に導くものである。

(一)兒童の本能的傾向　此の道德的行爲をずるけてせなかつたり訓練事項に違反するに到らしめる一つの要素は兒童の本能的傾向である。

自然的教育と云ふことは何人も、其意味する所をよく知らぬのに、常に喝采を其言葉に對して送つて居る。確かに何人も教育的過程を出來るだけ自然的ならしむることに反對はせぬ。思慮ある教師の努力は如何にして兒童の自然の性質と一致したやうな、少くとも近寄つた方法を見出さんかと云ふのに他ならぬ。然しながら教育は非常に人工的に發達し來り、遂に多くの兒童の自然的傾向を壓ふる

に到つた。これは教育を必要缺く可からざるものとするに到つた文化自身もさうであるが。此は將來の善とか、時としてばずつと遠い目的の爲めに直接の要求を否定するから起るのである。學校に於ては兒童は時としては遊びたいのに作業せねばならぬ。先生から上手に、あることを爲す樣に云はれると共に兒童は何にもならぬことを先生が云ふと感ずることも多くあらう。兒童は自分の氣持ではもつと早く行き度いとか、もつと遲く行き度いとか或は止つて闘ひたいと思ふのに、他の人と一緒に或る度まで行動せねばならぬことがあらう。本能的傾向とか氣質による傾向と云ふものが屢々教育が作らねばならぬとして居る方向とは反對の方向に兒童を導くのである。此の本能氣質は、兒童の有する最も根本的自然的要素である。始めて教師になる人は、自れの作業なり計畫なりに兒童の性質を入れずして、兒童の性質に引きづられて作業の計畫を立てるものである。然し兒童の自然的性質の中には、反對し歴へなければならぬものゝあることを知つて置かなければならぬのである。然らざれは訓練に反し道德的事項を行はしめない結果となり、兒童の協同を破るに到るであらう。

(三)學校の仕事とは反對な家庭の影響　多くの家庭の影響は殆んど學校が爲さんとする構案作業とは反對である。若し父兄のやることが學校でしようとして居ることゝ違ひ、爭ひでも起るやうなことがあるならば、兒童は教師に對して非常に貧弱な理想を持ちながら學校へ來るものである。若し兩親が其子供を叱るならば、勿論其子供は、教師を何とも思はぬ人間となる。或る家庭が兒童の上に課した恐るべき道德的ハンディキャップを教師は表はさしめまいとするが、思慮のある視察者は其徴候を讀むのである。其樣なものには、同情を以てよく理解してやる樣に努め、親切に諭すことが必要なのである。

從順の理想を兒童に與ふるに當つて、日本の大抵の家庭は外國の家庭よりも强い影響を與へるものかどうかと云ふことに付ては、私は知らぬ。又どうして比較すべきものかも知らぬ。二十年前には家庭から隨分色々の苦情を學校に申出した相であるが、今日も尙時々苦情を聞くのである。之は一人我が國のみではないであらう。一般に家庭は學校へ困つた問題を送るものと思はれる。家庭では從順と云ふことなしに子供は種々のことをやることが出來るが、卽ち學校に於ける

關係とは反對に七つの子供の云ふことを母が忠實に守るが、學校では子供は教師の云ふことを聞かねばならぬのである。父兄は自分の子供を皆他の子供とは特別なものと考へて見て居るのであつてそして子供の直接の都合を考へることが多く、其子供の爲すべき爲し得る事を爲さしめぬ。それで子供が甘へて、すねるに到る。此れが又學校の訓練なり道德を破壞する一要素となるものであるから、教師は熟考した後確信を以て訓練的事項を兒童と共に行ふべきものであらう。

(三)通俗的な教育論の誤解　よく通俗に世間で色々な教育說が論ぜられるが此の俗論が時々學級に於ける兒童の作業的精心を鈍くすることがある。半面の眞理は現はして居るが疑もなく誤つて居る修辭學上の言葉を熱心に覺えることがあるが、其が作文や其他の事項に眞面目に用ひられたならば全然誤つた者となるであらう。若し自分が先生であつて、自分の級にワアと大聲を上げたいと云ふ子供が居たら、私はどんな作業中でも叫ばしめると云ふ樣に自然教育の原理を說く講師がある。「諸君は決して彼兒童の意志を殺す勿れ、兒童をして兒童自から發表せしめよ」とか「如何なる兒童も、其子供が活潑な興味を持つに非れば研究を要求し

てはならぬ」と云ふやうなことが云はれる。又記憶をなさしむる方法に付ても世間から常識論で色々云はれ抗議されるが、此がつまり兒童を怠惰ならしめるに到るもので、此の記憶すことに反對した父兄も子供か怠惰になつてから學校へ又再び抗議すると云ふことになるのである。

このやうな通俗論は中學生になると滑稽半分に聞くのである。例へば何故君は算術は嫌か？嫌なものなら止し給へと云つても、せなくてよいと云ふことが分るまで、嫌でもせねばならぬと眞面に考へるのであるが、小學校の低學年のものにかう云ふことを云つたらそれこそ大變である。多くの眼ある人は生徒が何かさして下さいと云ふのは、教師が定見の無い爲めに、又は兒童を不幸ならしめることに理由の分らぬ喜びを感ずるものだと漠然感じて居るのである。此の誤つた反抗は、其れが眞の理由を有し、根底を有するものであるかどうかよく調べて後實際を批評すべきものである。

(四)學校の組織を破壞するやうな奬勵　調和が缺けて居ると云ふのが原因となつて、時々學校の組織を破壞したり害を爲すやうな宣傳を見出すのである。長い

規則、其の多くは發表するよりも意味する事項として止めて置いた方がよいのであるが、夫は若し自分が出來るならどんなになるであらうと恠むやうな、何物かを求むる精神を持つて居る兒童には確がに喜ばるものとなるであらう。教師に裏切りした所の兒童に名譽を與へたり、或る利益を與へるやうな計畫は不道德な仕方である。三年生の先生が、毎日放課後、今日は時間中に何度こそ〳〵話をしたかと聞いた。その自白の度に應じて、其先生は黑板へ點をつけた。馬鹿正直の二三の子供だけが本當のことを云つた。他の者は恥ぢて僞つた、此の兩者の間には道德的機智に關して多くの衝突があるであらう。此の計畫の鋭き批評に達したものは「夫は馬鹿なことだ」と云ひ、若し自分が隣の四五人と話したと正直に云ふならば五つ記しを頂くであらう。けれども二十回も話しても僞を云つて置けば無事に濟むではないか?」と。それから此の場合にこそ〳〵云はずに聲を出して數へたならば一層よい等と云ふ。何故なれば數へて居るのは壓迫されぬからと。世の中には人を打つことよりも虛言を述べることを非常に輕い罪惡として居る學校が少くない。かう云ふ所では實際上、直接の結果を待つてするのみでは矯正す

ることは出來ぬ。

又學校管理と云ふ大きな見地から考へたとてどうにもすることが出來ない。虛言者は色々と工夫をして嚴密に調べて、實を言はしめなければならぬ。

如何なる人も學校が經濟的に活動し、怠けた兒童や、不可ない事をやることを止めないでよいと考へるやうな人はあるまい。けれども學校の管理が充分に行かぬと、この樣な惡いことを見脫すことがあつて、何ともせぬであらう。それであるからまずい組織の學校で惡戲者だと考へられた惡戲者は、よい管理の下では小言を言はれないのである。前に惡いことをした子供に、もう惡いことをせぬか、命令に背かず、人を苦しめるやうのことをせぬかと尋ねるならば、彼は答へるであらう。前の時間だつてやりました。その次も、その次も同じやうにして一日送るのですと言ふであらう。此のやうなものに對しては、彼等がずるける餘裕の無い樣に仕事を計畫して爲さしめる必要があるので、さうでなければ新しき態度を得させることが出來ないであらう。

學校で爲さしめる仕事が兒童の習慣的活動に出口を與へぬと言ふと此れと同

じやうな問題が生ずるのである。此は尋常一年生に於てよく見られるのである。即ち滿六歳の兒童に休みなく活動せしむることは出來ない。學校は主として心的發達を基礎として居るのであるが、其處へ入つて來る子供は其體力の四分の三を活動せしめ得るのみである。デウキイがよく引用し、而も事實を最もよく說明して居るのであるが、最初は學校の机は聞かしめるものであつて行爲せしめるものではないと言ふことは、何が故に多くの子供が學校の仕事を苦しむかと言ふことを一部分示して居るのである。今日學校でやらせることは、兒童の能力が叫ぶ發動的な活動を略んどさせて居ないのである。故に手工其他手足を動かすことを要する學科は、無味乾燥な知的砂漠の所にあるオアシスの如く作用して、學校の道德を進める上の助けとならしむべきものである。

抽象的な觀念を取扱ひ得る能力と言ふことを低く考へしめることなしに、我等は最早や天性活動的な兒童を學校の價値なき對象物とは考へないのである。兒童は何かせずにはおれないものである。吾々が日常學校の作業に、手足を動かして作業する學科の少いことを考ふるとき、不道德を生ずる原因を知ることが出來

るであらう。それで實際子供を取扱つて居るものは時々、學校の大きな組織を變へると言ふやうなことなくして、個々の兒童の必要に應ずるやう種々仕事をかへなければならぬことを見るのである。「他の仕事を與へると言ふことは抑壓すると言ふことよりもよいことである」。努力を導くと言ふことは、喧かして後靜かな普通の狀態に歸らすと言ふよりも經濟的である。抑制せずに休みなく動かす爲めに命令があり、指導者を置くのである。けれども何か發明せん爲めに別に何かせんとするものがあるならば、特に指導して仕事を爲さすべきもので、その爲めに全體の協同を破つてはならぬのである。此の樣に作業に種々の變化を與へて種種のことをさせる時期は兒童が靜かにやることが出來なくなつた時であつて、然らざる限り、兒童が欲するまゝに永く作業せしむべきである。

(五)教室混亂の原因としての教師　學校管理とか學校の道德を支持して行く上に屢々遭遇する難點は、時々教師の人格の上に見ることが出來るのである。確かに或る人格的特徴を持つて居る教師は、非常に困難な場合を有效に而も生徒から同情を持たしめて治める事が出來る。然し確かに定めることが出來ぬが、弱い人

格者は、矛盾し、不統一となり、目的に合した行爲をするやう突進する力を缺いて居ることを明かに示すのである。學校に於ては力の弱い人格者は何處へも持つて行くことが出來ぬ。己れが有せぬ努力を他の人に行はしめ得ないのは當然である。高等な教育を受け、職業的陶冶を受けた、人格の力の弱いものは、學問のない、教育されて居ない力强い指導者と代つた方がよい位である。躊躇、逡巡、兒童に對する同情と眞實の缺けて居るもの、殘忍なもの、今日あつて明日ないと云ふ樣に氣まぐれに氣の變るもの、自己統整の出來兼ねる人、此等は學校の道德を頽廢せしめる人々である。

脫れて恥ぢぬ點はなきやと自ら中に顧るならば、私始め、多くの先生方を刺戟する者が少くないであらう。此の意味に於て教師は熱心に自からを統御し、自らの能力を高めるやうに或る度まで努力せねばならぬのである。

品性なり、人格の强弱には關係はないかも知れぬが、教師の聲は管理に大に意味のあるものである。キシルやうな聲、カナキリ聲は、聲だけで不秩序の原因となるものである。聲の高過ぎる話は、力の足らぬ聲よりもよい、積極的勢のない態度は

聲丈では未だ足りない。速さを普通にし、よく考へて云はれる言葉は、聲の質を補うて餘りあるものであるから、教室で話すときにはよく注意されたい。壁の低い平たい教室は、反響がきたり、聲が割れたりして貧弱に見える。其場合には、畫をかけたり壁飾をかけて此の條件を改良するやうにせねばならぬのである。教師は出來るだけ其聲を利用することを考へなければならぬのである。

四　道德的ならしむる上の要項

(一)學校は組織的な課程を持たなければならぬ　學校は機械であつてはならぬが機械を有せねばならぬ。と云ふのは、學校組織の各方面を自律的ならしめなければならぬと云ふに他ならぬ。習慣とならしめなければならぬ行爲は團體の大きさなり、種類に依つて異なる。五人が十人の子供を收容して居る山間の學校が、五百人千人の兒童を有する學校の課程を眞似したらそれは時間の浪費であり、生徒を玩ぶものである。二三十人の兒童の前で說明するやうな具合に、二人三人のものゝ前でやれば嘲笑すべき先生の藝當となる、二三十人の兒童の前でやつて居

ることを五十人、六十人の兒童に向つてやれば同じく不徹底のものとなる。大多數の兒童を敎へる形式的機械的方法も十人までの兒童の前には、形式の無い家庭的敎授に一歩譲らなければならぬであらう。

學級組織に付て色々の議論があつて、一定した人數は定つて居らぬが、それは目的に關する遠つた觀念を持つて居るからである。極端な形式訓練反對者は、學校の課程は學校の目的に對してのみ價値を有するとして居るのである。從つて形式か少なければ少いだけ價値が多いと言ふのである。組織された訓練的課程をよいものとして居る人は、兒童數の少い場合は別として、家庭的訓練は學校に於ては浪費多き不可能事として居るのである。時計仕掛の學校に居る兒童、又は列んで居る軍隊の如く活動を一樣にし正確にせねばならぬ學校に居る兒童は、形式はどうでもよいとして居る學校が與へる事の出來ぬ、著しい價値ある特性を得させるものであるとして居る。然し此のやうに試みたとて兒童の創造心を發達させたり、色々の知識を得さしめたり、判斷力を發展さす上に何の貢献をもなさぬ。唯敎師が色々計畫した團體的活動を正確に一樣に行ふ性質を多く與へる耳であら

う。然しながら敎育の研究家は或る度まで現在行はれて居る課程に反對である。然し個人なり團體の習慣を完全にすると言ふことに對しては意見は區々であるが、且つては機械的活動を爲さしめる必要事項として認められて居たのであつた。今では唯此の機械的課程を通して合圖なり、命令に、敏速に一致するやうに個々の兒童を反應せしむべしと言ふにある。此の課程を通ることを時間的に一齊ならしめ、やうとはして居ないのである。得た結果に於て普通妥當的ならしめんとして居るのみである。

(二)強く始めしめ計畫的に行はしめること　始めに強く作業せしめよ。此れには始めて學校の初つた日の作業がよく說明の役をする。目的は正しき出發を爲さしめ仕事を繼けて爲すに便せしめるものである。其上に校風を示す作業の上の態度を作るものである。此等の目的を確かにする爲めに敎師は前以て敎室及び學校の諸設備とか氣候、風當等を熟知し、それに對して充分責を負はねばならぬ。若し社會に於て新に彼が職員錄とか、何かの名簿で見出した奇妙な名の發音を熟知するに到つたならば彼は出來る生徒に、それを試みめると云ふ仕事が出來たと

知らせなければならぬ。そして紙と鉛筆で總てのものに對して利用せしむべきである。若し自由に教科書が分配さるべきものであるならば、使用するに當つて記入方法を了解せしめねばならぬのである。

教師は一般練習と言ふものを計畫するのは躊躇せないで濟ます爲めなることを知るべきである。「誰れが歌を先きに歌ふでせうか？とか進んで一緒に遊ぶでせうか」等と問ふの要はないのである。若し教師が何か話さんとするならば、積極的に出なければならぬ。「私は今朝は皆さんにどふ云つてよいか知らぬ」と言ふことは教師の取るべき道ではない。教師の取るべき仕事は自分が言はなければならぬことを正確に知り、自分が次に進む段階を明かに示すことである。今日は最初の日であるからとて不規則なることを不當にも許すならば、明日の仕事の借金したものである。嚴格過ぎるのは温和に過ぎるよりよいものである。學校の多くの授業日を少くせぬと言ふ最初の論とは離れて、初日の日とか週間は何もせぬと言ふ樣な觀念を、兒童や父兄に得さしめることは誤つた作戰と言はなければならぬ。學期の教授時數は餘り長くてはならぬ。稽古は告げた通りに始めなけれ

ばならぬ。始業日に關し述べた說の性質は同樣な事項に等しく適用せられるであらう。強く計畫に從つて始めよ。

(三) 計畫に從つて始めたならば忍耐していやることを大切とする。或る仕事が一度始められたら辛棒强くやることを必要條件とする。確かであるならば進んでよいと言ふことがあるが、唯進むだけでは價値はないのである。永久に注意すると言ふことが學校で道德を行ふ上に價値のあることである。非常な勢で始められた最も完全な組織は教師が代るに非れば數日間にして弱はるものである。物は直ちに困難な點に遭遇するものであつて、それより容易なことは無い。豫期した事の半分を爲し、一句の語義の一部を忘れたり、明瞭に現はさうとして、其豫期に反したことをしたり、正確を要する線を眞直にすることに失敗したり、少し遲れて、着席するとか、仕事を始めるとか言ふことは總て學校に於て精神が弛緩して居る徵候である。

其弛緩して居ることは見落され易いものであつて、其弛緩は調子を下げることに依つて回復される。其時また始めた時の調子が保たれて居るならば時々調子

を變化さすことが必要である。

（四）學校の事情により生じた義務を負はすこと　兒童の爲しつゝある仕事に重きを置け。如何なる學校も仕事其者が充分に出來なければよく管理されるものでもなく道德を高める事も出來ぬのである。作業を爲さしめつゝ道德を高めて行くのであるから作業をせぬ所に道德は進め得ぬ。教師が生徒を感化して行く上にもさうだ。教師が其人格の特徴に依つて兒童を惹き付け麗はしき學校の風を作ることがあるが、其教師が好む或る優秀な知識なり技術を持つて居るのでなければ兒童を充分に惹き付けることが出來ぬのである。然し其人が不可思議な人格的力を有して居るならば別であるが、かゝる人は何人あることか？最もよい教師は兒童を最もよく魅して、兒童に兒童が教授されて居ると覺らしめて努力さすことの出來る人である。先生の爲めにかう言ふことをして下さいと言ふことは何等效能のない言ひ分であつて、兒童は先生に同情を持つか知らんが先生を尊敬せないであらう。最も麗はしい人格的影響は兒童がする仕事に對してしつかりした事務的態度を取り、非人格的に向つても害せられるものではないのである。

兒童は學校に出て來て仕事をやるが、其爲したことは兒童の能力に應じて責任を持たしむべきで其以上のことをしてはならぬのである。兒童に日々爲すべき仕事を豫期せしめ、意識さす、時間割とか、研究案と言ふものは兒童に力强く働き、面倒臭いと言ふ感を與へないものである。大概の兒童は學校へ來る時には、時間割で要求されて居る仕事をしようとして來るのであつて、さうやることを當然の事と考へ、喜んでやるのである。

兒童に學校でやる樣に定つた義務を爲さしめることは、單に量の方面のみの影響ではない。兒童には其ベストを盡さぬことも又可能的な不道德であると知らさなければならぬのである。もし兒童が杜選な仕事をしたら罪せねばならぬ。此の兒童をして道德責任を以て仕事させることは全々教師の肩にかゝつて存して居るのである。

（五）學者であると言ふことも又管理の一要素である　提出された學科に親しみを持つて居ると言ふことも又管理をよくやる爲めには必要なことである。主人の目は腕以上だと言ふことを知らせるのは、商店の店先きでも又學校の教室の中

でも用ひてよい眞理である。如何なる教師も小學校でやつて居る多くの教科に熟達することは出來ないが、それでも教師は、兒童が熱心にやるかどうかと言ふことを見る目を持つことが出來、自からもとにかく一生懸命に教へることに努めることが出來るであらう。教師が一心にやりつゝある間に、仕事をせぬものを睨めて行けば、其先生の努力と意氣に影響されて子供は働くものである。教師の莊重な自信のある態度は、教師が或る教材について熱達して居なければ得られるものでなく、内的に分らぬことを承知して居ては出て來ない。不安を以て教授することほど兒童を毒するものはないのであつて、これがやがて兒童を不德ならしむる原因となるのである。進んだ教育觀を持つて居る教師は、其準備に大なる自信なくして教場に臨むものではないのである。日々の教授計畫を充分になし得る教師は、教育上の成功の鍵を握つたものと言つてよいのである。

五　諸種の刺戟について

教師が與ふる刺戟の性質が校風に與ふる影響や、仕事の成績に與へる結果は大

きなものである。刺戟とは行爲を勵ますものである。兒童が其努力を向ける遠い目的の觀念や決勝點と言ふ觀念である。此の刺戟は諸種に區別せられる。即ち自然的刺戟、人工的刺戟、高い刺戟、低い刺戟、消極的刺戟と積極的刺戟と言ふ樣に分類される。バークレイと云ふ人は有益な分類をして、其各々に對し個人的方面と云ふよりも社會的方面に訴へられる程度に應じて其價値を評價した。刺戟に對する反應の程度に應じて爲された學校での測定は有效なものであるが一般的には出來ないのである。唯特殊の事情にある個人についてのみ見得るものであるから。同じ客觀的のものでも願はしき目的を得ん爲めに用ひられたならば、成功をおさめ易いのであるが、生徒を嚇す爲めに用ひられる時にはうまくゆかぬものである。この子供にかう言ふ刺戟を用ひたらどうなるか等と心配して使ふことなしに、鼓舞奬勵は一般的に與ふる方が一般によいと言はれて居る。

(一)積極的刺戟と消極的刺戟　積極的刺戟は兒童の希望を通して鼓舞奬勵するものであるが、恐怖を感ぜしめて或ることを爲す樣に刺戟するよりも、よりよいのである。約束は胴喝よりも一層よいものである。兒童の氣質は兒童が或る事情

に遭遇した時最もよく見られる。卽ち或る兒童は、彼が成功せんことを希望し、他の兒童は失敗することを恐れるであらう。兒童の大多數が希望に滿ちて其時間を過すやうに兒童の作業を組立てる敎師は、兒童が自分全體として活動する全我的態度を發達さすと共に、兒童を最も有效に活動せしむる人である。

(二) 團體に訴へる刺戟と個人に與へる刺戟　群集的乃至社會本能に訴へる刺戟は個人を勵ます刺戟よりもよいものであつて、多く行ふべきものである。一般に云ふならば低ひ刺戟と云はれて居るものは個人的刺戟である。吾等の爲めに仕事をするのだと云ふことは私の利益の爲めに働くと云ふことよりも、よりよいことである。必要缺く可からざる時に自己集中せしめよ。然れば普通の發達を爲して、己れの學校、己れの級、己れの作業して居る學級と云ふことを考へる能力を生徒は得るに到るであらう。

(三) 得んとする唯一の目的が刺戟となる　刺戟の有效なりや否やと言ふことは、其刺戟とされた目的が何處まで實現されるかと感じた程度によるのである。高い刺戟として分類された多くの刺戟は多くの兒童が有して居るのである。何故

なれば約束された結果と言ふものは兒童の理解の程度を越えた遠い時期に於てのみ達せられるものであるからである。然も「勉强すると偉い人となるから勉强せよ」等と言ふ如きが其例で何時偉い人となるかそれは兒童には理解出來ぬ遠い時の問題であつて、然もそれは凡ての兒童の唯一の目的である。どこまで偉いものになれるかと言ふ感じの程度如何に依つて其刺戟の效果が違ふのである。

(四) 最もよき刺戟は生涯の理想となる　最もよい刺戟は兒童が學校卒業後も尙働き、一生價値あるものとなるのである。よい仕事を爲すことに依つて得た自分を自分が賞めると言ふ見方は敎師の賞讃よりはずつとよいものである。敎師の影響が如何に大きくとも、學校を卒業して仕舞へば其關係が斷えるのである。學校の大きな目的の一つは理想を發達さすのにあるのであるから兒童が自分のやつたことの中に自分の理想を認めて、それを考へ、評價すると言ふ能力を養ふことは兒童の行爲を發達さす上に有效なものであり、將來にも又非常に役に立つものである。清潔であり、物事を正確にし、勤勉で、完全で、禮儀正しい子供は、自分は不潔だ、不注意だ、怠惰だ、疎忽漢だ、不作法だと考へ、刺戟して居るが故にかゝ立派となつ

て現はれるので、かく考へて居ることは永く續き、それに賴る限り非難さるべき人間とはならぬのである。總ての兒童を勵まし其理想を通して、正しく行爲せしめ時間を使はせることは、それが理想通りに出來なくても、理想として永く續くであらう。其場合に種々の動機を利用して兒童を差別し、各自をして最もよく理想追求者たることを信ぜしめるのは敎師の技術である。兒童は一番よい點をつけてやるとか、休ませてやるとか、黑板を消す權利を得さしてやると言ふことで一生懸命に仕事をさすことが出來るかも知れぬ。然し品性に及す結果は如何にと考へて後直接の結果を得さしめることが大切であると考へる。此のやうに考へて行けば、普通用ひられて居る兒童刺戟の方法を評價することが出來よう。

（五）通常用ひられて居る刺戟賞與）　賞與は常に勝ち獲て居る二三人のものには積極的な强い刺戟となる。然し知識の劣つて居て常に優者となることの出來ぬものには恐怖を起させるものとなる。そしてそれに依つて最も刺戟させられることを必要とする大多數のものは、それが得られぬの故を以て無關心である。或程度の仕事をしたら誰れにでも得られると言ふ仕組になつて居る賞であるなら

ば、或る問題を解答したならは誰れにでも與へられると言ふ性質のものであるならば其效果は著しく廣められ賞を得ざるものをして嫉ましめ、不滿足を感ぜしめることを少くせしめることが出來るものである。

此の賞を用ふることに依つて兒童を學習せしめることの不可を說く最も著しき反對はかくの如くして學んだ學科は直きに忘れて仕舞ふと言ふことである。此は恐らく誇張された言に過ぎぬであらう。若し或る學科を學ぶなり、仕事をしたとしても、其動機は結果に對して略んど關係がないであらう。どんな手段に據つたとて學習した事項は動機如何に關らず多少は覺えて居るものである。直きに忘れて仕舞ふとは少し誇張し過ぎた意見である。急いで學習したり、僅かに學んだ所のものは、長く保つて居ることは出來ぬであらう。しかしかゝる結果は賞を與へて學習せしめた必然の結果だとは言へぬ。かう言ふ結果は何等兒童を刺戟しない樣な場合にでもよくあることを見ることが出來るのである。然し各種の方面から吟味して見ても賞を用ひて兒童を刺戟することは刺戟として高等なものであると言ふことは出來ないであらう、

(六)特權を與へたり作業を免除すること　或る仕事を行ふに當つて、特權を與へたり、免除することは非常によく刺戟として用ひられるのである。例へばよく勉强して來ると云ふ賞に自由に席を選ぶ權を與へたり、何時もやることがよく出來ると云ふので、試驗を免除したり、遲刻したこともなく缺席したこともないと云ふ兒童に、或る仕事をさせなかつたり、或る時間を休ませたりすることがある。かう云ふ形の賞は、級の中の大多數のものに與へることが出來るならば非常に有效なのである。兒童の或る一部のものに常にかゝる特權が與へられるならば、他の兒童は妬んで教師の最負などと云ふに到り一向價値の無いものとなるのである。又正規の時間の授業を拔きにした爲め、兒童に學ぶ價値あることを學ばしめずして名譽なりとの感を抱かせることも少なからずある。實際にこれをやると一生懸命にやることは或る學科を休む爲めだ等と云ふ變な感じを抱かせることになる。それであるから此のうな方法は級全體の兒童に及ぼし得るものであつて、然も餘り大切でない學科を授ける時にやるならばよいが然らざる限り有害である。

(七)兒童の作業の禁示　兒童がやつて居ることを禁示するやうな刺戟はなるべ

く制限したい。例へば書き方の時に或る惡戲な子供が惡戲したとする。其子供は最も奬勵して書方をやらさなければならぬのに、罰として仕事をさせなかつた爲めに、英雄的努力を以て兒童が仕事をするのを止めしめることゝなるからである。此のやうな禁示の最も著しい缺點は、今やつて居る仕事と無關係な餘計なことに兒童をして大變氣を付けしめるやうな結果になることである。兒童が習字をして居る狀態を見ると、或る非常にまづい子供が時として立派な字を書いて來ることを知る。かう云ふやうなことはとにかく其子供が一生懸命になつて色々やつた結果なのである。それを一寸惡い事をしたと言ふのでやらせなければ出來ないのである。それを止めさしたからとて、考へると言ふ大切な學校の作業を奬勵する上に何の關係もないのである、

(八)評點をつけたり落第するぞと云ふこと　評點をつけて兒童を刺戟する等と云ふことは古くから色々に論議されて來て居る所である。此等は何はともあれ兒童をして一生懸命にならしめる上には一番力强いものである。落第さすぞと言ふことも又評點をつけると言ふことゝ密接な關係を持つて居るが上級の兒童

とか學期の終りには非常に強く兒童の頭に響くものである。不幸にして落第するものがあると言ふと、其場合には其兒童は先生からも、他の兒童からも出來ぬと見込まれて仕舞ふ恐がある。そのやうな兒童には非常な心配を與へて、樂しき兒童期を破壞せしめるのである。落第と言ふことで常に脅かして居る敎師は兒童に對して殘忍な槍を振つて居るものであつて兒童を非常に神經過敏ならしめるものである。常に此のやうな子供は落第さすと言はなければ響かぬことになる。

此の評點は兒童の態度によりてつけるものか、又は或る學科の出來具合によつてつけるものかと言ふ問題が起る。此の問題については一般的にかくあるべしと言ふことを定めることが出來ないのである。成績について言へば子供は敎師が訂正して、評價せない中にどう云ふ點が與へられてどんな割合になるかと言ふことを正確に知つて居るのである。答案に付て此處が誤つて居ると言ふ時には、誤つて書いて仕舞つた後である。兒童の側で感ずることは、彼等が何が出るかと言ふことを知つて居たならば、そんな點は取らずに濟んだのであると感ずるであらう。一般に言へば兒童は書取り、話方、讀方等と分れて居る物を纏めて一〇點を

付けられてはよき評價を得ることが出來ぬと見出すであらう。幾つもの作業が重つて一學科となりて居るものは別々に評點を附した方が兒童の奬勵にもなり、兒童の豫期せる所をも了解し得てよいのである。

多くの學校で評點評語を永らく崇拜して來て居るのは悲しむべきことである。然も今日尙理想の方へ一歩も進んで居ないし大なる進歩を遂げたとも見ることが出來ないのである。時々理想的評語として滿足、不滿足の語を使ふべしとされて居るか一向に進んで居ない。兒童の刺戟として用ひられた評點は生徒間の比較に基く惡い競爭も少くすることが出來、兒童は又過去の通知簿と比較して見ると言ふやうな刺戟も失ふ。唯現在の作業にのみ專心するに到る。此の評點は上手に使へば生徒の能力を低下せしめ、品性陶冶の上に於ても大失敗を來すであらう。評點に付いては今少しく論じたいのであるが後に讓ることにして此處では一寸觸れて置くことにする。今まで多く試みられて居る點は一定數の試驗問題を出して其解答數に依りて點をつけたものであるが此れでは、兒童の能力は充分に知る